

2016（平成28）年度

教育と研究

久留米信愛女学院短期大学

目次

教授

関 聡	・ ・ ・ 3
阿久根 政子	・ ・ ・ 10
江越 和夫	・ ・ ・ 16
椎山 克己	・ ・ ・ 24
山下 浩子	・ ・ ・ 31
石井 妙子	・ ・ ・ 40
原 浩美	・ ・ ・ 49

准教授

重永 茂	・ ・ ・ 57
進藤 務子	・ ・ ・ 63
山村 涼子	・ ・ ・ 70
眞部 眞紀子	・ ・ ・ 79
池田 可奈子	・ ・ ・ 86
生地 暢	・ ・ ・ 93

講師

渡邊 由恵	・ ・ ・ 102
-------	-----------

助教

新井 眞実	・ ・ ・ 111
櫻井 晋伍	・ ・ ・ 119

助手

岡 輝美	・ ・ ・ 125
眞谷 智美	・ ・ ・ 130
高松 幸子	・ ・ ・ 135

教員研究会資料	・ ・ ・ 140
---------	-----------

学生の授業評価に基づく優秀科目	・ ・ ・ 143
-----------------	-----------

所属学科	職名	氏名
幼児教育	教授	関 聡
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科2年	保育士選択必修
モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼児教育学科2年	保育士選択必修
研究分野		
<p>1、教育哲学の分野 修士論文らしいの生涯のテーマである教育活動及び教育学の独自性に関する研究である。教育という人間の営みについて、その領域独自の論理があるという仮説に基づき、教育的思考・教育的関係・教育的価値等について研究している。</p> <p>2、保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成に関して、カリキュラム論を中心に研究している。本学の保育者養成に資すること、地域の保育の質の向上につながることを念頭に置いて研究を進めている。</p> <p>3、カトリック保育の分野 カトリック保育とはなにか。その理念・実践・保育者養成について、カトリック短期大学で保育者養成に携わる者として研究を進めている。「信愛保育の創造」をテーマにしたい。</p> <p>4、モンテッソーリ教育の分野 モンテッソーリ教育に関する理論的研究。モンテッソーリ教育法について、その成立過程、教育理論、教育方法、現職教育などについて研究を行っている。</p> <p>5、保育現場との共同研究の分野 平成23年度から信愛幼稚園教育において、年長クラス男児に剣道の指導を行っている。小学生以上の少年剣道の指導に関しては、いくつかの先行研究及び指導書があるが、幼稚園児指導の研究は見当たらない。信愛幼稚園との共同研究を進めたい。</p> <p>6、大学教育の分野 大学教育の改革について文部科学省のプロジェクトに沿って研究を行なっている。これまで、「地域参画型短期大学教育」「卒業生のマンパワーを活用したキャリア教育」「10年間継続した就業力育成教育」等について研究と実践を行ない、平成24年度～平成26年度は「産業界のニーズに対応した授業改善・充実体制整備事業」における「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」に取り組み、「キャリア教育の開発」について研究・実践を行ってきた。</p> <p>7、カトリック教育の分野 高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 教育哲学に関する研究

西洋教育思想について研究を行った。コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト・ケイ・デューイについてその業績をまとめ、その成果を『新・教育学のグランドデザイン』（共著）八千代出版、第 2 章「教育の諸理論」にて発表した。

2. モンテッソーリ教育に関する研究

①理論研究 モンテッソーリ教育の成立過程について研究する。とくにモンテッソーリ用語の発現・展開の経緯に注目し、モンテッソーリ教育の日本化・現代化の道を探った。

②実践研究 現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習・リカレント教育を進めた。

3. 現場との共同研究

久留米信愛女学院幼稚園において実施している幼稚園剣道の指導について研究を進めた。竹刀操作の技能向上だけでなく、年長児の集中力・随意運動・忍耐力など心身の両面から少年剣道の意義を探った。

4. 子育て支援に関する研究

子育て支援についての研究を行った。とくに現代の育児に必要な子ども観の形成、ファミリーサポート事業に必要とされる人権意識、カトリックに基づいた人間観を論じ、その成果を「ファミリーサポートセンターくるめ」による活動に生かした。

5. カトリック教育の分野

高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んだ。設立母体である「シヨファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践した。

6. 大学の教育改革

今日の大学、とりわけ地方・小規模・短期・大学を論じ、『全私学新聞』の「論壇」に載せた。

平成 28 年度の研究の成果

(著書)

1. 『新・教育学のグランドデザイン』共著 平成 29 年 3 月 八千代出版 (9~21)

(評論)

1. 「論壇 安倍内閣の『地方創生』への要望・期待 私学助成に社会貢献係数の導入等要望」単著 平成 29 年 2 月 『全私学新聞』第 2399 号

(書評)

1. 「現代に生きるマリア・モンテッソーリの教育思想と実践」単著 平成 29 年 3 月 『モンテッソーリ教育第 48 号』日本モンテッソーリ協会 (学会)

(司会)

1. 「研究発表」平成 28 年 8 月 日本モンテッソーリ協会 (学会) 全国大会 研究発表・司会
2. 「研究発表」平成 28 年 10 月 日本幼児教育学会全国大会 研究発表・司会

平成 26 年度及び 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「教職における実践的力量形成のための授業実践」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』(59~68)

(報告)

1. 「保育者養成校における課題—養成校、保育現場、保護者の視点から—」共同 平成 27 年 4 月 『幼児教育研究第 22 号』(53~54)

2. 「保育者養成校と実習園の関係の在り方を考える」単独 平成 26 年 4 月 『幼児教育研究第 21 号』(40～46)

(書評)

1. 『知っておくべき世界の偉人⑱ モンテッソーリ』岩崎書店 平成 28 年 3 月 『モンテッソーリ教育第 48 号』日本モンテッソーリ協会 (学会)

(司会)

1. 「研究発表」平成 27 年 8 月 日本モンテッソーリ協会 (学会) 全国大会 研究発表・司会

2. 「研究発表」平成 27 年 10 月 日本幼児教育学会全国大会 研究発表・司会

3. 「保育者養成における課題」共同 平成 26 年 7 月 日本幼児教育学会全国大会シンポジウム・司会

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(著書)

1. 『新しい世界のための教育』 M. モンテッソーリ著 エンデルレ書店 単独翻訳 平成 3 年 3 月

2. 『教育方法技術』共著 八千代出版 平成 5 年 3 月

3. 『教育原理』共著 保育出版 平成 12 年 4 月

4. 『モンテッソーリ教育用語辞典』共著 学苑社 平成 18 年 10 月

5. 『新・教育学のグランドデザイン』共著 八千代出版 平成 29 年 3 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本幼児教育学会	学会誌『幼児教育研究』の編集委員を務めている。 平成 28 年度は全国大会 (於: 実践女子大) に参加し、研究発表の司会を務めた。
日本モンテッソーリ協会 (学会)	協会 (学会) 理事を務めている。 学会誌『モンテッソーリ教育』の編集委員を務めている。 「K. ルーメル学術奨励賞」の選考委員を務めている。 平成 28 年度は全国大会 (於: 広島) に参加し、研究発表の司会を務めた。
日本カトリック教育学会	大会等是不参加であった。
日本教育学会	大会等是不参加であった。

平成 29 年度 研究計画

1. モンテッソーリ教育に関する研究

モンテッソーリ教育の成立過程について研究する。とくにモンテッソーリ用語の発現・展開の経緯に注目し、モンテッソーリ教育の日本化・現代化の道を探りたい。現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習・リカレント教育を進める。

3. 現場との共同研究

久留米信愛女学院幼稚園において実施している幼稚園剣道の指導について研究を進める。先行研究を精査するとともに、資料的な発表から始める。竹刀操作の技能向上だけでなく、年長児の集中力・随意運動・忍耐力など心身の両面から少年剣道の意義を探りたい。

4. 子育て支援に関する研究

子育て支援についての研究を行う。とくに現代の育児に必要な子ども観の形成、ファミリーサポート事業に必要とされる人権意識、カトリックに基づいた人間観を論じ、その成果を「ファミリーサポートセンターくるめ」による活動に生かす。

5. カトリック教育の分野

高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>学生の積極的学修を促進する。 「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の質問項目の平均評価を 4.4 以上にする。27 年度の平均評価が「M 教育法 I」で 4.3、「M 教育法 II」で 4.0 であることから到達目標を 4.4 に定めた。</p>	<p>○「モンテッソーリ教育法 I」問 2 <u>3.8</u> ○「モンテッソーリ教育法 II」問 2 <u>3.1</u> 「M 教育法 I」「M 教育法 II」ともに前年度から大きく評価が下がった。問 2 のみならずすべての評価が例年にない低評価である。別欄で精査する。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
モンテッソーリ教育法 II	2 年全 (選択)	平成 28 年 12 月 19 日

自己評価	他者評価
<p>【本授業について】 本科目は少人数で行なう授業 (選択授業で興味のある学生しか履修しない) のため、雰囲気作りが容易であり、①理解度の確認、②質問の奨励、③発問や指示、④授業態度の注意、⑤双方向的やりとりなどが行ないやすい。当該授業においても概ね評価できるものであった。</p> <p>【他の授業を参観して】 自分の板書の字の下手さと誤字の多さを反省する機会となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時間のテーマがはっきり示されていた。 ・聞き取りやすい発声であった。 ・双方向的授業が成立していた。 ・集中して学生が参加していた。 ・理論と実践が融合していた。 ・雰囲気づくりが上手だった。 ・学生の理解度に注意を払っていた。 ・学生が楽しそうだった。
	参加教員
	森光義昭教授 新井真美助教

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

- 「モンテッソーリ教育法 I」総合評価 4.3 (27 年度 4.7) (26 年度 4.6)
○「モンテッソーリ教育法 II」総合評価 4.2 (27 年度 4.7) (26 年度 4.6)

【課題】

近年にない低評価である。本科目は選択科目であり、毎年度、意欲ある学生が集まり集中力のある生き生きとした授業が展開されるのであるが、本年度は居眠りも多く、教員からすれば教育効果の低い、学生からすれば満足度の低い結果となった。猛省している。

第一の要因は、学生との教育的関係の在り方である。前年度までは 1 年時の授業があり、ある程度関係が成立した条件での授業であった。今年度の学生はいきなり 2 年生で顔合わせした関係であり、上手く教育的関係が作り上げられなかった。学生からすれば、2 年生での学長との授業ということで、取っ付きにくかったのかもしれない。しかし、非常勤の場合と同じ条件であり、29 年度の授業は学生との関りの改善に努めたい。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>学生とのよき教育的関係を成立する。 問 14、先生は、熱意を持って授業を行っていた。 問 15、先生は、学生に対して愛情と尊敬の念をもって、授業を行っていた。 このふたつの問いの評価を <u>4.5 以上</u>にする。</p>	<p>双方向的授業を心がける。 質問しやすい雰囲気をつくる。 保育者になることへの使命感を喚起する。 一人ひとりの子どもに対する尊敬の自覚をつくる。 信愛で学んだ信愛保育の実践者養成の仕上げの科目ととらえる。</p>

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
子どもを見る目	平成 28 年 6 月 17 日	ファミリーサポート久留米	くるるん
子どもを見る目・子どもの人権	平成 28 年 9 月 7 日	久留米市子ども未来部	くるるん
子どもを見る目・子どもの人権	平成 29 年 2 月 7 日	久留米市子ども未来部	くるるん

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米市学術研究都市づくり推進協議会 委員 高等教育コンソーシアム久留米 理事 九州地区私立短期大学協会 監事 久留米市剣道連盟 監事 COC 外部評価委員	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	久留米市 コンソーシアム久留米 九短協 久留米市剣道連盟 和歌山信愛女子短期大学

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
教育学	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 31 日	八女筑後看護高等専門学校

その他特記事項

内容	年 月 日
○少年剣道指導 久留米市スポーツ少年団指導 久留米信愛女学院幼稚園指導	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日

平成 29 年度 社会的活動計画

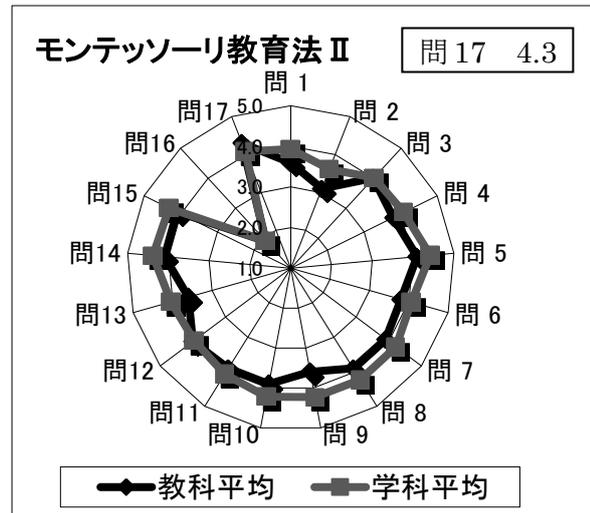
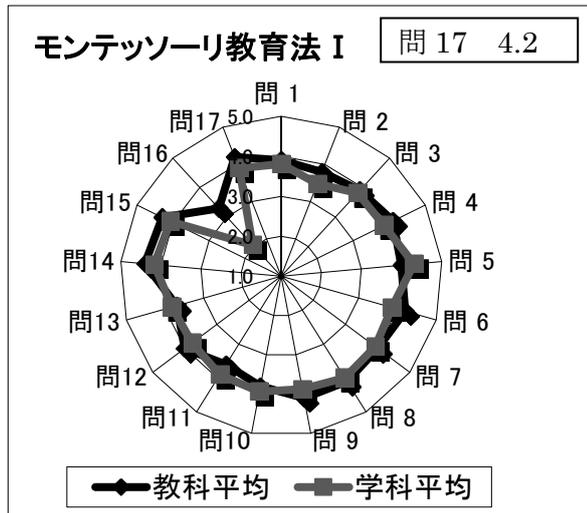
- 講演等
久留米市子ども未来部の依頼によるもの。3 回程度
モンテッソーリ教育に関する現職研修会。2 回程度
モンテッソーリ教育に関する保護者への講演。1 回程度
- 他団体等への協力
久留米市学術研究都市づくり推進協議会 委員
高等教育コンソーシアム久留米 理事
九州地区私立短期大学協会 監事
久留米市剣道連盟 監事
和歌山信愛女子短期大学 COC 外部評価委員
- 他大学への非常勤
八女筑後看護高等専門学校
- 少年剣道指導
久留米市スポーツ少年団指導
久留米信愛女学院幼稚園指導

平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼教2年	選択	問 16 の数値を見ると授業時間以外の学修が少ないようです。モンテッソーリ演習室はいつでも利用できますので、教具活動の練習に使ってください。
モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼教2年	選択	<p>MI と同じく授業以外の学修が少ないです。とくにモンテッソーリ園に就職が決まった学生は、①教具の名前を憶えること、②教具の扱い方の基本を身につけること、③教具の特徴を理解すること。以上のために、授業時間外でもM演習室を十分に利用してください。</p> <p>尚、履修届を提出していない場合でも、M園へ就職が決まった学生は、その時点からでも結構ですので聴講してください。</p>

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	阿久根 政子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
英語 Ⅰ・Ⅱ 英語 Ⅲ・Ⅳ 信愛教育Ⅰ・Ⅱ 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科1年 幼教・フード・ビジ2年 全学科・全学年全クラス 幼児教育学科2年	卒選必・免許・資格選必修 卒選必・免許・資格選必修 卒業必修 選択
研究分野		
<p>1. イギリス文学の分野 イギリス文学に現れたキリスト教的要素及び聖書的イメージに関する研究を行い、作品における作者の宗教性についての研究を行う。</p> <p>2. カトリック教育の分野 カトリック学校の立場からカトリック教育はいかにあるべきか、大学における教育者のあるべき姿を模索研究。</p> <p>3. 絵本・民話と宗教（特にキリスト教）の分野 絵本や民話の中に描かれた宗教性の研究及び子どもの宗教教育の研究。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』における聖書の役割についての継続研究と『The Life of Our Lord』に関する研究を行った。

平成 28 年度の研究の成果

(論文)

『クリスマス・キャロル』における聖書の役割」単著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 39 号』(1-10)

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

『信愛教育 I～IV』アンケート調査の分析に基づく考察

共著(筆頭) 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』(7-16)

本教員の主たる研究の成果(5 編以内)

1. 『ニューマンの思想と活動』L.F. パーマン著 単独翻訳 中央出版社 平成 6 年 4 月
2. 『The Selfish Giant』における聖書のイメージ
単著 『キリスト教文学 4 号』昭和 59 年 6 月
3. 『獄中記』におけるワイルドのキリスト像
単著 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 33 号』平成 22 年 9 月
4. 「ワイルドと聖書 — 『獄中記』におけるワイルドの福音書注解」
単著 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 34 号』平成 23 年 9 月
5. 『信愛教育 I～IV』アンケート調査の分析に基づく考察
共著(筆頭) 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
大学英語教育学会	全国大会参加
日本カトリック教育学会	全国大会不参加
日本キリスト教文学会	全国大会参加

平成 29 年度 研究計画

1. Charles Dickens 作品研究
『The Life of Our Lord』について (継続)
2. 絵本と宗教教育 — 外国(英米)の絵本と日本の絵本の比較を通して、その宗教性をさぐる。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 常に学生のレベルに合わせた授業を行う</p> <p>【成果の指標】 アンケート項目問⑧「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行い、ゆっくりと話す。</p>	<p>・授業総合評価の数値から見ると、 27 年度英語 I 平均 (3.0) ➡28 年度 (4.0) 27 年度英語 II 平均 (3.1) ➡28 年度 (4.4) 27 年度英語 III (4.5) ➡28 年度 (5.0) 28 年度は前年度に比べ、0.5 ～1.3 数値が上がり</p> <p>【目標】【成果の指標】の成果が見られた。 28 年度は、履修した学生の質が良かったとも言える。 「学生のレベル」にいつも目を逸らせないように気を付けて授業を行うことを忘れないようにすることが大切。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
英語 II	幼児教育学科 1 年 B クラス	平成 28 年 10 月 24 日 (月) 4 限目

自己評価	他者評価
<p>今年度は受講生が 10 数名という少人数で、質の良い学生が履修していたこともあり、授業がやりやすいクラスであった。</p> <p>今回、授業のはじめに Warming Up として、前回の復習を兼ねて、「The North Wind and The Sun」の学生自作の絵を用いた発表を行った。学生の隠れた面を把握することが出来た。</p> <p>後期から、「復習ノート」記入の時間を Group Work で行うことにした。公開授業参観者のコメントにも書かれていたように、この作業は学生にとって、効果的かつ有効な時間であったようである。この作業の後は、Group ごとに代表者が解答を発表、他の Group はその答えが正しいか、間違っていれば訂正することで、全員が参加するように促しが必要である。</p>	<p>・復習プリントの活用で、一回分の授業内容の振り返りと定着に効果的で、Group Work を行うことも有効だと感じた。</p> <p>・学生がノートし易いスピードであった。</p> <p>・文の構造、前置詞の説明等絵を描いたり、色を使い分けるなど、視覚的にも学生の理解を促す板書であった。</p> <p>・学生が発言しやすい雰囲気であった。</p> <p>・個人差に配慮がなされ、学生が安心して学び合う要素になっていた。</p> <p style="text-align: center;">参加教員</p> <p style="text-align: center;">重永茂准教授、渡邊由恵講師、新井真実助教</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>27 年度の「28 年度に向けての改善策」である『英語 I ・ II』の授業の速度を下げ、学生たちの理解度を確認しながら、授業を進める」に合わせ、28 年度は、学生からのアンケート記述から、「速度をゆっくり」「ノートに書く時間が欲しい」との要望に応じて、「ノート整理」ができるように Group Work の時間を設定。学生同士で「復習ノート」の確認、解答を記入し、お互いに教え合うことによって学びが定着した。</p> <p>29 年度も学生の理解の速度を把握しながら、学生同士の Group Work を大切にして授業を進めたいと思う。</p>
--

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】(平成 28 年度継続) 常に、学生のレベルに合わせた授業を行う</p> <p>【成果の指標】 アンケート項目問⑧「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行い、ゆっくりと話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を確認しながら授業を行う。 ・板書して、繰り返し、説明をする。 ・話し方を明瞭にするために、分かりやすい、やさしい言葉を用い、ゆっくり話すように心がける。 <p>(平成 28 年度継続)</p>

平成 28 年度 社会的活動報告

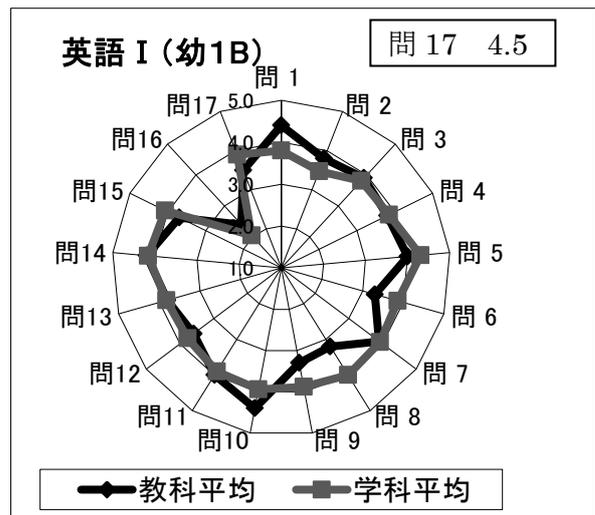
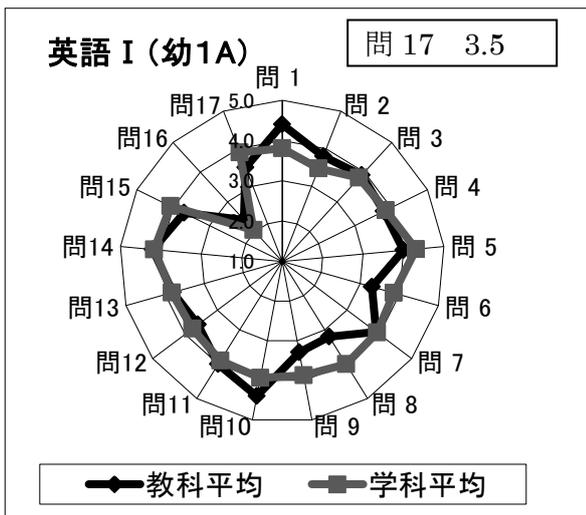
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
なし			
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
なし			
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
なし			
その他特記事項			
内容	年 月 日		
なし			
平成 29 年度 社会的活動計画			
なし			

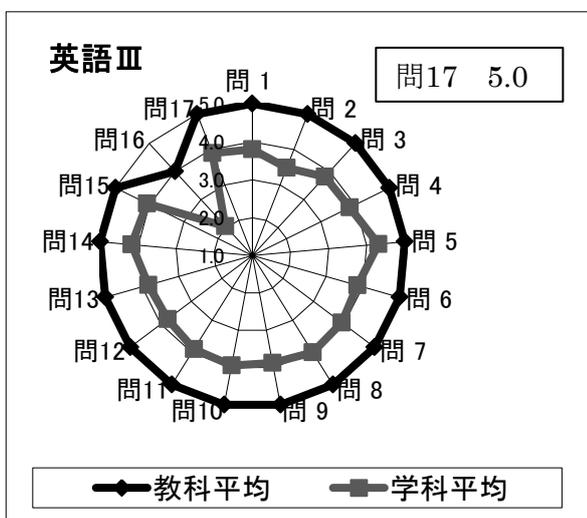
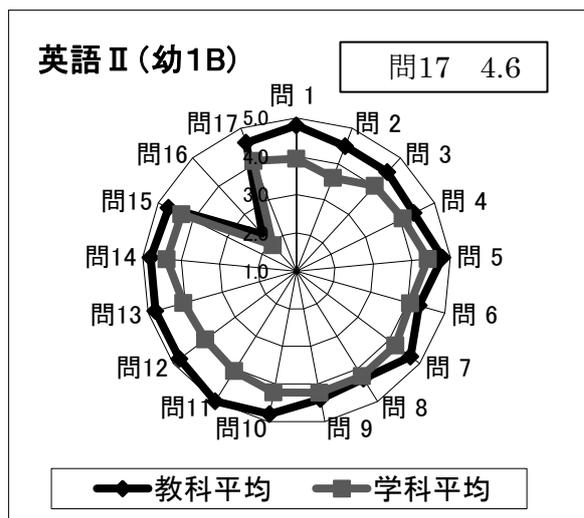
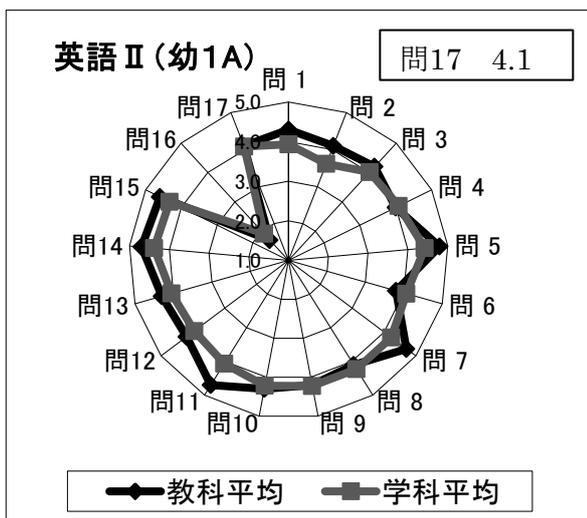
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
英語Ⅰ	幼教1年	卒選必 免許・資格 選必	英語が苦手な学生にも「分かりやすい説明」をとの要望に応じて、特に「英語Ⅰ」では、授業をなるべくゆっくりと進めるようにしたい。分からないときは質問してください。
英語Ⅱ	幼教1年	卒選必 免許・資格 選必	(4.1、4.6)の数値の結果を見て、「復習プリント」の利用が効果的であったことを示している。このプリントの復習時間数と成績向上は結果的に正比例していました。頑張ってください。
英語Ⅲ	幼教2	卒選必 免許・資格 選必	前年度の「話し方」「説明の仕方」の数値(4.2)という結果を受けて、他の項目の数値(4.5)と同じくらいになるように工夫した結果、5.0という結果になった。復習・予習時間も作りましょう。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	江越 和夫
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
食品学総論	フード1年	卒業必修・免許必修
食品学各論	〃	卒業選択・免許必修
食品学実験	〃	卒業選択・免許必修
食品衛生学	〃	卒業必修・免許必修
食品衛生学実験	〃	卒業選択・免許必修
栄養士基礎演習（3回担当）	〃	卒業必修
食品加工学実習	フード2年	卒業選択・免許必修
栄養士総合演習Ⅰ（6回担当）	〃	卒業選択
卒業セミナー	〃	卒業選択
研究分野		
<p>1. 食品衛生学分野</p> <p>変異原性物質は、高タンパク質食品を加熱すると産生し（焼肉・焼き魚）、健康な人の血液から検出される。本物質による危害の軽減を目指して、「抗変異原性を有する食品の検索」、「食物繊維や乳酸菌による変異原性物質の吸着」に関する研究を行っている。</p> <p>さらに、「身体の黄色ブドウ球菌分布」及び「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との関連性」を調べている。</p> <p>2. 食品学分野</p> <p>「食と健康」の観点から、各種食品中の機能性成分（メラトニン、EPA、DHA、ポリアミン等）を分析している。</p> <p>3. 食品加工学分野</p> <p>「豆腐の食感と凝固剤」について検討している。</p> <p>4. 栄養士養成研究</p> <p>「基礎学力の向上および栄養士としての意識の高揚」を目指して、フードデザイン学科でFD活動を行っている。</p> <p>5. その他</p> <p>入学者選抜方法（推薦、試験、試験、センター）の妥当性を検証するべく、平成25・26年度卒業生のGPAを統計学的に解析している。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

平成 28 年度の研究計画は以下の 1～6 である。それぞれの概要を示した。

1. 「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分布」についてまとめ研究紀要に投稿する。
→研究紀要に掲載された。
2. 学科で共同研究している「栄養士養成研究」について研究紀要に投稿する。
→研究紀要に掲載された。
3. 「ココナッツオイル抽出残渣の有効利用」に関する産学官共同研究を継続する。
→ココナッツオイル抽出残渣添加キャラメルは舌触りがザラザラしているので、この残渣を分解する微生物を探索することになった（生物食品研究所が担当）。
4. 「アイスクリーム気泡の大きさと滑らかさ」について検討する。
→高大連携での実施を目的に、「手作りアイスクリームの加工方法」を検討した。できたアイスクリーム気泡の直径は 52.6 ± 34.0 マイクロメートルで市販品より有意に大きかった。気泡が大きくなると、口中での溶けやすさは増すが濃厚感は低下した。
5. 薄層クロマトグラフによる EPA, DHA 分析方法を検討する。
→論文を調べ、シリカゲルを吸着剤として分析できることが分かった。
6. ジャガイモのソラニン量とクロロフィル量との相関について調べる。
→ジャガイモ芽に含まれる緑色色素のクロロフィルおよび有毒成分のグリコアルカロイド（ソラニン、チャコニン）の定量方法を確立した。

研究計画に挙げなかったが以下のテーマについて検討した。

→入学者選抜方法（推薦、試験、試験、センター）の妥当性を検証するべく、平成 25・26 年度の 3 学科卒業生 GPA の有意差を調べた。

平成 28 年度の研究の成果

（論文）

1. 「栄養士養成研究（4）学習支援に対する効果の 2 年間の分析（共著）」平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 39 号（21～25）

（その他）

1. 「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分布（共著）」平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 39 号（39～43）

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

（論文）

1. 「米のメラトニン含量（共著）」平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 37 号（17～22）
2. 「栄養士養成研究（2）学習支援に対する効果（共著）」平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 37 号（41～47）
3. 「高速液体クロマトグラフィーによる果実中メラトニンの定量分析（共著）」平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 38 号（1～6）
4. 「栄養士養成研究（3）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響（共著）」平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 38 号（25～33）

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

1. 「Adsorption of Heterocyclic Aromatic Amines by Low Molecular Weight Cellulose」(共著)『食品衛生学雑誌(38巻6号)』,1997年12月
2. 「ラット排泄物中での Trp-P1 及びその代謝物の挙動」(共著)『食品衛生学雑誌(42巻4号)』,2001年7月
3. 「HPLCによる生乳中メラトニンの定量」(共著)『日本食品科学工学会誌(54巻3号)』,2007年3月
4. 「ラットにおける Trp-P1 の代謝排泄に及ぼすゴボウとキャベツ粉末の影響」(共著)『日本食品科学工学会誌(56巻4号)』,2009年4月
5. 「高速液体クロマトグラフを用いた米飯中メラトニンの定量法」(共著)『日本食品科学工学会誌(59巻3号)』,2012年3月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
1. 日本食品衛生学会	不参加
2. 日本食品科学工学会	不参加

平成 29 年度 研究計画

1. 「栄養士養成研究」について研究紀要に投稿する。
2. 「HPLCによるジャガイモ芽クロロフィルおよびグリコアルカロイドの定量」について研究紀要に投稿する。
3. 「入学者選抜方法別による成績追跡調査」について研究紀要に投稿する。
4. 薄層クロマトグラフによる EPA, DHA 分析方法を検討する。
5. 豆腐の食感に及ぼす凝固剤及び加熱温度について検討する。
6. ジャガイモの表皮や芽のソラニン量とクロロフィル量を調べる。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度のFD宣言とその評価

FD宣言	自己評価			
<目標> 授業に対する熱意、学生に対する愛情を持って(初心に帰って)授業に臨む。	問 1 4		問 1 5	
	食品学総論	4.1→4.3 +0.2	4.1→4.3	+0.2
<成果の指標> 問 1 4 (熱意) 及び問 1 5 (愛情) の評価を指標とする。	食品学各論	3.8→3.9 +0.1	3.9→4.1	+0.2
	食品衛生学	3.9→4.2 +0.3	3.8→4.1	+0.3
	食品学実験	4.0→4.3 +0.3	3.9→4.3	+0.4
	食品衛生学実験	4.1→4.0 -0.1	4.0→4.2	+0.2
	食品加工学実習	3.8→4.1 +0.3	3.6→3.9	+0.3
平成 28 年度の間 1 4 及び問 1 5 の評価は、27 年度と比べ幾分上昇した。				

公開授業とその評価				
公開授業の科目名	学年・クラス			実施日時
食品学実験	フードデザイン学科 1年			平成 28 年 7 月 19 日 (火)
自己評価		他者評価		
<p>本科目は栄養士必修科目であり、同時期開講の講義科目で学んだ内容を、自ら実験して理解を深めることを一つのねらいとしている。意欲的な学生が、積極的に授業に参加し、実験は順調に進行した。しかし、内容を理解できずに実験に参加できないで私語をする学生が数名いた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高い学生は真剣に聴いているが、そうでないものは居眠りしている。 ・話し方は、明瞭で聴き取りやすかった。 ・興味の無い学生をいかに振り向かせるかが迷いどころである。 		
		参加教員		
		石井妙子教授、山村涼子准教授		
学生の授業評価に対する自己評価と改善策				
<p>担当 6 科目の授業評価を以下に示した。問い 2、問い 3、問い 4 及び問い 17 の評価の平均は、平成 27 年度よりもわずかに上昇した。しかし、問い 17 の総合評価 4 以上が 6 科目中 1 科目のみである。来年度は、問い 17 の評価 4 以上の科目が増えるように検討する。</p>				
科目	問 2 (質問) H27→H28	問 3 (理解) H27→H28	問 4 (さらに) H27→H28	問 17 (総合) H27→H28
食品学総論	3.3→3.5	3.5→3.5	3.3→3.4	3.7→3.5
食品学各論	3.3→3.5	3.4→3.5	3.4→3.8	3.5→3.5
食品衛生学	3.3→3.5	3.3→3.5	3.1→3.7	3.5→3.9
食品学実験	3.3→4.0	3.4→3.7	3.3→3.5	3.5→4.0
食品衛生学実験	3.6→3.7	3.4→3.7	3.2→3.6	3.7→3.8
食品加工学実習	3.6→3.6	3.8→3.8	3.7→3.5	4.0→3.9
平均	3.4→3.6	3.5→3.6	3.3→3.6	3.7→3.8
平成 29 年度 教育活動計画				
平成 29 年度の F D 宣言		平成 29 年度の教育力向上のための計画		
<p>目標：学生の理解を確認しながら授業をすすめる。</p> <p>指標：問い 3 (授業内容を理解できた)、問い 17 (総合評価)</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 授業の最後 5 分間程重要事項を確認する。 ② 実験・実習レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する。 ③ 重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。 ④ 視覚的な授業を行う。 ⑤ 学会誌等から得た新知見を紹介する。 		

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年 月 日
<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム久留米広報交流部会委員 ・「青少年のためのサイエンスモール in くるめ 2016 (高等教育コンソーシアム久留米主催)」での本学担当ポスターの作成 	平成 28 年 4 月～29 年 3 月 平成 28 年 12 月 24～25 日

平成 29 年度 社会的活動計画

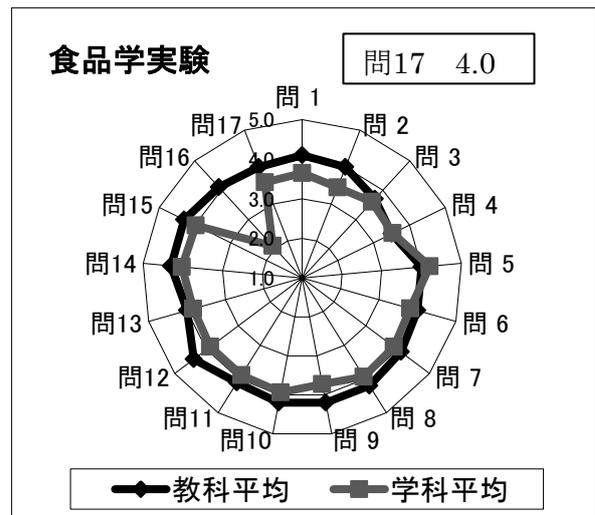
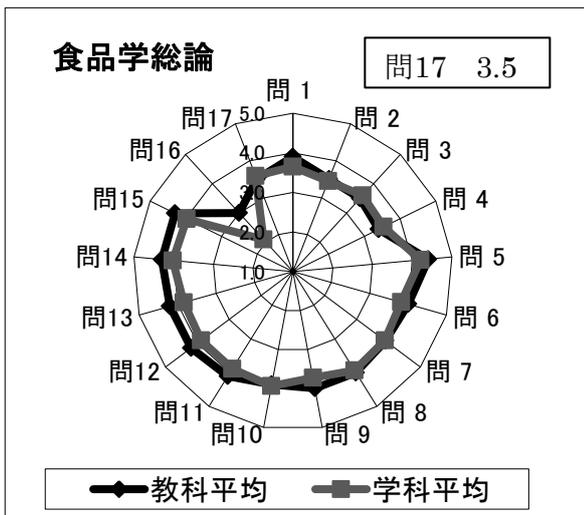
<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム久留米広報交流部会委員

平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

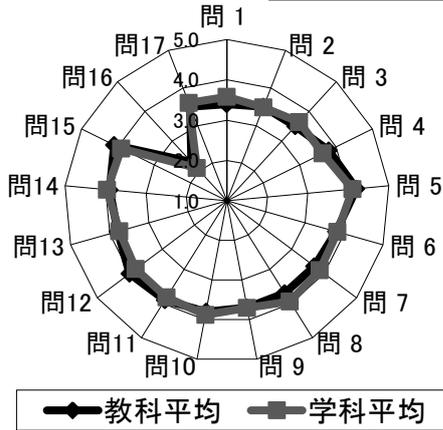
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）



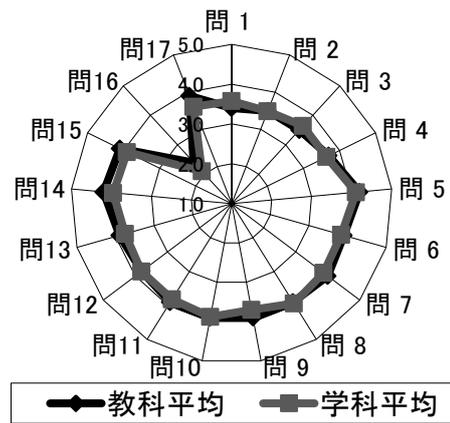
食品学各論

問17 3.5



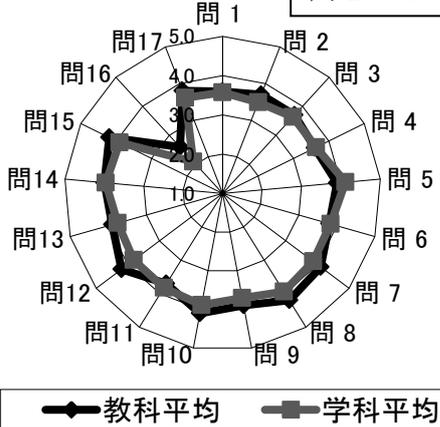
食品衛生学

問17 3.9



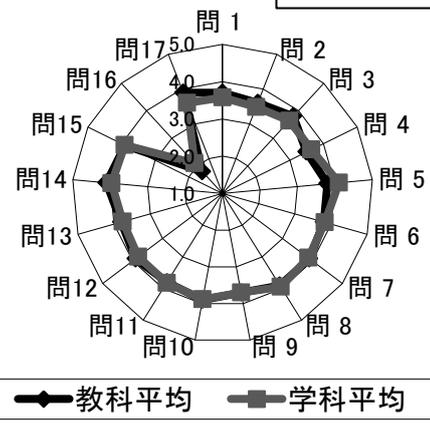
食品衛生学実験

問17 3.8



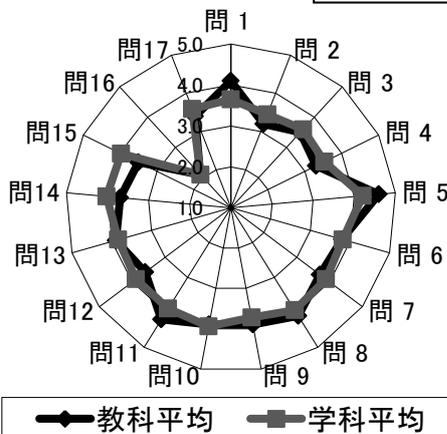
食品加工学実習

問17 3.9



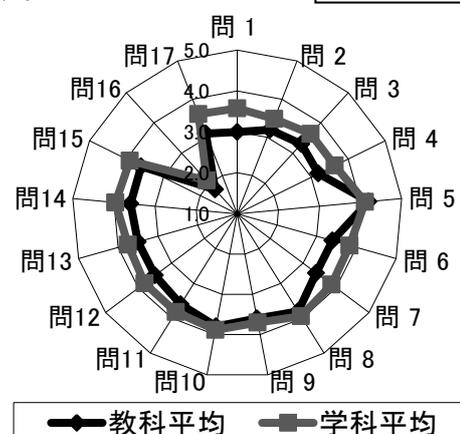
栄養士基礎演習

問17 3.4



栄養士総合演習 I・II

問17 3.1



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
食品学総論	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修	問2（質問）の評価3.5を受け、授業中に質問しやすい雰囲気作り（授業中に質問時間を設定等）を検討したい。不明な点をそのままにしておくと、学習意欲が低下するので積極的に質問に来てほしい。
食品学実験	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問3（理解）の評価3.7より、理解せずに実験すると「レポートの結果や考察」が書けないので配布資料をよく読んで取りかかることが重要です。食品学総論と関連付けると理解が深まります。
食品学各論	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問4（さらに）の評価3.8を受けて、授業への興味を持たせるようなテーマ（注目されている食品の機能性成分等）と関連付けながら講義をすすめていきます。
食品衛生学	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修	問4（さらに）の評価が3.7より、本科目で学んだ内容は、同時期に開講している食品衛生学実験で確認することにより、理解が深まり興味がでてくると思われます。
食品衛生学実験	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問4（さらに）の評価が3.5より、内容を理解できずに実験しても、レポートの結果や考察がかけません。オフィスアワー等を利用して質問に来てください。
食品加工学実習	フードデザイン学科2年	卒業選択・免許必修	問4（さらに）の評価3.5を受け、本科目の内容は、すでに食品学総論・各論、食品衛生学や調理学で学んでいます。これらの科目を復習すると理解が深まり興味がでてきます。
栄養士基礎演習（化学）	フードデザイン学科1年	卒業必修	問3（さらに）の評価3.3を受け、学んだ内容は食品学総論・各論、食品衛生学及び食品学実験等で出てきます。そのつど、復習しながら理解を深めることが重要です。
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（食品学総論・各論、食品衛生学）	フードデザイン学科2年	卒業選択	問2（調べ）の評価が3.2と低い。管理栄養士国家試験や栄養士実力認定試験の過去の問題を自分で調べて解答して、本科目を受講するとかなり実力がつきます。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	椎山克己
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
器楽合奏 音楽表現 保育・教職実践演習（幼稚園） 保育内容 表現 音楽保育（不開講） 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科 2年 幼児教育学科 2年 幼児教育学科 2年 幼児教育学科 1年 幼児教育学科 2年 幼児教育学科 2年	卒業必修 卒業選択、免許必修、資格選択必修 卒業選択、免許・資格必修 卒業選択、免許・資格必修 卒業選択、資格選択必修 卒業選択、資格選択必修
研究分野		
<p>1. 音楽教育の分野</p> <p>① 幼児期の音楽教育についての研究。幼稚園教育要領・保育指針に示される領域「表現」の観点から、教育実践のプログラム研究を行っている。</p> <p>② 吹奏楽を通じた生涯教育としての音楽教育の研究。スクールバンドを主体としたコミュニティによる吹奏楽活動を通して、生涯教育における音楽教育の在り方、吹奏楽指導法について研究を行っている。</p> <p>2. 保育者養成の分野</p> <p>保育士および幼稚園教諭の養成に関する研究。カトリック保育について、並びに、子育て支援の活動に対する保育者養成校が果たす役割・課題について研究を行っている。</p> <p>3. 演奏の分野</p> <p>クラリネットの演奏法についての研究。演奏活動を通してクラリネットの奏法、クラリネット作品の研究を行っている。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 音楽教育に関する研究

久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団の活動を通して、生涯教育における吹奏楽活動に関する実践研究ならびにマーチング指導に関する実践研究を行った。

2. 子育て支援活動における「信愛つどいの広場」事業の現状分析を実施した。
3. 保育者に対するリカレント教育について、教員免許状講習の実施を通して基礎研究を行った。
4. 保育者養成課程におけるアクティブラーニングについての共同研究を行った。
5. クラリネットと声楽のアンサンブル演奏法についての実践研究を行った。

平成 28 年度の研究の成果

(論文)

1. 「地域子育て支援拠点事業『信愛つどいの広場』の現状と課題」 単著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』(45～50)

(演奏)

1. 「音楽の贈り物」 共同 平成 28 年 11 月 久留米連合文化会洋楽部 久留米シティプラザ久留米座

(指揮)

1. 「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 28 年 8 月 久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール
2. 「マーチング イン 福岡 2016」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 共同 平成 28 年 9 月 福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会 福岡国際センター
3. 「マーチング イン 九州 2016」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 共同 平成 28 年 10 月 九州マーチングバンド・バトントワーリング協会 北九州メディアドーム

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(指揮)

1. 「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 26 年 8 月 久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール
2. 「マーチング イン 福岡 2014」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 共同 平成 26 年 9 月 福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会 福岡国際センター
3. 「マーチング イン 九州 2014」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 共同 平成 26 年 11 月 九州マーチングバンド・バトントワーリング協会 島原復興アリーナ
4. 「第 14 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(優秀賞受賞) 共同 平成 27 年 2 月 日本マーチングバンド協会 神奈川県立劇場
5. 「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 27 年 8 月 久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール
6. 「マーチング イン 福岡 2015」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 共同 平成 27 年 9 月 福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会 福岡国際センター
7. 「マーチング イン 九州 2015」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 共同 平成 27 年 10 月 九州マーチングバンド・バトントワーリング協会 島原復興アリーナ
8. 「第 15 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(優秀賞受賞) 共同 平成 28 年 2 月 日本マーチングバンド協会 神奈川県民ホール

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

1. 「日本の幼児教育における音楽教育の方向性についてーアメリカにおける音楽教育からの一考察ー」（単著） 『国際幼児教育研究第6号』
2. 『芸術のコミュニケーション・テクノロジー』（共著） 創言社 平成13年9月
3. 『保育にいかす器楽合奏』（単著） 権歌書房 平成16年2月
4. 『保育にいかすマーチング曲集』（単著） 権歌書房 平成17年2月
5. 『保育にいかす編曲法』（単著） 権歌書房 平成18年3月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	常任理事会・支部会に出席、常任理事・九州・沖縄・山口支部支部長
日本音楽教育学会	大会等不参加
日本管打・吹奏楽学会	大会等不参加
日本保育者養成教育学会	第1回大会に参加

平成29年度 研究計画

1. 幼児教育における音楽教育の研究
国際幼児教育学会、日本音楽教育学会に所属し、より幅広い研究に取り組めるよう大会・研究会に参加する。また、国際幼児教育学会九州・沖縄・山口支部の会員での共同研究を進める。
2. 保育者養成に関する研究
日本保育者養成教育学会に所属し、保育者養成についての研究を深めていく。具体的には保育・教職実践演習（幼稚園）に関する共同研究を行う。また、保育者養成のための音楽のテキストを作成する。
3. 吹奏楽指導法の研究
「スクールバンドを主体としたコミュニティー吹奏楽団の運営」についての実践研究を継続する。また、マーチング作品の創作を行うと共に、指導法について研究を行う。
4. 子育て支援に関する研究
本学で行っているつどいの広場での活動を基に、子育て支援に関する共同研究を継続して行い、発表する。
5. クラリネット奏法の研究
グループ“春の声”コンサート、久留米連合文化会コンサート等にて演奏発表を行う。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
学生の学習意欲を高める工夫を行い、総合評価をどの科目も 4.0 以上にする。	前期開講科目授業評価において総合評価が器楽合奏は 3.8、音楽表現は 3.6 にとどまり、目標を達成できなかったが、後期開講科目の保育・教職実践演習（幼稚園）は 4.0、保育内容表現は 4.2 であり目標を達成した。 器楽合奏と音楽表現の授業内容・方法の工夫が課題である。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科 2 年 A クラス	平成 27 年 12 月 21 日（水） II 校時

自己評価	他者評価
学生が発表に対しては積極的に意欲をもって取り組んでいたこと、ロールプレイについても概ね積極的な授業態度であり、その点での学習意欲を引き出すことはできていた。しかし、相互評価の場面での学習意欲を引き出すまでには至らず、資料の配布方法、毎回の相互評価のテーマ設定などの工夫が今後の課題である。	目的を明確に持って学生が課題に取り組んでいた。授業テーマは回を重ねるごとに発展していくとさらに良くなる。資料の内容は適切であるが配布するタイミングに工夫が必要である。学生が発表する場、それに対する教師のコメントが行われ双方向の授業が展開されていた。
	参加教員 池田可奈子准教授、渡邊由恵講師、櫻井晋伍助教

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>今年度は下記に示す通り、保育内容表現と保育教職実践演習（幼稚園）については改善できた。</p> <p>保育内容表現 3.5→4.2 保育教職実践演習（幼稚園） 3.8→4.0</p> <p>器楽合奏 3.8→3.8 音楽表現 3.7→3.6</p> <p>しかし、器楽合奏と音楽表現については改善できておらず、再度授業内容・方法等を検討し、学生が意欲的に取り組む授業にできるよう改善を図る。</p>
--

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>学生の学修意欲を高める。</p> <p>「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目を 4.0 以上にする。</p>	<p>質問しやすい雰囲気を作り、課題に取り組む意欲を喚起して行く。</p> <p>保育現場を意識した授業内容を組み、学生のさらに学びたいという意欲を引き出す。</p>

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
国際幼児教育学会常任理事, 九州・沖縄・山口支部長 久留米市社会福祉審議会委員長、同審議会児童福祉 専門部会会長 久留米市社会教育委員 久留米市障害者問題啓発事業選考委員 久留米市子ども・子育て会議委員（会長） 高等教育コンソーシアム久留米小中高連携部会委員 福岡マーチングバンド協会監事	平成 27 年 4 月～28 年 3 月 同上 同上 同上 同上 同上 同上	国際幼児教育学会 久留米市 久留米市 久留米市 久留米市 久留米市 高等教育コンソーシ アム久留米 福岡マーチングバン ド協会 特定非営利活動法人 久留米音楽協会（ 久留米吹奏楽連盟 久留米連合文化会 久留米児童吹奏楽団
特定非営利活動法人 久留米音楽協会理事	同上	
久留米吹奏楽連盟常任理事	同上	
久留米連合文化会洋楽部部長	同上	
久留米児童吹奏楽団団長・指揮者	同上	

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 29 年度 社会的活動計画

○他団体への協力

国際幼児教育学会常任理事、同学会九州・沖縄・山口支部長、久留米市社会福祉審議会委員長、久留米市社会教育委員、久留米市子ども・子育て会議委員（会長）、高等教育コンソーシアム久留米小中高連携部会委員、久留米音楽協会(NPO)理事、久留米吹奏楽連盟常任理事、福岡マーチングバンド協会監事、久留米連合文化会洋楽部部長、久留米児童吹奏楽団団長

○吹奏楽指導

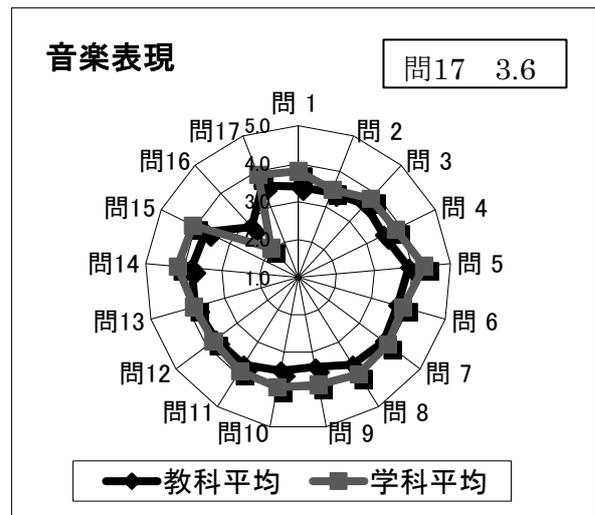
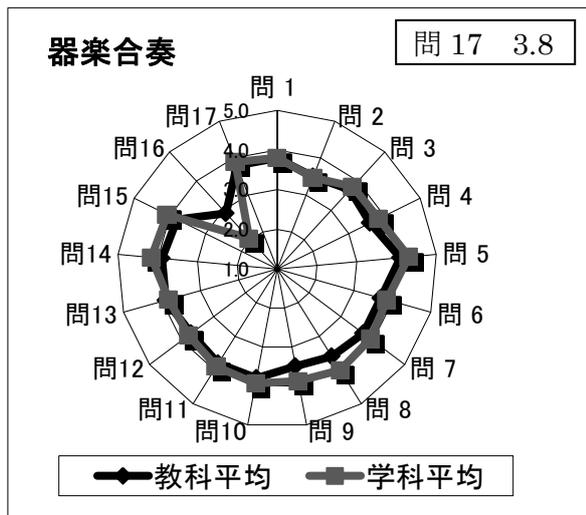
久留米信愛女学院吹奏楽部（中学・高校・短大）、久留米児童吹奏楽団の指導・指揮

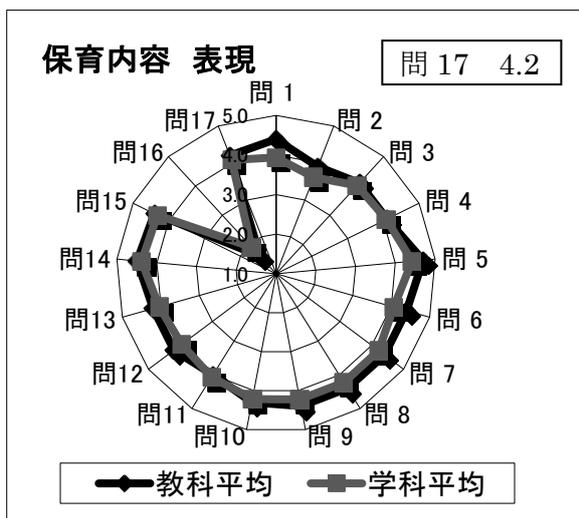
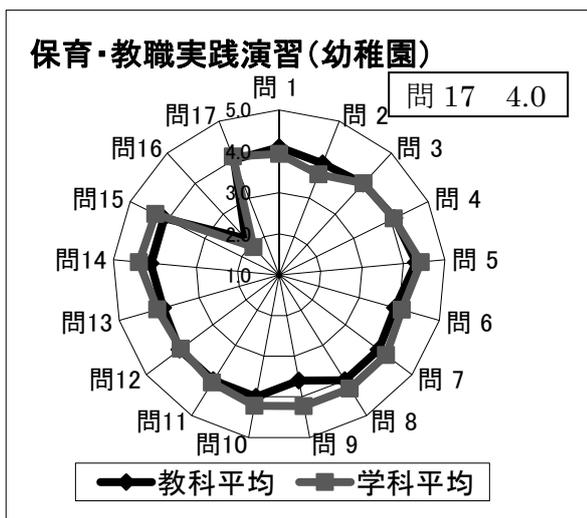
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
器楽合奏	幼児教育 学科 2 年	卒業必修	総合評価は 3.8 であり、特に「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」の評価が 3.5 と低く、質問しやすい雰囲気を作ることに心がけ、学生が意欲をもって授業に取り組める工夫を行いたい。 授業の予習・復習に対しては学生はしっかりと取り組んでいた。
音楽表現	幼児教育 学科 2 年	免許必修	総合評価が 3, 6 であり、「居眠り・私語・メールすることが少なかった」、「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」、「板書・視聴覚機器の利用が効果的であった」の 3 項目が 3.4 の評価であり、 授業の方法について改善を図りたい。授業の予習・復習に対しては学生はしっかりと取り組んでいた。
保育・教職実践演習 (幼稚園)	幼児教育 学科 2 年	免許・資格 必修	学生が模擬授業を行い、それを相互評価する内容であり、発表する際には積極的な学びに学生は取り組んでいたが、相互評価する際に学生によって意欲の差があり、私語等につながっていたので、今後、その点の改善を図りたい。
保育内容表現	幼児教育 学科 1 年	免許・資格 必修	講義の半分は、テキストを読解していく内容であったが、学生が積極的に学ぼうとしていて、授業が進めやすかった。今後はより質問しやすい雰囲気を作り、さらに授業効果を高めたい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	山下 浩子

担当科目

科目名	対象	必修・選択
応用栄養学Ⅰ	フードデザイン学科 1年	卒業・栄養士必修
応用栄養学Ⅱ	フードデザイン学科 1年	栄養士必修
栄養指導論	フードデザイン学科 1年	卒業・栄養士必修
栄養指導演習	フードデザイン学科 1年	卒業・栄養士必修
栄養士基礎演習 (4回)	フードデザイン学科 1年	卒業必修
栄養指導実習	フードデザイン学科 2年	栄養士必修
公衆栄養学概論	フードデザイン学科 2年	栄養士必修
栄養士総合演習Ⅱ (6回)	フードデザイン学科 2年	卒業選択
フードマネジメント (8回)	フードデザイン学科 2年	卒業選択
フードインターンシップ	フードデザイン学科 2年	卒業選択
調理デザイン演習Ⅱ (4回)	フードデザイン学科 2年	卒業選択
卒業セミナー	フードデザイン学科 2年	卒業選択
子どもの食と栄養Ⅰ	幼児教育学科 2年	保育士必修
子どもの食と栄養Ⅱ	幼児教育学科 2年	保育士必修

研究分野

1. 栄養教育・指導論の分野
 栄養教育・指導における理論に基づいた方法や技術に関する研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や食育教材について研究している。
2. 小児栄養学の分野
 小児期の栄養のあり方に関する研究。とくに小児生活習慣病予防のための小児肥満改善について研究している。
3. 栄養士養成の分野
 栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関するカリキュラム論・方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 栄養教育・指導論の分野

食教育をテーマに、久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食育実践の実態について調査研究を行った。

2. 小児栄養学の分野

久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活（運動・睡眠）について継続指導を行った。

3. 栄養士養成の分野

『入学から卒業までのガイドブック』（八訂版）作成に向けて、内容・構成を検討した。
学科内 FD 活動の一環として、「栄養士養成研究」を継続した。

4. 地域企業等との連携事業

平成 27 年度から取組んだ、CTC-LANKA（企業）、福岡県および久留米市、本学との産官学連携事業「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会（通称、「ココナッツ研究会」）の活動を継続した。

平成 28 年度の研究の成果

（論文）

1. 「栄養士養成研究（4）学習支援に対する効果の 2 年間の分析」共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』（21～25）

（その他）

1. 『入学から卒業までのガイドブック第 7 号』共著 平成 28 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 64）
2. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 2 報」共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』（51～56）
3. 『子どもの食と栄養 第 2 版』分担執筆 平成 28 年 9 月 保育出版社

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

（論文）

1. 「栄養士養成研究（2）学習支援に対する効果」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』（41～47）
2. 「栄養士養成研究（3）生活実態が学習効果に及ぼす影響」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（25～33）

（報告）

1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（91～97）

（その他）

1. 『入学から卒業までのガイドブック第 5 号』共著 平成 26 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 73）
2. 「学生の食事にみる日常食の実際 - 食事調査からの考察 -」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』（77～80）
3. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 1 報」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（53～58）
4. 『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』共著 平成 27 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 79）

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

1. 『子どもの健康』共著 開成出版 平成16年3月
2. 『くるめの元気！食育やさいかるた』食育教材製作 平成18年6月
3. 「総説 子どもの肥満」共著 『久留米医学会雑誌第73巻第5・6号別冊』 平成22年6月
4. 『子どもの食と栄養 第2版』分担執筆 保育出版社 平成28年9月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養・食糧学会	大会等不参加。
日本栄養改善学会	大会等不参加。
日本家政学会	大会等不参加。
日本調理科学会	大会等不参加。平成28・29年度代議員
日本小児保健学会	大会等不参加。

平成29年度 研究計画

1. 栄養教育・指導論の分野
久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食教育研究を継続し、調査・研究に携わる。
2. 小児栄養学の分野
久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活指導を継続する。
3. 栄養士養成の分野
『入学から卒業までのガイドブック』（八訂版）作成に向けて、内容・構成を検討する。
学科内FD活動の一環として、「栄養士養成研究」を継続する。
4. 地域企業等との連携事業
福岡県特産物『秋王』（柿）の規格外品、「穂先タケノコ」採取後の下部タケノコの有効活用（6次産業化含む）など、地域企業等との連携事業を継続する。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認</p> <p>【成果の指標】 担当科目（輪講科目除く）の学生による授業評価アンケート、問 2「質問実行」、問 3「授業内容の理解」、問 6「本科目目標・他科目との関連理解」、問 7「毎時のテーマ・目的理解」、問 9「板書等の利用効果」の平均ポイントを指標とする。</p>	<p>○「質問実行」 平成 27 年度 3.1 平成 28 年度 3.3 <u>+0.2</u> ポイント</p> <p>○「授業内容の理解」 平成 27 年度 3.5 平成 28 年度 3.5 <u>±0</u> ポイント</p> <p>○「本科目目標・他科目との関連理解」 平成 27 年度 3.8 平成 28 年度 3.7 <u>-0.1</u> ポイント</p> <p>○「毎時のテーマ・目的理解」 平成 27 年度 3.8 平成 28 年度 3.7 <u>-0.1</u> ポイント</p> <p>○「板書等の利用効果」 平成 27 年度 3.5 平成 28 年度 3.4 <u>-0.1</u> ポイント</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
栄養指導論	フードデザイン学科 1 年	平成 28 年 7 月 25 日

自己評価	他者評価
<p>本時の内容は、栄養指導を行う上での基本的な知識について（シラバスの 3、4、5、6、9 回目の内容）、質問形式による復習を行った。本科目は、毎時、はじめに前回の復習を行い、本時の学習内容に入っている。要点はノートに取り、次回までに整理・復習等の指示をしている。一連の学習・復習を行っている学生は、回答および各自の理解確認が容易であったと考える。さらに学生参加型の教授法を工夫しなければならない</p>	<p>1. 話し方は明瞭で聞き取りやすかった。</p> <p>2. 板書の仕方や随時の要点（キーワード）チェックは、内容理解のために効果的であった。</p> <p>3. 学生が質問したり意見が述べられるように配慮されていた。</p> <p>4. 学生はほぼ授業に集中していたが、一部私語等あり、集中が切れる場面もあった。</p>
	<p>参加教員</p> <p>江越和夫教授 山村涼子准教授 生地暢准教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

○「総合評価」が下がった科目（前年度評価比）
 「栄養指導実習」-1.0 「公衆栄養学概論」-0.9 「栄養指導論」-0.5 「栄養指導演習」-0.2
 中でも「栄養指導実習」（2.4）、「公衆栄養学概論」（2.7）と、極めて低い。評価項目別にみると、「栄養指導実習」は、問 4「私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」（2.5）、「公衆栄養学概論」は、問 2「私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした」（2.6）が最も低い。改善策として「学生の学習意欲を引き出す配慮と工夫の実行」を挙げたが、問 12「先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮していた」（3.5）の項は前年比-0.2であった。「栄養指導実習」は実習課題の取組みを個人学習に、「公衆栄養学概論」は双方向授業の工夫を試みる。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度を確認</p> <p>【成果の指標】 学生による授業評価の問 2、3、6、7、9 により、①復習②目標明示③要点板書④質問・考察時間確保⑤理解度向上の成果をみる。</p>	<p>授業において①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。「わかりやすい授業法の工夫」は①復習、②目標明示、③要点板書、⑤まとめを行う。「学生の理解度確認」は毎時の目標に合わせた④質問・考察時間を定時確保および小テストによって⑤理解度の確認に努める。</p>

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
魅力あるおいしい学校給食にするために ～郷土の料理に学ぶ Part2～ 「保育所における食育の推進」～児から保 護者への食育～ 「保育における食育の推進」～くるめの子 どもへの食育～ ふるさとの食に学ぶ～筑後地方の郷土料理 ～	28・07・22	公益財団法人福岡	公益財団法人福
	28・07・29	県学校給食会	岡県学校給食会
	28・10・04	福岡県筑紫保健福 祉環境事務所	大野城市すこや か交流プラザ
	28・10・17	久留米市子ども未 来部	久留米市教育セ ンター
29・01・28	久留米市生涯学習 センター	えーるピア久留 米	

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来 にて栄養指導	平成 28 年 4 月～29 年 3 月 (週 1 回)	久留米大学医療セ ンター小児科

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
食と健康 (a)	平成 28 年度前期	久留米大学
食と健康 (b)	平成 28 年度後期	久留米大学
子どもの食と栄養 (1)	平成 28 年度前期	西南学院大学
子どもの食と栄養 (2)	平成 28 年度後期	西南学院大学

その他特記事項

内容	年 月 日
平成 28 年度学校給食調理技術講習会講師 (福岡県学校給食会)	平成 28 年 7 月 22 日、29 日
平成 28 年度学校給食料理コンクール審査委員長 (福岡県学校給食会)	平成 28 年 10 月 18 日

平成 29 年度 社会的活動計画

1. 他団体等への協力

- ①久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来・栄養指導
(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月毎週金曜日午後の予定)
- ②久留米市食育推進会議副会長 (委員任期: 平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

2. 他大学への非常勤等

- ①久留米大学「食と健康 (a)」・「食と健康 (b)」(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月前期・後期)
- ②西南学院大学「子どもの食と栄養 (1)」・「子どもの食と栄養 (2)」(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月前期・後期)

3. その他

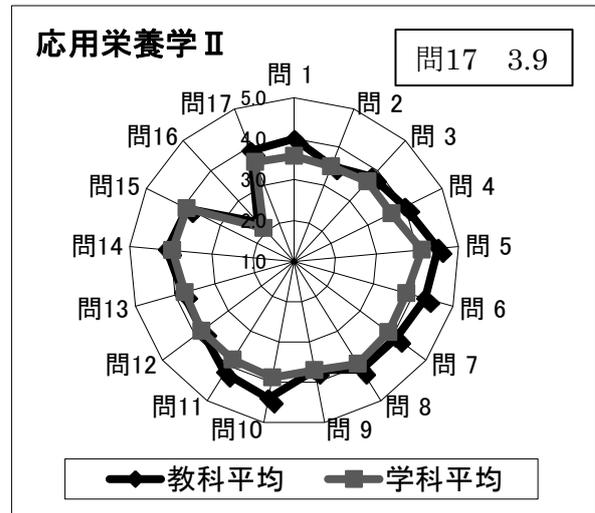
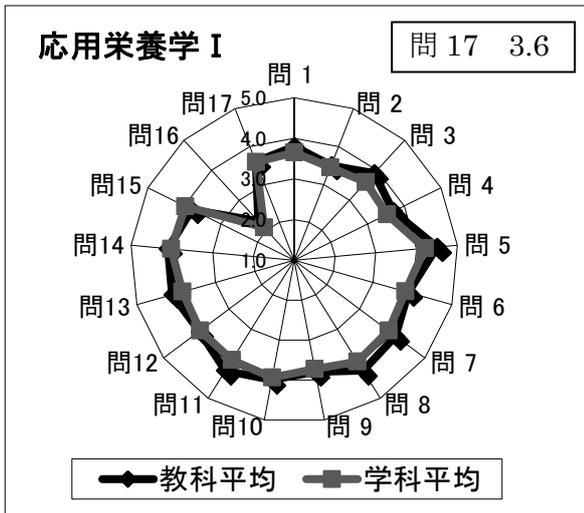
- ①平成 29 年度学校給食調理技術講習会講師 (福岡県学校給食会) (平成 29 年 7 月 25 日、8 月 3 日)
- ②平成 29 年度食生活改善推進員養成教室講師 (久留米市) (平成 29 年 8 月 22 日、24 日)

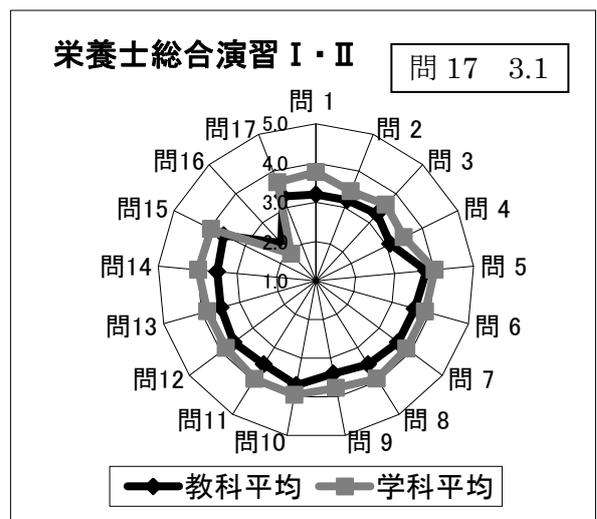
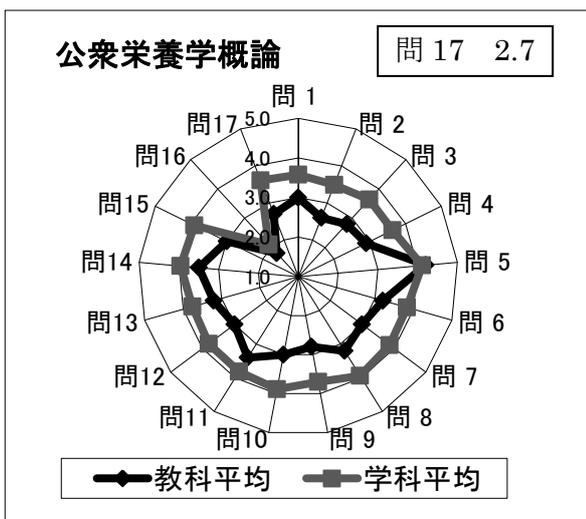
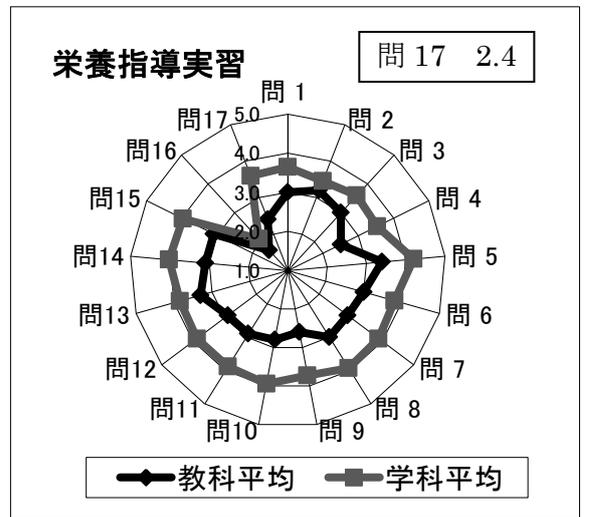
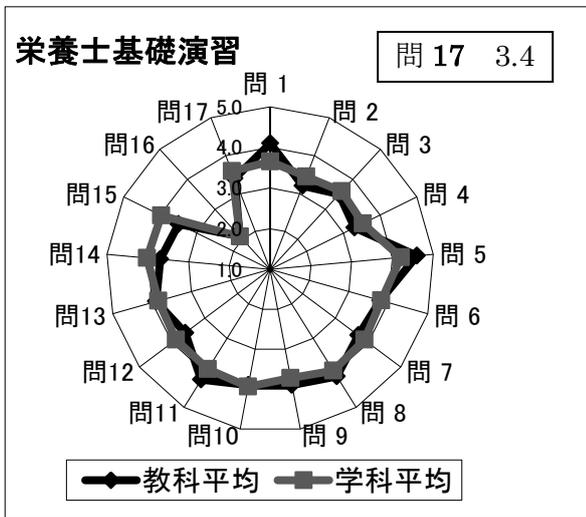
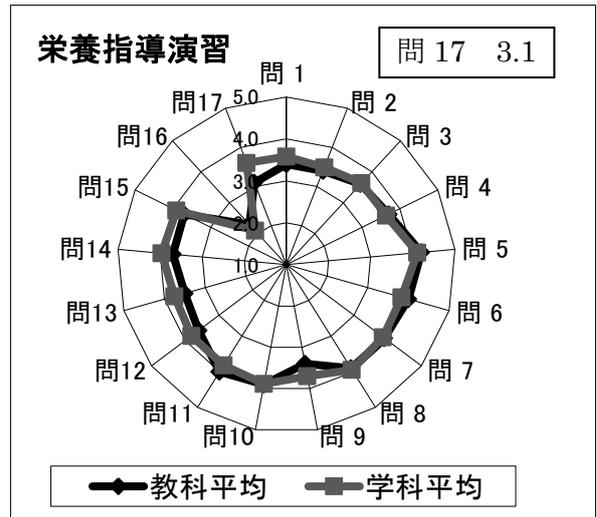
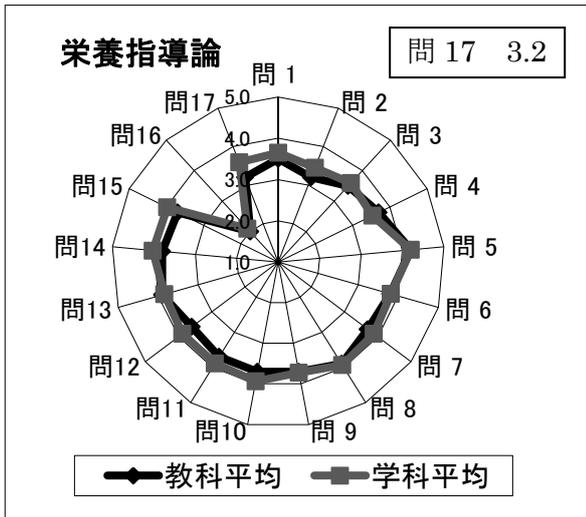
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

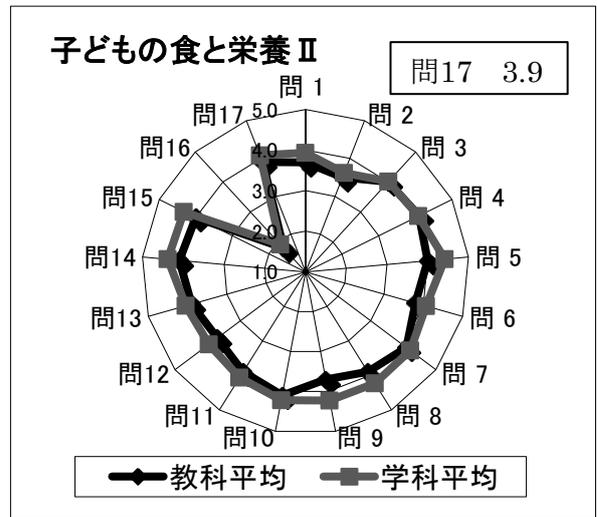
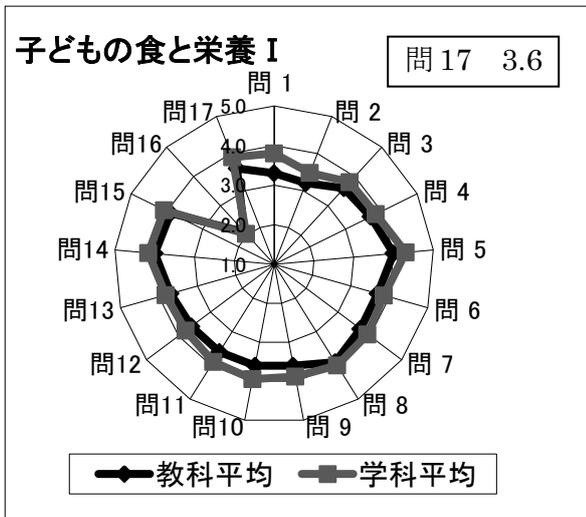
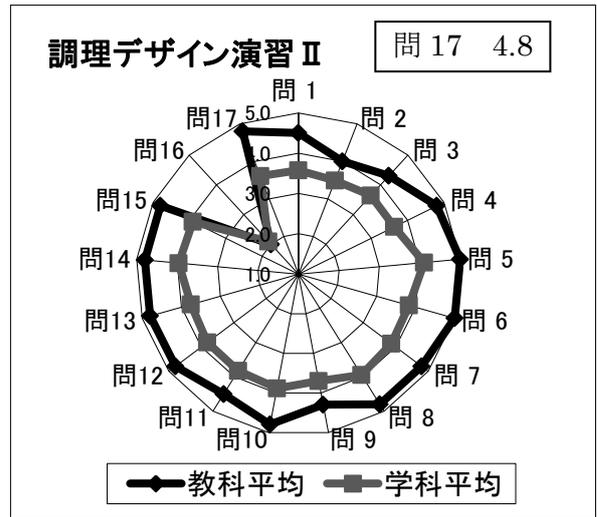
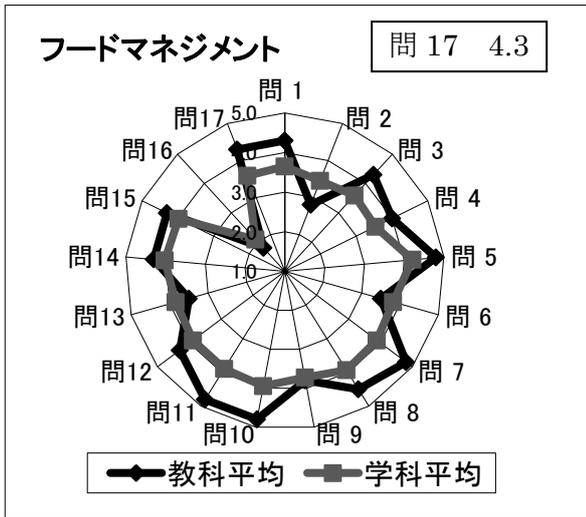
<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）







科目名	対象	必修・選択	教員コメント
応用栄養学Ⅰ	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.6 (前年度比+0.1) および問2「わからない時に質問または自分で調べた」(+0.9)の結果を受け、わからない点をそのままにできなかったことから理解度も上がったと考える。「まとめのプリントが小テスト対策によかった」のコメントを受け、要点を押さえた学習を続けてほしい。
応用栄養学Ⅱ	フード1年	栄養士必修	総合評価 3.9 (+0.4) および問10「配布資料は、授業を理解するのに役立った」4.4 (+0.5)の結果を受けて、「応用栄養学Ⅰ」同様に理解度が上がったと考える。しかし「小テストの時間が長い」のコメントを受け、まとめのプリントが安易な学習資料とならないよう、授業回ごとに復習してほしい。
栄養指導論	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.2 (-0.5)の結果を受けて、学習意欲が上がるよう、双方向の授業改善に努める。わからない点は、授業時や終了時直ぐに、またはオフィスアワーを活用して、いつでも質問してほしい。

栄養指導演習	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.1 (-0.2) の結果を受けて、わかりやすい演習指導法の工夫に努める。なお、わからない点は、演習時に積極的に質問してほしい。
栄養士基礎演習	フード1年	卒業必修	総合評価 3.4 (-0.3) および問2「わからない時に質問または自分で調べた」3.2 (±0) の結果を受けて、栄養士養成課程の導入科目として、全項目の評価が上がる授業改善に努める。わからない点、苦手な内容はそのままにせず、各担当教員に積極的に質問してほしい。
栄養指導実習	フード2年	栄養士必修	総合評価 2.4 (-1.0) の結果と「この授業の必要性を感じない」とのコメントを厳しく受け止める。実習内容の指導の仕方をはじめ、学習意欲が上がる言葉かけに努める。また栄養士が行う栄養指導の意義を再認識してほしい。
公衆栄養学概論	フード2年	栄養士必修	総合評価 2.7 (-0.9) および問3「授業の内容を理解することができた」2.8 (-0.7) の結果を受けて、興味関心上がる授業改善に努める。なお、わからない点は、講義時に積極的に質問してほしい。
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ	フード2年	卒業選択	総合評価 3.1 (-0.2) および問16「この授業のための一週間当たりの予習・復習時間」1.8 (2.0が1~30分) の結果を受け、栄養士養成課程の総復習科目(実力認定試験対策)として、学生自らも積極的な姿勢で臨んでほしい。
フードマネジメント	フード2年	卒業選択	総合評価 4.3 (+0.4) と高い評価だが、問2「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」2.8 (-0.7) の項が低い。わからない点をそのままにせず、積極的に質問してほしい。
調理デザイン演習Ⅱ	フード2年	卒業選択	総合評価 4.8 の高い評価は、授業目的(新人栄養士に必要な基本的技術の習得)に対し、受講者の学習意欲と担当教員(輪講)の熱意が合致した結果と受け止める。卒業後、各職場においてもこの姿勢で臨んでほしい。
子どもの食と栄養Ⅰ	幼教2年	保育士必修	総合評価 3.6 (+0.2) の結果を受けて、一方向になりがちな講義形式の授業改善に努める。わからない点は、授業時や終了時直ぐに、またはオフィスアワーを活用して、いつでも質問してほしい。
子どもの食と栄養Ⅱ	幼教2年	保育士必修	総合評価 3.9 (+0.6) の結果と「私語を注意しない」「質問したいときにいない」のコメントを受けて、2クラス合同授業の対応の難しさを痛感している。また「料理の基礎が学べてよかった。実習が楽しかった」のコメントを受けて、さらに授業内容の充実に努める。学生各自も授業目的を確認し積極的な姿勢で臨んでほしい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	教授	石井妙子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
臨床栄養学概論 臨床栄養学実習 給食計画論 給食管理実習Ⅰ 給食管理実習Ⅱ 校外給食管理実習Ⅱ 栄養士基礎演習 栄養士総合演習Ⅱ 栄養士実務セミナー	フードデザイン学科 2年 フードデザイン学科 2年 フードデザイン学科 1年 フードデザイン学科 1年 フードデザイン学科 2年 フードデザイン学科 2年 フードデザイン学科 1年 フードデザイン学科 2年 フードデザイン学科 2年	卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業必修・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択 卒業必修 卒業選択 卒業選択
研究分野		
<p>1. 糖尿病の分野 糖尿病療養支援のために糖尿病療養指導士会（CDEJ と LCDE）の組織運営を通じてその方法や対策について研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や医療従事者相互の連携について研究している。</p> <p>2. 高齢者栄養の分野 高齢者の低栄養や重症化予防対策のための多職種連携や摂食・嚥下についての研究。とくに在宅高齢者支援について研究している。</p> <p>3. 栄養士養成の分野 栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関する方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。</p> <p>4. 栄養士会活動 福岡県栄養士会理事（福岡支部支部長）としての活動を再開し、地域包括ケアシステムに栄養士が組織の一員として位置付けられるようにしたい。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 糖尿病の分野

「福岡糖尿病療養指導士会 (LCDE)」の中央認定委員として、“ふくおか市民糖尿病教室”の実行委員として中心的活動。“ウォークラリー”や“糖尿病フェア”の企画運営、「福岡 LCDE」認定試験の試験官として活動。「日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) 連絡会」では、顧問として定期講演会の企画運営に携わって平成 28 年は 2 回実施。

2. 高齢者栄養の分野

糸島市の地域ケア会議と訪問 C 事業の栄養士会総括責任者。コーディネータの調整・育成・事例検討会などを企画・実施した。在宅訪問歯科診療に同行し VE による摂食・嚥下評価に基づいて栄養食事指導を実施。「日本在宅栄養管理学会」の九州・沖縄ブロック長補佐として認定栄養士の指導や連絡会や症例検討会を開催。

3. 栄養士会活動

福岡県栄養士会理事 (福岡支部支部長) として、県栄養士会運営については理事会 (2 か月に 1 回開催)、総会、栄養士大会並びに栄養改善学会など。福岡支部長として企画運営会議 (2 か月に 1 回) を主催。今年度は特に福岡県主催「健康 21 世紀福岡県大会」をイオンモール筑紫野で、「博多ファーマーズマーケット」を博多駅前で、それぞれ「フレイル」予防のテーマでイベントを実施した。

4. 栄養士養成の分野

栄養士界についての情報とその魅力について学生に伝え、就職支援や援助を積極的に実施。

平成 28 年度の研究の成果

なし

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

食塩摂取量「見える化」研究…2 年間実施した調査結果を解析して、高血圧学会、日本栄養改善学会で発表。(共著)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1 「K-2S に変更後、難治性下痢が改善した重症肺炎」共著平成 23 年 3 月日本病態栄養学会雑誌

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本病態栄養学会	学術集会参加。学術評議員。
日本静脈・経腸学会	学術集会不参加。
日本在宅栄養管理学会	学術集会参加。九州・沖縄ブロック研修会参加。
日本栄養士会	総会参加。(公社)福岡県栄養士会理事 (福岡支部支部長)
日本糖尿病学会・九州地方会	不参加。
福岡摂食嚥下カンファレンス	年 4 回講演会に参加。世話人
沖縄リハビリテーション栄養研究会	参加。
日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会 in 久留米	座長 (2017 年 2 月 4 日シティープラザ)

平成 29 年度 研究計画

1. 栄養教育・指導論の分野

久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食教育研究に参加する。

『第3次久留米市食育推進プラン』策定に向けて、調査・研究に携わる。

2. 栄養士養成研究（4）

学習支援に対する効果の2年間の分析。

3. 糖尿病の分野

糖尿病療養指導士活動の継続。とくに「ふくおか市民糖尿病教室」は栄養士だけではなく、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・運動指導士など多職種との連携事業で、実行委員長の医師とともにコメディカル間の調整を図る立場であるので、昨年より洗練された内容になるように、十分な検討と準備をしたいと考えている。

4. 高齢者栄養の分野

地域連携多職種ケア会議参加と活動継続。在宅高齢者に対する地域ケアの一員としての位置づけが定着できるように努力したい。「日本在宅栄養管理学会」活動の継続。昨年の活動成果により「中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト」のメンバーに認定され、「出前講座」と「講演」をすることになっている。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度のFD宣言とその評価

FD宣言	自己評価
<p>【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認</p> <p>【成果の指標】 担当科目の学生による授業評価アンケート、問1、「居眠り」問2「質問実行」、問3「授業内容の理解」、問6「本科目目標・他科目との関連理解」、問7「毎時のテーマ・目的理解」の平均ポイントを指標とする</p>	<p>○「居眠り」 平成 27 年度 3.8 平成 28 年度 3.9</p> <p>○「質問実行」 平成 27 年度 3.7 平成 28 年度 3.6</p> <p>○「授業内容の理解」 平成 27 年度 3.8 平成 28 年度 3.8</p> <p>○「本科目目標・他科目との関連理解」 平成 27 年度 4.1 平成 28 年度 4.0</p> <p>○「毎時のテーマ・目的理解」 平成 27 年度 4.1 平成 28 年度 4.1</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
給食計画論	フードデザイン学科 1 年	平成 28 年 7 月 27 日 3 校時

自己評価

本時の内容は、将来栄養士として業務するにあたり密接に関係ある「特定給食施設」の特徴を把握し、根拠となる法規とその目的を十分に理解することを目的としている。進路決定するための資料として、給食管理における基本的な考え方や手法について理解し、イメージを描き、栄養士の仕事に魅力を感じることができるような授業にしたいと臨んだ。質問タイムを設けて、双方向での授業展開の工夫

他者評価

テーマや目的について十分な説明があり、学生の中で位置づけが明確であった。話し方は明瞭で聞き取りやすかった。レジュメ・板書ともに適切で、学生が整理しやすい工夫が見られた。学生からの意見の引き出し方や細かい配慮で学生とかかわりを持っていた。集中した授業内容で活気があった。学生が理解しているかどうか、その都度チェックし、楽しそうな授業風景だった。

<p>を随所に設けて、学生に刺激を与え、レジュメに書き込みや穴埋めの箇所を設け、授業への集中を高めるようにした。</p> <p>学生は、3校時の授業であったにもかかわらず、他の先生方の参観があったためか、居眠りもなく集中して授業に参加していた。</p>	<p style="text-align: center;">参加教員</p> <p>江越和夫教授、生地暢准教授、眞部真紀子准教授</p>
<p>学生の授業評価に対する自己評価と改善策</p>	
<p>給食管理実習の授業では輪番で実習に当たるが、実習日ではない学生が携帯や私語が多いようなので、今期から携帯は机の上にあったら没収することにして、授業への集中を高めるようにする。</p> <p>座学では、出来るだけ双方向のかかわりを工夫したいと思う。ポイントについても授業の終わりにまとめ、次の回の授業の始めに復習をして、刷り込みを図りたい。</p>	
<p>平成 29 年度 教育活動計画</p>	
<p>平成 29 年度の F D 宣言</p>	<p>平成 29 年度の教育力向上のための計画</p>
<p>【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認</p> <p>【成果の指標】 担当科目の学生による授業評価アンケート、問1、「居眠り」問2「質問実行」、問3「授業内容の理解」、問6「本科目目標・他科目との関連理解」、問7「毎時のテーマ・目的理解」の平均ポイントを指標とする。</p>	<p>授業において①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。「わかりやすい授業法の工夫」は①復習、②目標明示、③要点板書、⑤まとめを行う。「学生の理解度確認」は毎時の目標に合わせた④質問・考察時間を定時確保。⑤理解度の確認に努める。</p>

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
「いきいき健やか」	2016 年 6 月 19 日	久留米信愛女学院 高等学校同窓会	ハイネスホテル
「健康寿命を延ばす食生活」	2016 年 6 月 25 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学
「健康寿命を延ばす食生活」	2016 年 7 月 2 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学
「梅雨時期の衛生と高齢者の食」	2016 年 7 月 31 日	太宰府シルバー人 材センター	太宰府いきいき情 報センター
「がん～栄養士の立場から～」	2016 年 9 月 25 日	日本在宅栄養管理 学会沖縄・九州ブ ロック	中村学園大学
「災害時の食をどうする」	2016 年 10 月 22 日	コンソーシアム久 留米	くるめりあ六ツ門
「現場で役立つ食支援」	2016 年 12 月 10 日	福岡県歯科衛生士 会	糸島歯科医師会
「在宅訪問（糸島医療・介護連携コーディネーター）スキルアップ」	2017 年 1 月 18 日	福岡県栄養士会	ももちパレス
「高齢者栄養の現状と多職種連携」	2017 年 1 月 20 日	歯科保健研修会	宗像・遠賀保健福 祉環境事務所
「地域における連携と訪問栄養食事指導～栄養士のかかわりで何が起きる～」	2017 年 2 月 19 日	山口県栄養士会	山口県総合保健会 館
「嚥下食調理」	2017 年 3 月 5 日	福岡在宅食支援の 会	ヒナタ

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
福岡県栄養士会（理事～福岡支部長として企画・運営）	通年	福岡県栄養士会
福岡市民の健康を歯と口から守る集い	4 月～6 月 5 日	福岡市歯科医師会
CDEJ（日本糖尿病療養指導士会）連絡協議会（講演など）	通年	CDEJ 連絡協議会
ふくおか市民糖尿病教室	5 月～11 月 6 日	福岡市医師会
福岡在宅食支援の会（講演 3 回）	通年	福岡在宅食支援の会
在宅ケアネットワーク福岡中央勉強会（世話人）	通年	在宅ケアネットワー ク福岡中央
日本在宅栄養管理学会（福岡支部長）	通年	日本在宅栄養管理学 会
健康 21 世紀福岡県大会実行委員	7 月～10 月 16 日	福岡県
ファーマーズマーケット	8 月 29 日～11 月 14 日	福岡県

糸島市地域ケア会議	通年	糸島市
-----------	----	-----

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
給食管理 LCDE（福岡糖尿病療養指導士会）中央認定委員	4月～8月 通年	香蘭女子短期大学 LCDE
就学支援 福岡摂食嚥下カンファレンス（講演会）世話人	年2回程度 年3回から4回	久留米市、キャリアリード 福岡摂食嚥下カンファレンス

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 29 年度 社会的活動計画

栄養士会理事としての活動に伴って、多くの社会的活動の要請も多々あると思う。とりわけ高齢者栄養に関してはライフワークとしているところもあり、意欲的に取り組みたいと思っている。

また、糖尿病療養指導士の立場としてはリーダーシップを発揮して、啓蒙・予防活動を推進していきたいと思う。

学会関連でも研鑽を積みつつ、研究の分野でも実績を残したいと思っている。

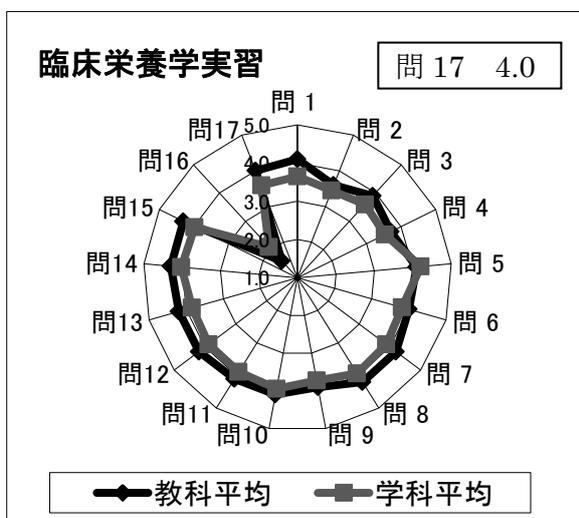
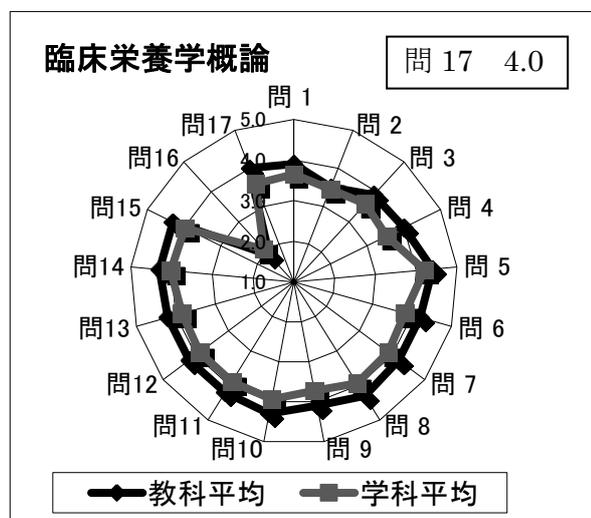
具体的計画としては、例年恒例の歯のイベントや糖尿病教室については、本年度も実施の先頭に立って貢献するつもりである。

平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

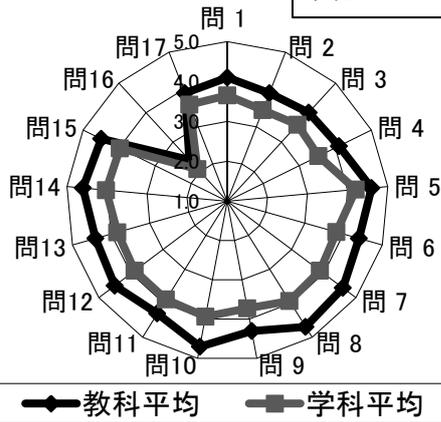
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）



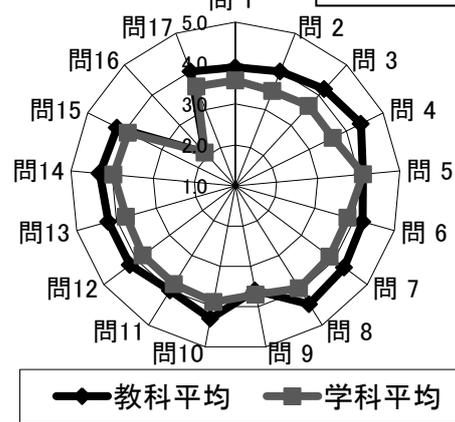
給食計画論

問17 3.9



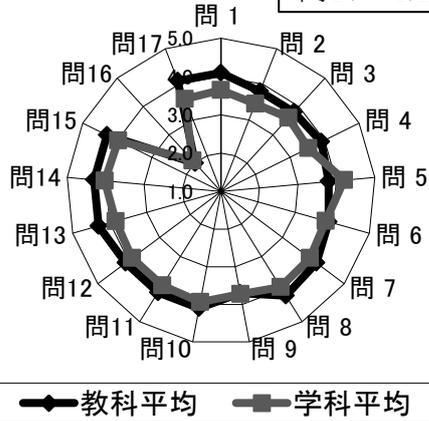
給食管理実習 I

問17 4.0



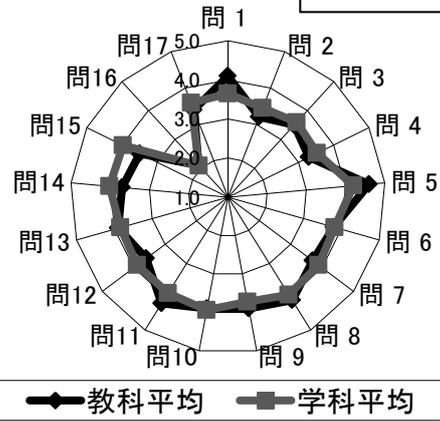
給食管理実習 II

問17 4.1



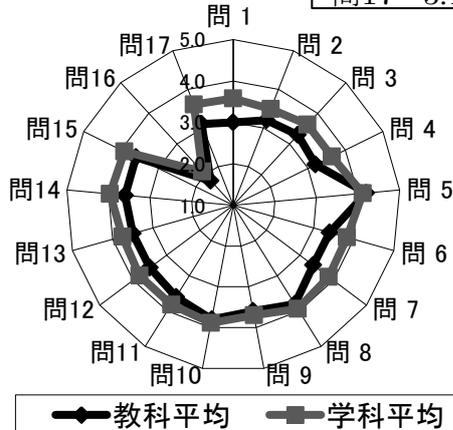
栄養士基礎演習

問17 3.4



栄養士総合演習 I・II

問17 3.1



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
臨床栄養学概論	フード2年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.0 (前年度比+0.5) と上がっていたが、問2は 3.5 (前年比*0.2) わからない点への質問を受けられるような体制を整えオフィスアワーの利用を推進したい。
臨床栄養学実習	フード2年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.9 (+0.03) の結果だった。病院栄養士のみならず、栄養士としての実務に関わる教科なので、わからないところはそのままにせず積極的に質問してほしい。
給食計画論	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.2 (前年度比+0.6) と伸びていたが、問16 予習復習の項目 2.4 (前年度比+0.6) が極めて低いのが目につく。授業の中で予習復習に関わる“しかけ”を工夫していきたい。それが学生の学習意欲につながり理解度が上がるように努力を続けてほしい。
給食管理実習Ⅰ	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.0 (前年度比+0.2) と少し上がっているが、実習の授業にも関わらず、問1 居眠り、私語、メールの項目が 3.9 (前年度比-0.3) と下がっているが、実習班ではない時の事務作業の際の事だと思われ、携帯電話に対する規範や役割分担など対策を考えたい。チーム作業における個人差についても見直しをしたい。
給食管理実習Ⅱ	フード2年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.7 (前年度比-0.3) と下がっており、1年生の時の実習Ⅰと比べて、運営の仕方を工夫して学生の意欲を高めたい。
栄養士基礎演習	フード1年	卒業必修	総合評価 3.4 (-0.3) および問2「わからない時に質問または自分で調べた」3.2 (±0) の結果を受けて、栄養士養成課程の導入科目として、全項目の評価が上がる授業改善に努める。わからない点、苦手な内容はそのままにせず、各担当教員に積極的に質問してほしい。
栄養士総合演習Ⅱ	フード2年	卒業選択	総合評価 3.1 (-0.2) および問16「この授業のための一週間当たりの予習・復習時間」1.8 (2.0が1~30分) の結果を受け、栄養士養成課程の総復習科目(実力認定試験対策)として、学生自らも積極的な姿勢で臨んでほしい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	教授	原 浩美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
ピアノⅠ ピアノⅡ ピアノ演奏法 音楽保育 幼児問題研究セミナー 教育実習事前事後指導	幼児教育学科1年 幼児教育学科1年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科1年・2年	卒業必修・免許選択必修 卒業必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・免許必修資格選択必修
研究分野		
<p>1. ピアノ音楽教育の分野 こどもの音楽において、ピアノ演奏が関わる技術や表現のあり方を研究。こどものピアノコンクールの審査を通して、ピアノが音楽教育に果たす役割とピアノ指導法について研究する。</p> <p>2. ピアノ演奏法の分野 演奏活動を通して表現・技術を深める研究。奏法の研究、作品のアナリゼ、演奏準備（練習）という一連の研究から実践し演奏の機会を設けて自己評価する。</p> <p>3. 保育者養成の分野 保育士および幼稚園教諭の養成において、ピアノが関わる分野を研究。保育指導やその生活の中で必要とされるピアノ演奏を習得させるための有効な指導法を研究する。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. ピアノ音楽教育に関する研究
ピアノコンクールの審査員として、こどものピアノ演奏・表現方法技術を聴き取り、評価した。
2. ピアノ演奏法に関する研究
久留米シティプラザで4回の演奏会に出演し、それぞれの演奏会の主旨、意図する内容に応じた演奏活動・研究をした。さらに東京での邦人作曲家の作品演奏会に出演し、作品の意図する内容を表現する手法を研究し演奏した。
3. 保育者養成に関する研究
 - ①第 69 回日本保育学会で、ポスター発表した。
 - ②全国大学音楽教育学会に参加し、教授方法を研究した。

平成 28 年度の研究の成果

(発表)

- 1、「音楽胎教の効果について」—保育園における発達測定の結果から— 平成 28 年 5 月 7、8 日
第 69 回日本保育学会 東京学芸大学小金井キャンパス

(演奏)

- 1、久留米市民オーケストラ第 28 回定期演奏会 平成 28 年 5 月 21 日 久留米シティプラザ・グランドホール
- 2、東日本大震災・熊本地震復興支援公演「緑の追想」 平成 28 年 6 月 26 日 久留米シティプラザ・グランドホール
- 3、アルビレオ音楽展 XXVIII 平成 28 年 6 月 28 日 東京すみだトリフォニーホール小ホール
- 4、ひびきの会定期演奏会 平成 28 年 9 月 11 日 えーるピア久留米視聴覚ホール
- 5、教員研究会 平成 28 年 9 月 14 日 本学音楽室
- 6、北筑後ブロック音楽祭 平成 28 年 10 月 30 日 久留米シティプラザ・久留米座
- 7、久留米連合文化会洋楽部コンサート 平成 28 年 11 月 23 日 久留米シティプラザ・久留米座

(審査)

- 1、Kawai Music Competition 平成 28 年 12 月 23、25 日石橋文化センター共同ホール

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

平成 27 年度

(演奏)

- 1、「ムジカ耳納 もみじコンサート」 独奏 音楽家集団「ムジカ耳納」田村音楽スタジオ
平成 27 年 11 月
- 2「La Serata Musicale ～音楽の夕べ～」 独奏 クララザール 平成 27 年 11 月

(発表)

- 1、「子どもの歌の弾き歌いにおける調性の問題」 共同 日本保育学会第 68 回大会 相山女子大学（名古屋） 平成 27 年 5 月

(審査)

- 1、「2016 Kawai Music Competition こどもコンクール」 単独 カワイ音楽コンクール委員会
石橋文化センター共同ホール 平成 27 年 12 月
- 2、「2016 Kawai Music Competition 音楽コンクール」 単独 カワイ音楽コンクール委員会
文化センター共同ホール 平成 27 年 12 月

(その他)

1. 学生のピアノ演奏学習がより充実するように、授業時に活用できるサブテキストを非常勤講師と考案したものを27年度から使用。

2. 全国大学音楽教育学会 下関大会に参加

平成26年度

(論文)

1. 「ピアノ実技指導に関する一考察 ―短期大学生の実態から―」 単著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第37号(23~31) 平成26年7月

(演奏)

1. 「ムジカ耳納の音を紡いで」 単独 音楽家集団「ムジカ耳納」 えるピア久留米視聴覚ホール 平成26年12月

2. 「インガットホールロビーコンサート」 単独 インガットホール活用実行委員会 久留米市城島総合文化センターインガットホール 平成26年11月

3. 「連文コンサート 音楽の贈り物」 単独 久留米連合文化会 えるピア久留米視聴覚ホール 平成27年2月

(発表)

1. 「新生児における歌声への反応に関しての一考察」 共同 日本保育学会第67回大会 大阪城南女子短期大学(大阪) 平成26年5月

2. 「日本の子どもの歌曲集に見る子どもの歌の課題～調性について～」 単独 全国大学音楽教育学会第30回全国大会 東京ガーデンパレス(東京) 平成26年8月

(審査)

1. 「2015カワイこどもコンクール」 単独 カワイ音楽コンクール委員会 文化センター共同ホール 平成26年12月

2. 「2015カワイ音楽コンクール」 単独 カワイ音楽コンクール委員会 文化センター共同ホール 平成26年12月

(その他)

1. 学生のピアノ演奏学習がより充実するように、授業時に活用できるサブテキストを非常勤講師と考案し作成した。27年度から使用。

本教員の主たる研究の成果(5編以内)

1、原浩美久留米市芸術奨励賞 特別賞受賞記念ピアノリサイタル 単独 グループ春の声 文化センター共同ホール 平成5年2月24日

2、『芸術のコミュニケーションテクノロジー 創造理論とその展開』共著 創元社 平成13年9月

3、「近・現代日本の「子どもの歌」における特徴的傾向」単著 『国際幼児教育研究 第14号』 平成19年3月

4、「邦人作品のピアノ曲についての一考察」単著 『九州公私立大学音楽学会音楽研究 創刊号』 平成23年10月

5、原浩美ピアノリサイタル～クラヴィーア アーベント vol. 4～ 単独 原浩美ピアノリサイタル実行委員会 えるピア久留米視聴覚ホール 平成25年9月7日

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	不参加
九州公私立大学音楽学会	不参加
日本保育学会	参加
全国大学音楽教育学会	参加

平成 29 年度 研究計画

1. ピアノ音楽教育に関する研究
ピアノコンクールの審査を通して、こどもの演奏技術・表現技術を習得するための指導方法の研究を継続する。
2. ピアノ演奏法に関する研究
地域に根差した演奏活動を継続する。
3. 保育者養成に関する研究
 - ①共同研究を継続する。全国大学音楽教育学会、国際幼児教育学会で研究発表する。
 - ②保育指導の中で必要とされるピアノ演奏技術を、ピアノ経験初心者に習得させるための有効な指導法の共同研究を継続する

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の向上心が上がる環境づくり。 ・授業評価の評価ポイントが 4.5 以上になることを目指す。 	<p>相互評価シートの活用をとおして自己分析する力を付けさせたい。</p> <p>授業評価ポイントの目標値は、4.5 を掲げたものの、各項目に差が出る。次年度は、問 3、問 4、問 16 についてのポイントアップに努め、その具体的手法や改善を考えていきたい。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
ピアノⅡ	幼児教育学科 1 年生 B クラス	平成 28 年 12 月 15 日

自己評価	他者評価
<p>学生の授業に参加する姿勢はとても良い。一人ひとりが「個」として注目されるゆえに、自ずと自己学習意欲は増して公開授業を迎えている。15 回このような状態が続けば、高い技術が習得できるだろう。しかしなかなか難しい問題があるので、モチベーションを如何に保たせるかが課題であるとおつくづく思う。また、音楽であるから「ピアノを弾ける喜び、そして恐れずに弾く自信」を持たせたい。保育者として、音楽＝ピアノが好き、と感じてもらえるにはどのような方法があるかも課題の一つである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シートを通して相互評価がなされているようでした。 ・適宜、学生へ質問したり演奏の師範をしたり学生の考えや質問を引き出す工夫をなさっていたと思います。 ・楽理の小テストの解説が導入としてあったのが良かった。学生の理解も深まると思います。 ・板書はありませんでしたが、各人のレベルに応じて細やかな働きかけ、適切な指導がなされていると感じました。
	参加教員
	岡部千鶴教授、生地篤講師、新井真実助教

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

- ・問 2 「私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした」では、ピアノⅠ 4.5→ピアノⅡ 4.6 と 0.1 ポイント上昇。さらに丁寧に聞きだし、かつ配慮が必要と考える。
- ・問 4 「私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」では、ピアノⅠ 4.6→ピアノⅡ 4.9

と 0.3 ポイント上昇。この項目は学習意欲と専門技能を深める意識の向上のあらわれとして今後も丁寧に指導していきたい

- ・問 16「私は、この授業のために予習・復習をした」では、ピアノⅠ3.6→ピアノⅡ3.9と0.3ポイント上昇。これも学生の専門技術獲得のための基本姿勢が習慣化してきたと考える。
一方で、マイナスになった内容を一つ一つチェックし、振り返り改善していきたい。
- ・問 9は常に低いポイントである。板書は環境上出来ないが、視聴覚機器の利用はもっと前向きに取り入れるべきかもしれないと考える。
学生の演奏技術をより一層高められた結果としてポイントが向上する一面もあると思うので、一人ひとりに配慮しながら丁寧に授業に臨みたいと思う。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言

平成 29 年度の教育力向上のための計画

【目標】

学習意欲・技術の向上

【成果の指標】

学生による授業評価の問 3、問 4、問 16 の項目の評価を上げる。

実技小テスト、筆記テスト等の実施で自主学習の意欲を高める。

身近な幼児の歌を取り入れ、簡易伴奏の方法や考え方を必要に応じて指導する。

模範演奏を多く取り入れ、「聴く」ことから感じ、学ぶ姿勢をつくりたい。

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名

講演年月日

主催者

場所

他団体等への協力

協力内容

協力期間

協力先

久留米市文化芸術振興審議会委員

平成 28 年 4 月
～平成 29 年 3 月

久留米市

久留米音楽協会 NPO 理事

平成 28 年 4 月
～平成 29 年 3 月

特定非営利活動久留米
音楽協会

カワイこどもコンクール審査・講評

平成 28 年 12 月

カワイ音楽コンクール
委員会

久留米連合文化会理事

平成 28 年 4 月
～平成 29 年 3 月

久留米連合文化会

高等教育コンソーシアム広報交流部会部会長

平成 28 年 4 月
～平成 29 年 3 月

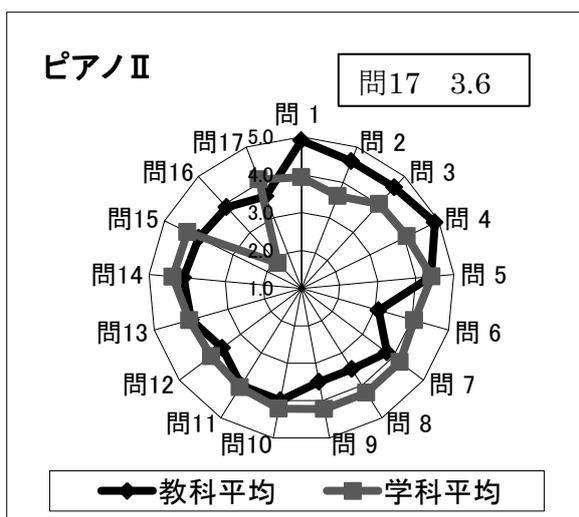
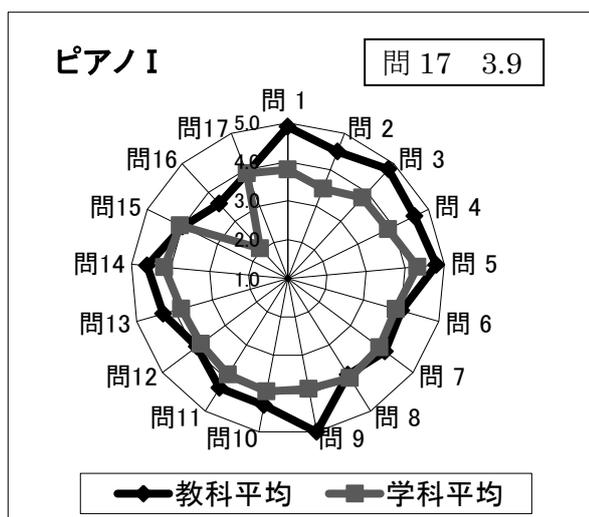
他大学への非常勤等		
科目名	期間	出向先
音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・表現Ⅰ	平成28年4月 ～平成29年3月	近畿大学九州短期大学通信教育部
ピアノレッスン	平成28年4月 ～平成29年3月	共生館国際福祉医療カレッジ
その他特記事項		
内容		年 月 日
平成29年度 社会的活動計画		
<p>(他団体への協力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 久留米市芸術振興審議会委員 (奨励賞選考委員) 2. 久留米音楽協会 NPO 理事 3. カワイこども・音楽コンクール審査 4. 久留米連合文化会理事 5. 高等教育コンソーシアム広報交流部会員 <p>(他大学への非常勤)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近畿大学九州短期大学通信教育部 2. 共生館国際福祉医療カレッジ 		

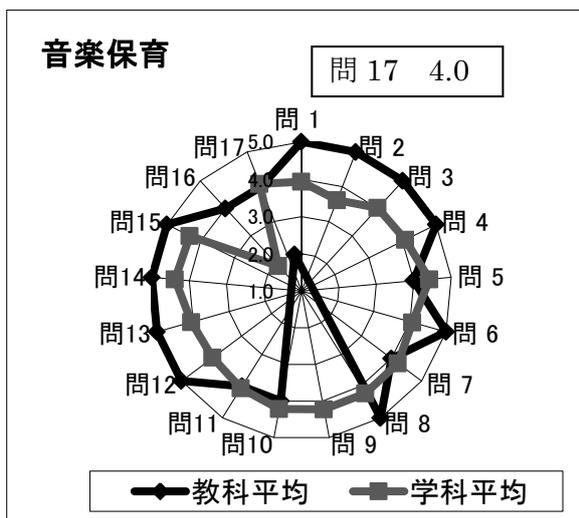
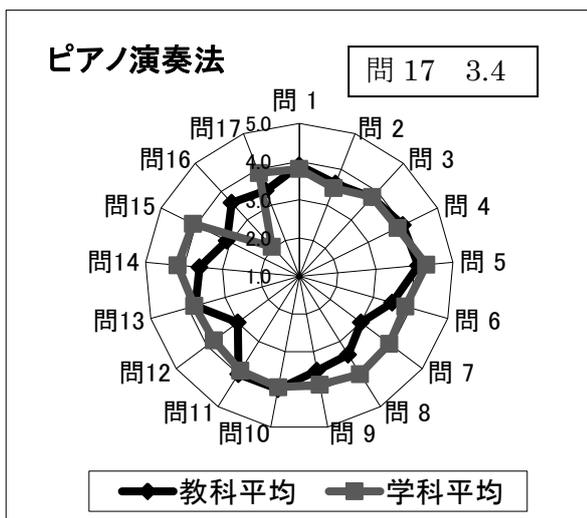
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
ピアノⅠ	幼児教育 学科1年	卒業必修	個々の学生に応じた指導を行う中で、ピアノを苦手とする学生への配慮や具体的練習方法を分かりやすく教示する。
ピアノⅡ	幼児教育 学科1年	卒業必修	保育の音楽の重要性を理解させることに配慮し、ピアノ演奏技術を個々に応じて向上させる。
ピアノ演奏法	幼児教育 学科2年	卒業選択 資格選択	保育現場で活かせる幼児の歌や子どもの活動に合わせた音楽を演奏する技術を、学生自身も楽しみを感じながら修得させる
音楽保育	幼児教育 学科2年	資格選択 必修	学生と十分に話し合い、どのような演奏技術をめざすか目標をしっかりと定めた結果、授業に集中し学習意欲も途切れることなく充実していた。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	准教授	重永 茂
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
社会的養護内容 児童家庭福祉 社会福祉論 相談援助 社会福祉概論 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科 2 年生 幼児教育学科 1 年生 幼児教育学科 1 年生 幼児教育学科 2 年生 フードデザイン学科 2 年 生 幼児教育学科 2 年生	保育士必修 卒業・保育士必修 保育士必修 保育士必修 栄養士必修 卒業選択
研究分野		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童問題への福祉的アプローチ ・ 障がい児をめぐる動向 ・ ボランティア活動実践の意義 ・ 公的扶助の動向 		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

施設実習に関する学生の意識の変化をもとにした実践課題の考察

平成 28 年度の研究の成果

なし

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(研究ノート)

1. 『施設実習の前後での本学幼児教育学科学生の意識調査』 共著 平成 26 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』(69 - 76)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 「幼児教育学科学生のボランティア活動に対する意識と課題」 共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 34 号』(85 - 96) 平成 23 年 9 月
2. 「東日本大震災の幼児教育学科学生のボランティア活動に対する意識の変化」 共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 35 号』(67 - 81) 平成 24 年 7 月
3. 「施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査」 共著『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』(55 - 56) 平成 25 年 7 月
4. 「施設実習の前後での本学幼児教育学科学生の意識調査」 共著『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 37 号』(69 - 76) 平成 26 年 7 月
5. 「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」 共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(69 - 78) 平成 27 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会

参加状況および役職等

日本地域福祉学会

不参加

平成 29 年度 研究計画

- ・ ボランティア活動の社会的意義
- ・ 公的扶助の在り方をめぐる動向
- ・ 施設実習を通じた意識の変化及び背景

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・双方向授業への工夫 ・理解状況の確認の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目間により上下はあるが「質問」に低下傾向がみられた。質問しやすい雰囲気への配慮等、工夫した取り組みの必要性を感じた。 ・「理解」は全科目にわたり、改善を要する項目と感じている。理解度確認の為にレポート提出等の工夫により、個々の学生、学生共通の理解不足と思える点を中心に補足・再説明等を実施していく。 ・授業開始・終了時の質問タイム、理解度確認は不十分であった。必要に応じた再説明は実践できた。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
社会福祉概論	フードデザイン学科 2 年	平成 29 年 1 月 23 日 (月) 1 講時

自己評価	他者評価
前年 12 月に実施の「栄養士実力試験」出題問題の解説及び関連知識の再確認を行った。時間配分は適切であったと思われる。	身近なテーマ (介護制度等) で、よく理解出来た。
	参加教員
	Sr. 阿久根政子教授、原浩美教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

学生にとってタイムリー、又身近なテーマ等についての関心に基づく理解は得られたと思われる。しかしながら、当該授業内容との関連の説明が十分でなく、その点の工夫・改善の必要性を感じた。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双方向授業への工夫 ・理解状況の確認の徹底 <p>【成果の指標】</p> <p>問 2「私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした。」と問 3「私は、授業内容を理解することができた。」の項目の評価を上げる。</p>	<p>前週の要点を説明と共にふり返り、当該週との関連のもと確かな把握、深い理解へ結びつける。</p>

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
児童福祉論	4月1日～9月30日	熊本大学
社会福祉援助技術論Ⅳ	10月1日～3月31日	熊本大学

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 29 年度 社会的活動計画

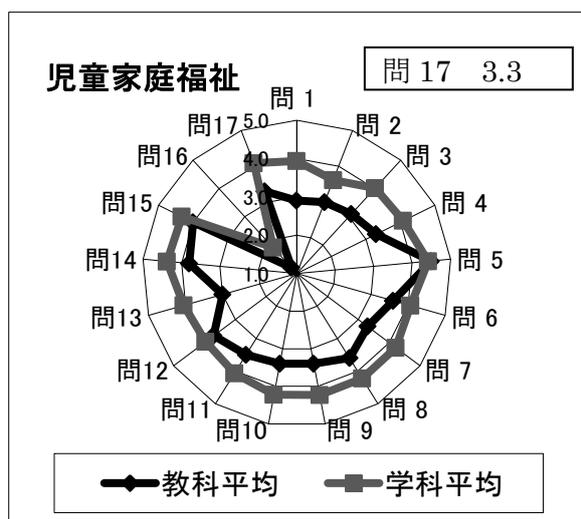
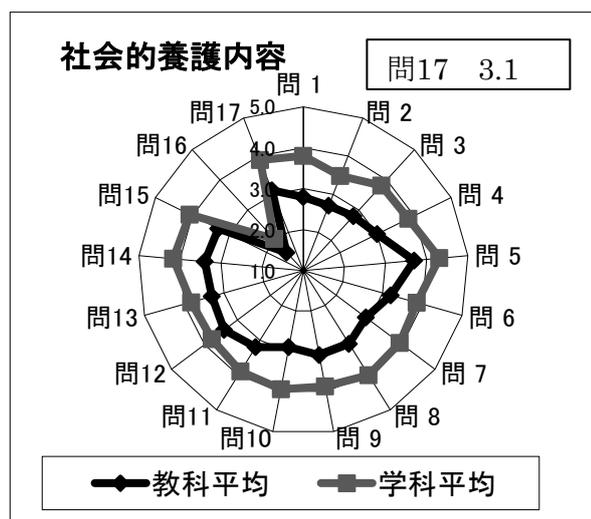
--

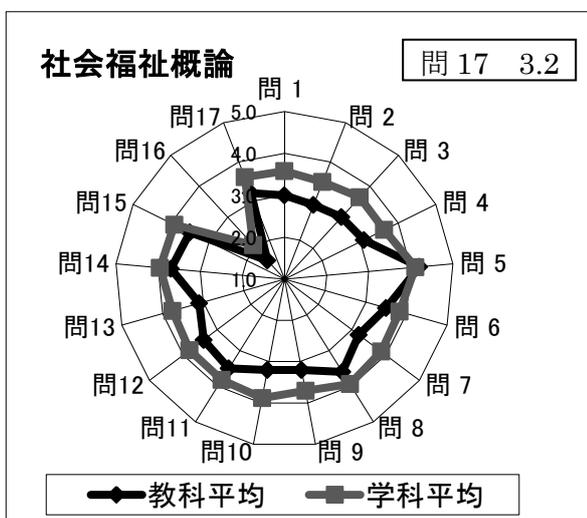
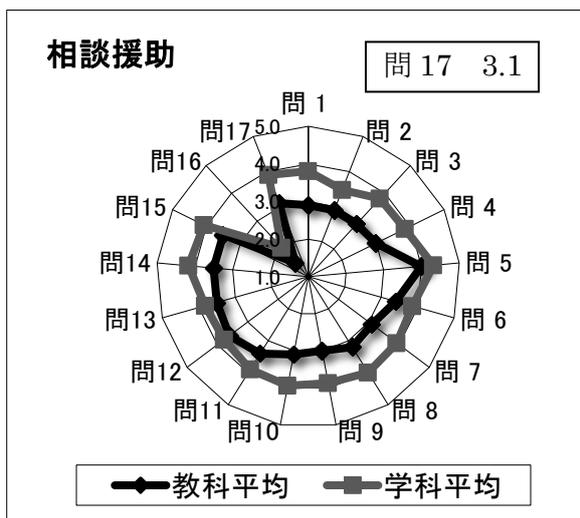
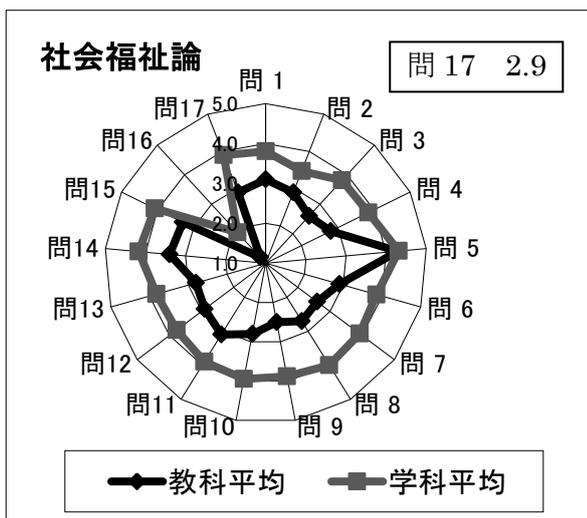
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
社会的養護内容	幼 2	必修	質問に関する平均値が低いことから、質問しやすい雰囲気及びその方法の工夫等を改善し、確かな理解へつなげていきたい。
児童家庭福祉	幼 1	必修	毎回の授業のテーマや目的に関する数値が低いことから、前回との関連等、開始時に時間を割いて効果的な授業へつなげていきたい。
社会福祉論	幼 1	必修	「板書の仕方を解りやすく」というコメントを受け、当該授業内容の全体的ポイント、主要内容の表記等を明確にする等、改善・工夫していきたい。
相談援助	幼 2	必修	質問に対する平均値が低かった事から、些細なことも疑問として積み残さないよう質問（再確認）していける雰囲気づくりを心掛けていく。
社会福祉概論	フード 2	必修	他の項目に比べ、質問に関する項目が低めであった事から、自由に、些細な事柄の再確認も含め、質問できる時間を設けていきたい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	准教授	進藤 務子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
幼児音楽Ⅰ	幼児教育学科 1年	卒業・教職・保育士必修
幼児音楽Ⅱ	〃 1年	卒業・教職・保育士必修
幼児音楽Ⅲ	〃 2年	卒業・保育士選択
音楽保育	〃 2年	卒業選択・資格選択必修
保育実習Ⅰ	〃 1年・2年	保育士必修
保育実習指導Ⅰ	〃 1年・2年	保育士必修
研究分野		
<p>1.宗教音楽学の分野 カトリック学校における音楽教育に関する研究。人間教育としての音楽の関わり特に、礼拝や教育活動を通しての美育への価値観について研究している。</p> <p>2.パイプオルガン演奏法の分野 日本オルガニスト協会に所属し、オルガン音楽の普及と発展の為に実践的研究を行っている。</p> <p>3.保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成に関する研究。保育者養成における実習について、保育実習指導を中心に研究を行っている。</p> <p>4.幼児音楽教育の分野 幼児音楽教育法に関する理論研究及び指導法について、保育者養成の視点から研究を行っている。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 宗教音楽教育に関する研究

現代のカトリック学校の使命である「心の教育」の考察を通して、芸術と宗教の重要性に関して研究を進めている。特に、カトリック学校の保育者養成における幼児期の音楽教育について、「心をはぐくむ幼児音楽教育—第 3 章『霊的遺産としての音楽継承』—」を執筆中である。

2. オルガン演奏法に関する実践的研究

日本オルガニスト協会に属し、日本における最近のオルガン仕様及びオルガニストの動向に目を向け、歴史的オルガン演奏法を学びつつ、新時代での創造的演奏法について研究を行った。演奏法に関する実践は、久留米カトリック教会、久留米幼きイエズス修道院、本学の宗教行事及び礼拝時に行った。

3. 保育士養成に関する研究

平成 27 年度から新しい子ども・子育て支援制度が始まり、社会全体からも保育者の質の向上が期待されている。多様化する社会状況の中で、現在保育者に求められている資質について研究を深め、「信愛保育とは何か」について学生に学ばせるよう指導法を研究し、実践を行っている。

4. 幼児音楽教育に関する研究

幼児音楽教育法に関しては、テーマ「弾き歌いの実践力アップ」の指導法を継続研究している。近年表現や演奏経験が皆無の学生が多数在学する中で、スキルの向上及び探究心を養成することが重要となる。保育における幼児音楽教育の果たす役割を学生達に学ばせ、自信を持って保育現場に立てるよう指導法の研究を重ねている。さらに学校教育における科目「英語」をめぐる社会の動向について学び、近い将来、幼児期で行われる「歌遊び」としての英語教育について研究を行っている。イギリスやオーストラリア等の幼児音楽教育先進国でのカリキュラム研究を進めている。

平成 28 年度の研究の成果

なし

平成 27 年度および 26 年度の研究の成果

(研究ノート)

1. 「音楽教育課程における保育者養成の為の実践的指導法」単著 平成 27 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(59～67)

(報告)

2. 「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著 平成 27 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(69～78)

(テキスト)

1. 「実習の手引き」 共著 平成 27 年 4 月 改訂

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 「日本・キリシタン音楽教育の原点—南蛮文化との出会い；イエズス会士 A. ヴァリニャーノによるミッション教育の軌跡の探訪—」単著 平成 19 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 30 号』

2. 「心をはぐくむ幼児音楽教育—第 1 章『創造性と幼児音楽教育』」

単著 平成 22 年 9 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 33 号』(29～34)

3. 「心をはぐくむ幼児音楽教育—第 2 章『子どもの感性と音楽の精神世界』」

単著 平成 24 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 35 号』(41～48)

4. 「パイプオルガンコンサート」(単独演奏会) 平成 16 年 5 月 広島 世界平和記念聖堂

5. 「ザビエル生誕 500 年記念パイプオルガンコンサート」(単独演奏会) 平成 18 年 10 月 久留米信愛女学院短期大学講堂	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本オルガニスト協会 (学会)	不参加
キリスト教礼拝音楽学会	不参加
日本音楽教育学会	不参加
全国保育士養成セミナー	不参加
平成 29 年度 研究計画	
1. 宗教音楽教育に関する研究 カトリック学校における音楽教育に関して研究を行う。 2. オルガン演奏法に関する研究 パイプオルガンの演奏法に関して実践的研究を行う。 3. 保育士養成に関する研究 保育士養成に関して共同研究を行う。 4. 幼児音楽に関する研究 幼児音楽に関して保育者養成の視点から研究を行う。	

平成 28 年度 教育活動報告		
平成 28 年度の F D 宣言とその評価		
F D 宣言	自己評価	
[目標] 学生の実践力アップの授業改善 [成果の指標] ・「幼児音楽Ⅰ」「幼児音楽Ⅲ」の授業科目の学生による授業評価の間 2. 「私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目の評価をアップする。	・幼児音楽Ⅰの授業評価の総合評価 平成 27 年度 4.4 平成 28 年度 4.0 -0.4 ・幼児音楽Ⅲの授業評価の総合評価 平成 27 年度 3.9 平成 28 年度 4.2 +0.3 プラスの教科もあればマイナスの教科もあり、引き続きこの目標を上げたい。	
公開授業とその評価		
公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
幼児音楽Ⅰ	幼児教育学科 1 年 A クラス (必修)	平成 28 年 12 月 13 日 (火)
自己評価	他者評価	
・現在、音楽経験が乏しく、まったくピアノが弾けず入学してくる学生がほとんどである。授業準備を行い、音楽的基礎技能の習得に向け、努力する姿勢を身に付けることが課題である。また、人前で演奏発表することを体験し、保育者として必要な技術を	・保育に活用できる有意義な音楽指導をなさっていると感じました。 ・音楽だけでなく、子どもたちに楽しさを伝える保育者となるための総合的な指導がなされていた。	

<p>養ってほしいと考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやり、広い視野といった信愛保育の心を育んでいることが伝わってきました。 ・私の科目と全然違う雰囲気、皆楽しそうな授業で、これからの授業の在り方を考えさせられた。 ・ノートは、卒業後の財産となるような素晴らしい出来栄でした。
	<p>参加教員</p>
	<p>檜山フミエ教授 新井真実助教 櫻井晋伍助教</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

・平成 28 年度は「幼児音楽Ⅰ・Ⅲ」の科目の授業改善に取り組んだ。特に、授業評価アンケートの問 2「私は、わからない時には質問したり、調べたりした」の項目に力を入れた。具体的な改善策として、図書館の利用を促し、ノート作りの充実を計った。幼児の発達段階にしっかり注意を払った教材研究や実践的な指導計画を立案し、率先力をもった保育者を養成することが課題であった。学生の授業評価・コメントには、多くの幼児音楽を知り、演奏できるレポーターが増え、実習や就職に役立ったことへの謝辞が述べられていた。信愛保育の実践者である学生を養成するためには、卒業後も自力開発していく力が必要となる。今後の課題は、全学生の音楽経験が乏しい現状を克服し、実践力・率先力を養成できる指導法を研究していくことにある。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>[目標]</p> <p>学生の実践力アップの授業改善（継続）</p> <p>[成果の指標]</p> <p>授業評価アンケートの問 2「私は、わからない時には質問したり、自分調べたりした」の項目の評価を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート作りを充実させる。 ・練習時間チェックカレンダー作成させる。 ・習熟度に対応した指導を強化する。 ・常に学外実習や就職試験を念頭に置いて授業に臨むよう充分配慮する。 ・図書館と連携をとる。

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
・高大連携講座「音楽で遊ぼう」	平成 28 年 8 月		久留米信愛女学院
・高大連携講座「音楽で遊ぼう」	17 日 (火)		高等学校
・高大連携講座「音楽で遊ぼう」	平成 28 年 10 月		朝倉光陽高等学校
・高大連携講座「音楽で遊ぼう」	14 日 (金)		
	平成 28 年 11 月		福岡海星女学院
	5 日 (土)		
	平成 28 年 11 月		南筑高等学校
	7 日 (月)		

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
なし		

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
なし	

平成 28 年度 社会的活動計画

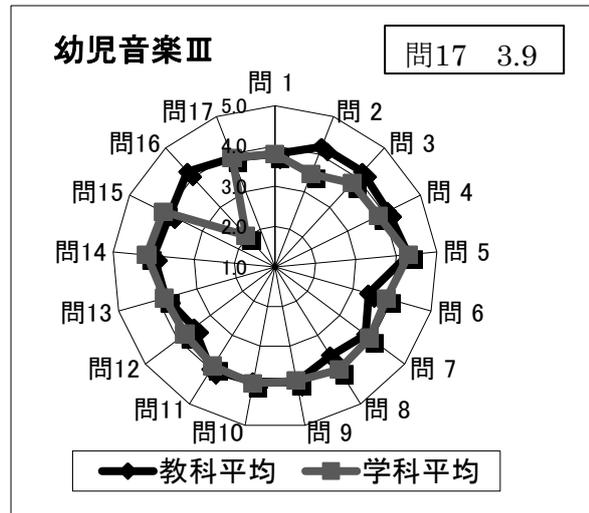
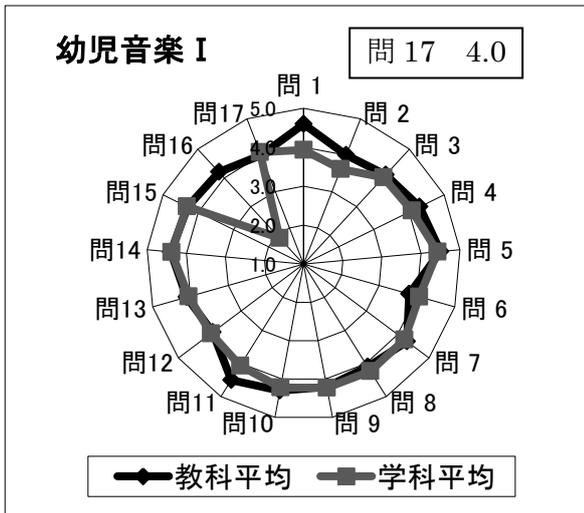
なし

平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
幼児音楽Ⅰ	1年後期	必修	授業評価の結果を受け、各問いにおいて、学科平均より上回っており、学生たちが本授業に意欲的に取り組んだ様子が理解できる。ただ、演奏技術習得に関しては、日々の努力の積み重ねが不可欠であり、継続して学んでほしい。
幼児音楽Ⅲ	2年前期	必修	今学期の学生は、音楽経験が乏しく、ほとんどピアノ演奏の初心者であったが、欠席も少なく授業準備にかける時間も次第に増え、努力する姿勢が身についてきたようだ。各人の職場で、実践を深めてほしい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	准教授	山村 涼子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
調理学 栄養士基礎演習（3回） 献立デザイン演習 基礎調理学実習Ⅰ 基礎調理学実習Ⅱ 製菓・製パン演習 キャリアガイダンスⅠ 応用調理学実習Ⅰ 応用調理学実習Ⅱ 給食実務論 校外給食管理実習Ⅰ 栄養士総合演習Ⅱ（2回） 卒業セミナー 調理デザイン演習Ⅱ（5回） キャリアガイダンスⅡ	フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年	卒業・栄養士必修 卒業必修 卒業必修 卒業・栄養士必修 卒業・栄養士必修 卒業選択 卒業選択 卒業選択 卒業選択 卒業・栄養士必修 卒業選択 卒業選択 卒業選択 卒業選択 卒業選択 卒業選択
研究分野		
<p>1. 調理学の分野 学生に対して、食品素材の知識や取り扱い方、調理機能を生かした基本的な調理操作などを習得させるにあたり、師範や指導方法、また指標となるための資料作成などの研究を行っている。</p> <p>2. 食教育の分野 管理栄養士という立場から、健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行っている。</p> <p>3. 栄養士養成の分野 栄養士養成に関する研究。栄養士養成という立場から、カリキュラム論・方法論について研究を行っている。</p> <p>4. キャリア教育の分野 学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系の科目について、より効果的な授業内容や方法等を研究している。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 調理学に関する研究
 - ・調理学や献立作成に関する講義や実習、また新規開講の演習科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行った。とくに新規開講演習科目については初年度の実施内容を見直し、次年度に向けて科目名・内容の検討を重ねた。
2. 食教育に関する研究
 - ・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を継続して行った。
 - ・健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行い、本学研究紀要第 39 号に発表した。
3. 栄養士養成に関する研究
 - ・「入学から卒業までのガイドブック 七訂版」作成に向け、見直し等を学科の教員間で行い、内容・構成を検討した。
4. キャリア教育の分野
 - ・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行った。

平成 28 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究(4) 学習支援に対する効果の2年間の分析」共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 39 号』(21~25)

(研究ノート)

1. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第2報」共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 39 号』(51~56)

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック 七訂版」発行 共著 平成 28 年 4 月 フードデザイン学科
2. 「キャリア形成支援BOOK 2016」発行 共著 平成 28 年 4 月 キャリア形成支援推進室

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究(2) 学習支援に対する効果」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』(41~47)
2. 「栄養士養成研究(3) 生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要 38 号』(25~33)

(研究ノート)

1. 「学生の食事にみる日常食の実態—食事調査からの考察—」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』(77~80)
2. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第1報」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』(53~58)

(報告)

1. 「学生の積極的参加を促す授業改善事例集」共著 平成 27 年 3 月 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業選定「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」九州・沖縄・山口地域大学グループ/授業改善グループ
2. 「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト 自己点検・評価報告書(平成 24~平成 26 年度)」共著 平成 27 年 3 月 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業選定「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」九州・沖縄・山口地域大学グループ/幹事会
3. 「子育て支援講座における食育の取り組み」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』(91~97)

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック 五訂版」発行 共著 平成 26 年 4 月 フードデザイン学科
2. 「キャリア形成支援BOOK 2014」発行 共著 平成 26 年 4 月 キャリア形成支援推進室
3. レシピ集「JAくるめ くるめのうまかもんレシピ」監修 平成 26 年 10 月 JAくるめ
4. 「入学から卒業までのガイドブック 六訂版」発行 共著 平成 27 年 4 月 フードデザイン学科
5. 「キャリア形成支援BOOK 2015」発行 共著 平成 27 年 4 月 キャリア形成支援推進室

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(論文)

- ・「小児肥満における腹部CTの有用性」共著『筑後小児科医会会報第 12 号別冊』 平成 10 年 10 月
- ・「保護者の肥満認識と児の生活背景」共著『小児保健研究第 58 巻第 2 号』 平成 11 年 3 月
- ・「子どもの肥満」共著『久留米医学会雑誌 第 73 巻 第 5・6 号 別冊』 平成 22 年 6 月

(発表)

- ・「小児生活習慣病外来における肥満改善は可能か」共同 第 55 回日本小児保健学会 於：札幌 平成 20 年 9 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会	第 63 回学術総会不参加
日本小児保健協会	第 63 回学術集会不参加
日本調理科学会	平成 28 年度全国大会不参加 平成 28 年度九州支部学会不参加

平成 29 年度 研究計画

1. 調理学に関する研究
 - ・調理学や献立作成に関する講義や実習、また新規開講予定の演習科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。
2. 食教育に関する研究
 - ・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を継続して行う。
 - ・健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行う。
3. 栄養士養成に関する研究
 - ・「入学から卒業までのガイドブック」の見直し、および学生への学習支援についての検討を学科の教員間で行う。
 - ・学科の教員間で、アクティブラーニングを導入した授業内容や方法等の研究を行う。
4. キャリア教育の分野
 - ・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 学生の学習意欲、理解度、技術の向上 (特に栄養士専門科目について)</p> <p>【成果の指標】 学生による授業評価の問 2、問 3、問 4 の項目の評価を向上させる。</p>	<p>栄養士専門科目について、学生による授業評価の問 2、問 3、問 4 の前年度との比較は、問 2 は 3.6→3.8 (+0.2) 問 3 は 4.0→4.0 (±0.0)、問 4 は 3.9→4.0 (+0.1) であり、目標をほぼ達成することができた。</p> <p>次年度も引き続き、学生の学習意欲を引き出し、理解度や技術の向上につながるような授業内容を検討したい。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
キャリアガイダンス I	フードデザイン学科 1 年	平成 28 年 12 月 15 日 (木)

自己評価	他者評価
<p>本授業の内容は、前回の「履歴書の作成」の続きで、履歴書の中の自己紹介書部分の書き方を習得すること、その準備として、自己分析をしてみることであった。授業の初めに、各自で添削済みの履歴部分の確認と加筆修正を行ったあと、テキスト類や配布資料を使って自分の長所や短所を整理し、自己分析を行う。その後、自己紹介書部分の下書きをするというような授業計画であった。</p> <p>時間の関係上、自己分析用の配布プリントをすべて記入させることができず、次の段階へ進めてしまったので、自己紹介書部分の下書きをするには、準備がやや足りない状態になってしまったのが反省点である。教授方法も含め、授業内容のさらなる工夫が必要であると考え。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の復習から始めていたので、本授業につながりやすかった。 ・話すスピードや声の大きさ、ともに明瞭で聞き取りやすかった。 ・プリント配布のタイミングは良かったが、記入の仕方、内容の進め方には工夫が必要である。 ・学生が声かけしやすいよう机の間を歩くなど配慮されていた。 ・学生参加型のアクティブラーニングに近い授業内容で、居眠りの学生もなく、質問も活発に出ていた。ただ授業に関係のない私語をするグループもあり、気になった。
	<p>参加教員</p> <p>石井妙子教授 眞部真紀子准教授 生地暢准教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>栄養士専門科目の授業評価の問 2、問 3、問 4 の平均値が前年度よりも上がり、学生の学習意欲、理解度、技術の向上については目標を達成することができた。学生の自主学習の機会を与えるために、小テスト・実技テストの実施や課題・提出物を設定したことが結果につながったと考えられる。</p> <p>一方で、総合評価について、担当科目の平均値を前年度と比較すると 4.0→3.8 (-0.2) であった。特に「給食実務論」4.1→3.7 (-0.4)、「応用調理学実習 I・II」4.3→4.1 (-0.2) と 2 年生の科目が下がっており、これらの科目の評価では問 2、問 3、問 4 の値が低かったので、改めて学生の学習意欲を引き出し、理解度や技術の向上につながるような授業内容を検討する必要があると考える。</p>

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 学生の学習意欲、理解度、技術の向上とともに双方向の授業を行う。</p> <p>【成果の指標】 学生による授業評価の問 2、問 3、問 4、問 12 の項目の評価を向上させる。</p>	<p>小テスト・実技テストの実施、課題や提出物を設定して自主学習の機会を与え、誠意を持って評価する。</p> <p>多くの学生に発言や参加の機会を与えるような授業内容を検討し、コミュニケーションを取りやすいような雰囲気作りに配慮する。</p>

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
肥満について～小児肥満の現状～	28・5・26	柳川市保育協会	柳川市「水の郷」
食育とは、対象別の食育～食育のすすめ～	28・8・23	久留米市保健所	コスモすまいる北野
乳幼児期の食育について（講義・実習）①	28・8・24	筑後地方保育協会	久留米信愛短大
食育とは、対象別の食育～食育のすすめ～	28・8・25	久留米市保健所	えーるピア久留米
乳幼児期の食育について（講義・実習）②	28・8・26	筑後地方保育協会	久留米信愛短大
肥満について～小児肥満が及ぼす影響～	28・9・13	柳川市保育協会	柳川市「水の郷」
肥満について～小児肥満の対策～	28・11・22	柳川市保育協会	柳川市「水の郷」
タケノコの調理法	28・12・20	くるめ竹資源活用推進協議会	久留米大学御井学舎

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
小児生活習慣病外来にて栄養指導（週 1 回）	28・4・1～29・3・31	久大医療センター小児科
J A くるめ広報誌「With You」 レシピ掲載	28・1月号～29・3月号	J A くるめ
久留米市食育推進委員会 地産地消部会員	28・4・1～29・3・31	久留米市
久留米市中央卸売市場 青果取引委員会委員	28・4・1～29・3・31	久留米市
西日本新聞くるメディア レシピ掲載	28・4月号～29・3月号	西日本新聞社
「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会	28・4・1～29・3・31	株式会社久留米リサーチパーク
生活協同組合グリーンコープ 連合 レシピ掲載	28・9月号～29・3月号	生活協同組合グリーンコープ 連合

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
「健康教育実習」	28・5～28・6（前期 6 回）	久留米大学

その他特記事項

内容	年 月 日
なし	

平成 29 年度 社会的活動計画

○講演等

- ・筑後地方保育協会からの依頼によるもの 1 回
- ・久留米市生きがい健康づくり財団（えーるピア久留米）からの依頼によるもの 1 回

○他団体等への協力

- ・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来・栄養指導（29・4～30・3 毎週金曜日午後）
- ・久留米市食育推進委員会 地産地消部会員
- ・久留米市中央卸売市場取引委員会 青果取引委員会委員（29・4・1～30・11・30）
- ・J A くるめ広報誌「With You」、西日本新聞くるメディア、生活協同組合グリーンコープ連合 商品カタログへのレシピ掲載（29・4月号～30・3月号）

○他大学への非常勤

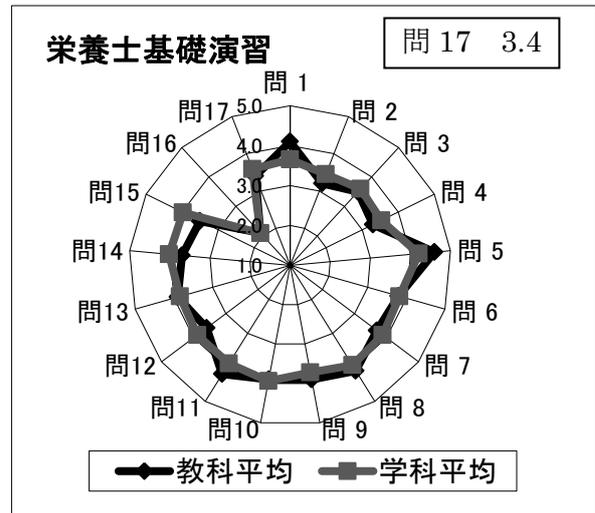
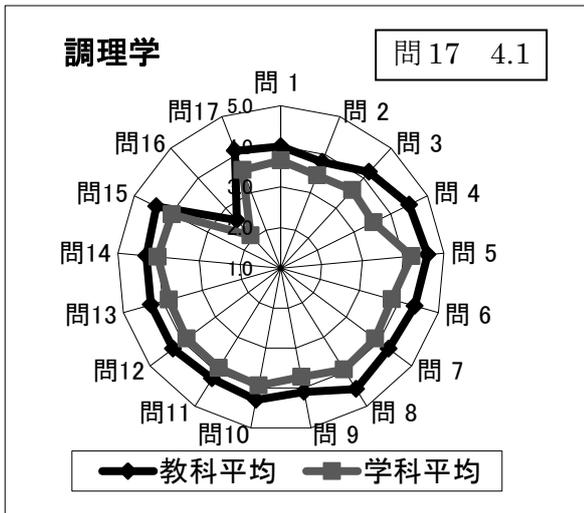
- ・久留米大学「健康教育実習」（29・5～29・6 前期 6 回）

平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

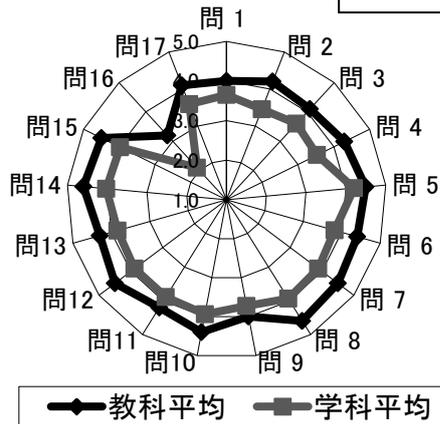
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）



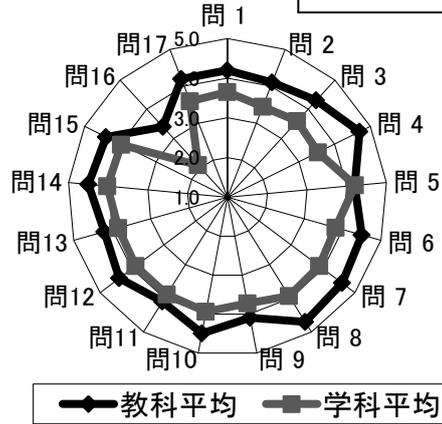
献立デザイン演習

問17 4.1



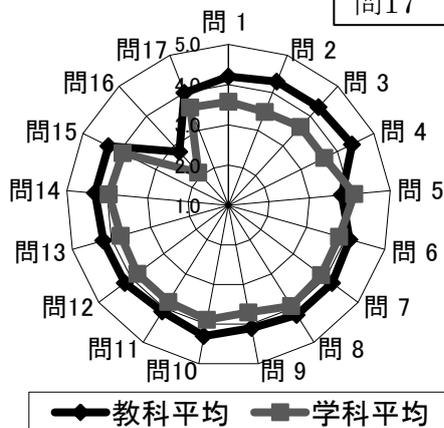
基礎調理学実習 I

問17 4.2



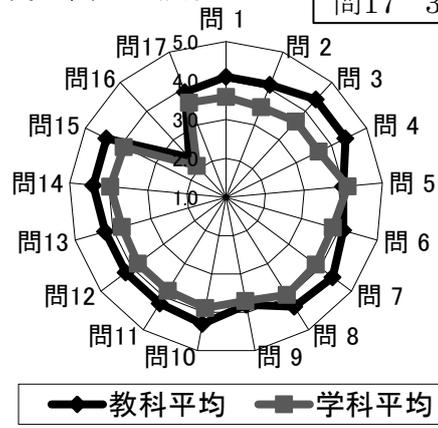
基礎調理学実習 II

問17 4.0



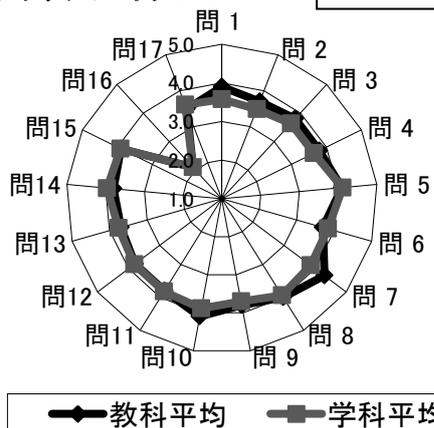
製菓・製パン演習

問17 3.9



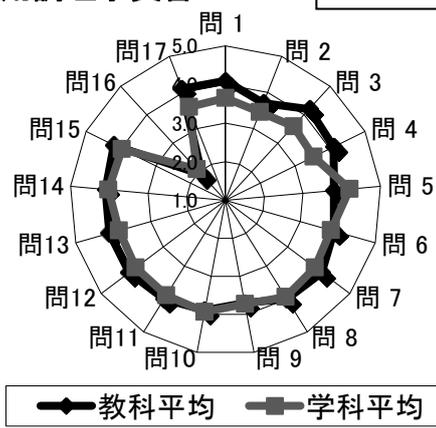
キャリアガイダンス I

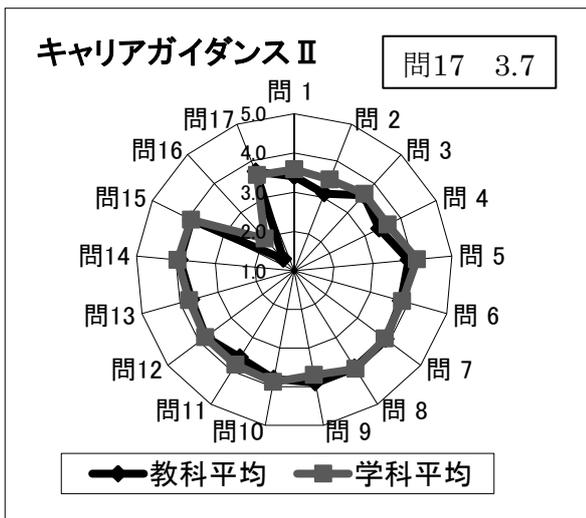
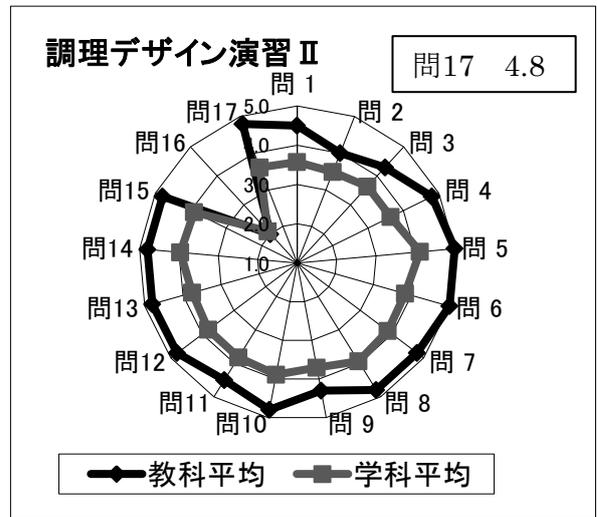
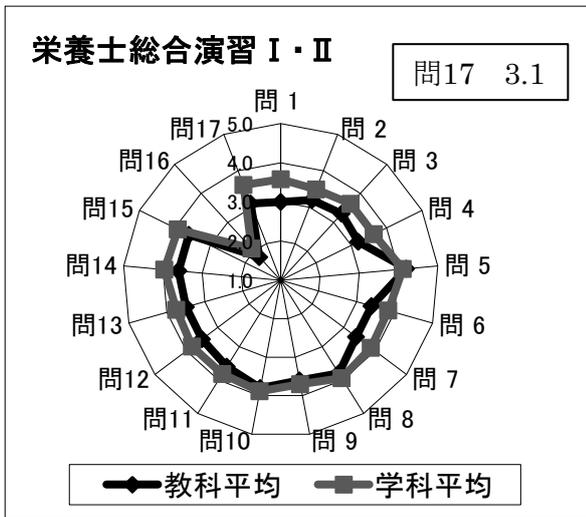
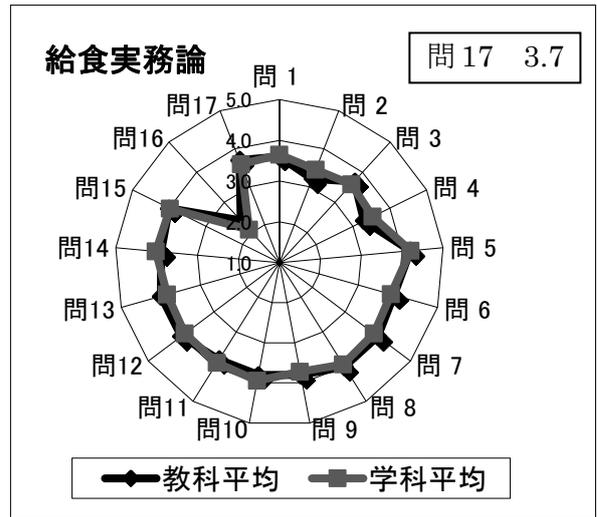
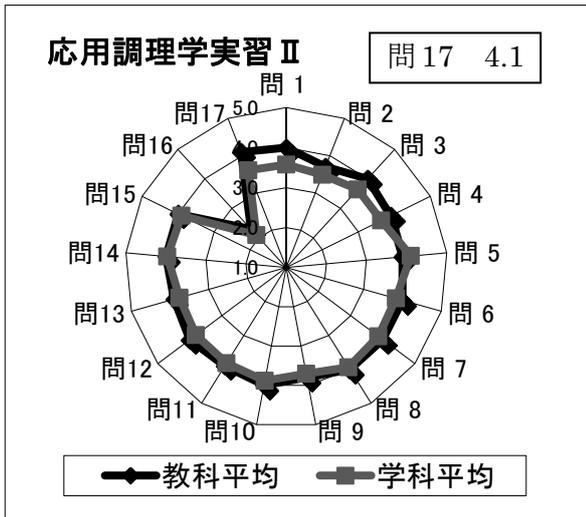
問17 3.5



応用調理学実習 I

問17 4.1





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
調理学	フード 1年	卒業・栄養 士必修	単元ごとに小テストを行ったが、授業評価では「テストは少し大変だったけど、理解度の確認ができて良かった」とのコメントもあり、次年度も引き続き検討したい。

栄養士基礎演習 (3回)	フード 1年	卒業必修	授業評価問2(3.2)、問4(3.3)の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。
献立デザイン演習	フード 1年	卒業必修	授業評価のコメント欄には「毎週課題に追われて大変だったけど、楽しくて役に立ち、実力もついた」の意見もあり、今後も引き続き、学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。
基礎調理学実習Ⅰ	フード 1年	卒業・栄養士必修	授業評価問4(4.7)の結果を受け、今後も学習意欲を引き出せるよう取り組みたいと思う。
基礎調理学実習Ⅱ	フード 1年	卒業・栄養士必修	授業評価問5(3.8)の結果を受け、実習内容の見直しを図りたい。学生も効率的な調理作業や技術の向上に努めてほしい。
製菓・製パン演習	フード 1年	卒業選択	総合評価3.9の結果を受け、授業内容や方法を見直し、評価が上がるよう努めたい。
キャリアガイダンスⅠ	フード 1年	卒業選択	総合評価3.5の結果を受け、授業内容や方法を見直し、評価が上がるよう努めたい。学生も積極的に意見や質問を出してほしい。
応用調理学実習Ⅰ	フード 2年	栄養士必修	授業評価の間2(3.7)の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫とともに、課題への取り組みなど自主学習の機会をつくりたいと思う。
応用調理学実習Ⅱ	フード 2年	栄養士必修	授業評価問2(3.7)、問4(3.9)の結果を受け、学習意欲を引き出せるよう工夫し、課題への取り組みなど自主学習の機会をつくりたいと思う。
給食実務論	フード 2年	卒業・栄養士必修	授業評価問2(3.2)、問4(3.3)の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。学生も授業で学んだことが校外実習で生かせるよう、目的意識をもって取り組んでほしい。
栄養士総合演習Ⅱ (2回)	フード 2年	卒業選択	授業評価問1(3.0)、問2(3.2)、問4(3.2)の結果を受け、栄養士必修科目の総まとめという意図を理解してもらおうとともに、学習意欲を向上させるような工夫を検討したい。
調理デザイン演習Ⅱ	フード 2年	卒業選択	新規開講科目で受講生が4人しかいなかったが、就職前に栄養士実務関連科目の復習を中心に行い、効果はあったと自負している。受講生が増えるよう授業内容を担当者間で検討したい。
キャリアガイダンスⅡ	フード 2年	卒業選択	総合評価3.7の結果を受け、授業内容や方法を見直し、評価が上がるよう努めたい。学生も積極的に意見や質問を出してほしい。

所属学科	職名	氏名
ビジネスキャリア	准教授	眞部 真紀子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
コンピュータ応用演習Ⅰ コンピュータ応用演習Ⅱ パソコンスキルアップ 医療事務 医療事務演習 医療事務実習 情報処理演習 栄養士情報処理演習 医療事務総論	ビジネスキャリア学科 ビジネスキャリア学科 ビジネスキャリア学科 ビジネスキャリア学科 ビジネスキャリア学科 ビジネスキャリア学科 フードデザイン学科 フードデザイン学科 フードデザイン学科	卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修
研究分野		
<p>1. 感情音声分野</p> <p>感情を伴う音声合成モデル作成のために、人間の自然音声を収録し、韻律的な特徴値の解析を行い、それをもとに聴取実験による聴覚的印象をもとにした感情音声の韻律的特徴値を求める。発話者側と聴取者側の両面からのアプローチを行っている。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 食と感性について
嗅覚や視覚に左右される味の印象について、先行研究や資料を収集する。
2. 商店街への調査
卒業研究セミナーで試みた Facebook ページについて、その導入や運用について、商店街に聞き取り調査を行う。

平成 28 年度の研究の成果

1. 食と感性について
成果なし
2. 商店街への調査
成果なし

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(論文)

1. 「種々の度合の感情音声における発話者の意図と聞き手の受容の一致率と韻律的特徴との関係」 共著 平成 26 年 7 月 『日本感性工学会論文誌第 13 号 2 号』(381~390)
2. 「産学官連携地域イベントにおける誘客方策に関する一考察」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』(49~57)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 『社会人に必要な Office2007 の基礎 Word2007, Excel2007, PowerPoint2007 編』共著 開成出版 平成 21 年 4 月
2. 「A Study of Prosodic Features of Emotional Speech Based on the Auditory Impressions」 『近畿大学生物理工学部紀要第 23 号』 平成 21 年 3 月
3. 「Accent-Type-Dependency of Agreement Rates of Emotions in Japanese Word Speech」 『International Journal of Affective Engineering V01.12 No.2 pp.185-190』 平成 25 年 6 月
4. 「種々の度合の感情音声における発話者の意図と聞き手の受容の一致率と韻律的特徴との関係」 『日本感性工学会論文誌第 13 号 2 号』平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本音響学会	参加実績なし
日本感性工学会	参加実績なし
日本家政学会	参加実績なし

平成 29 年度 研究計画

1. 食と感性について
感性工学会に必ず参加する。さらに官能検査や統計手法を深く学ぶ。
それまでに、嗅覚や視覚に左右される味の印象についての先行研究を引き続き収集する。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を把握する。 <p>【指標】授業評価の間 3 を 4.0 とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を把握する <p>27 年度は 3.8 であったが、28 年度は 4.02 と評価が上がり、学生自身が「わかった」と感じていることが把握できた。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
栄養士情報処理演習	フードデザイン学科 1 年	12 月 5 日 (月) 2 コマ目

自己評価	他者評価
<p>栄養指導演習で考えた卓上メモをパワーポイントのスライド一枚に作り上げる作業の 2 回目の授業でした。内容が一人ひとり異なるので、その対応に時間をかけてしまい、他の学生を待たせることもあった。パソコンスキル個人差だけではなく、作成内容にも簡単なものから、少し手が込んだものまでばらつきがあったことも、学生の進度が大きくなった。作成内容について、栄養指導演習担当の教員と打ち合わせをすることを次年度の検討課題とした。</p>	<p>一人ひとり対応していた。 声は明瞭でよく聞こえていた。</p>
	<p>参加教員</p> <p>檜山フミエ教授 生地 暢 准教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>学生のコメントに「エクセルは難しいです」「前期より難しくなりました」とあり、授業評価の理解度の指標になる問 2 は 3.8 と目標に到達できなかった。パソコンが苦手な学生は存在しますが、その学生たちにエクセルを少しでも理解できたと思えるような例題を考える必要がある。また、繰り返すことも重要だと思う。</p> <p>また、成績評価についての説明を問う問 11 が一番低く、3.5 点であった。1 回目の授業でシラバスに沿って説明しているが、全体に伝わっていないことが分かった。説明の工夫が必要である。</p>

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業のねらいを明確にする。 <p>指標] 授業評価問 7 を 4.2 とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価を明確に伝える。 <p>指標] 授業評価問 11 を 4.2 とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の理解度を把握する。 <p>指標] 授業評価問 15 を 4.2 とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日理解すること・できるようになること」をはっきり示す。 ・何度も繰り返し説明する。 ・小テストのフィードバックを今までより丁寧に行う。

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
情報処理入門	平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月	久留米大学

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 29 年度 社会的活動計画

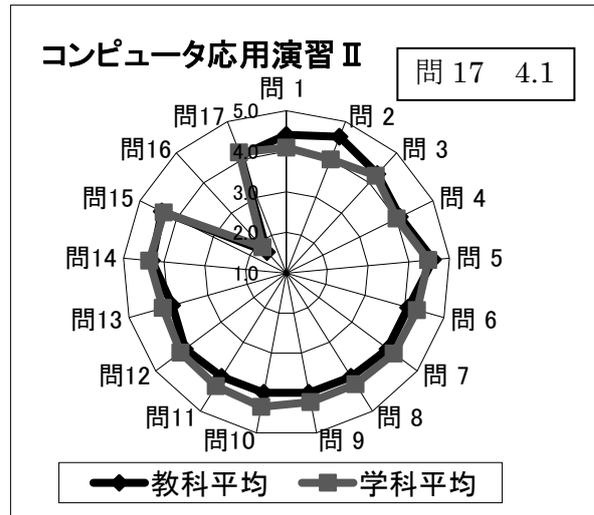
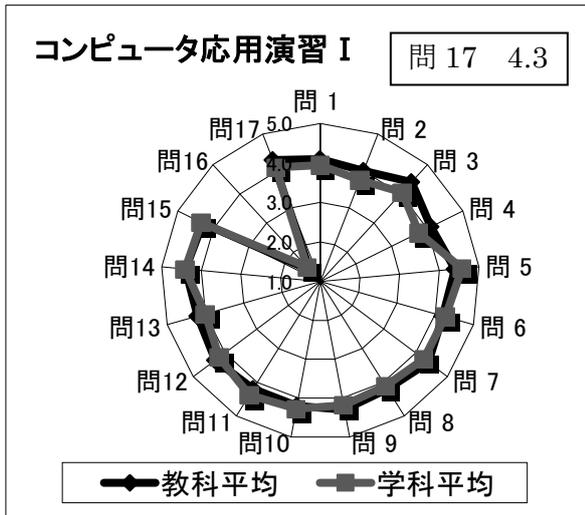
「高等教育コンソーシアム久留米」 e キャンパス部会の委員を務める。

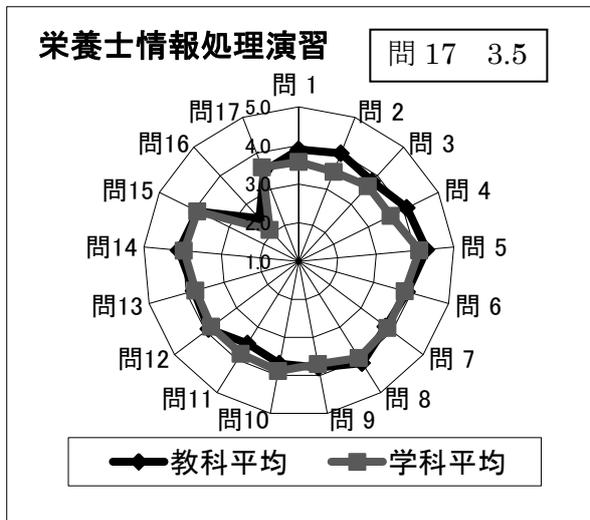
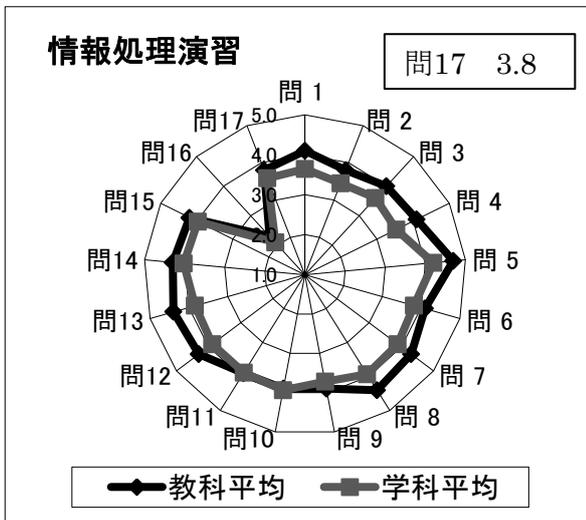
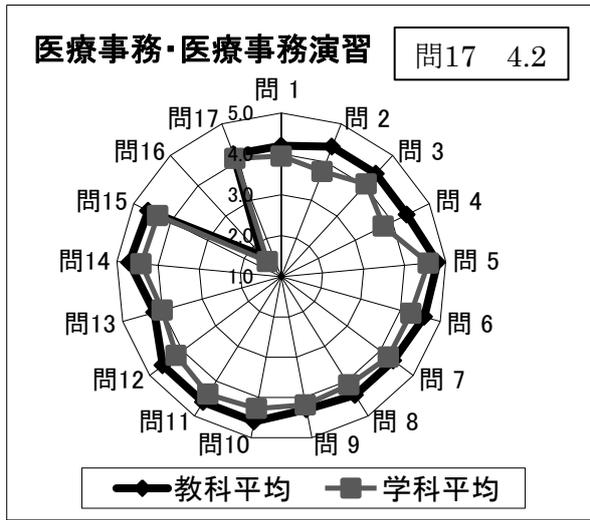
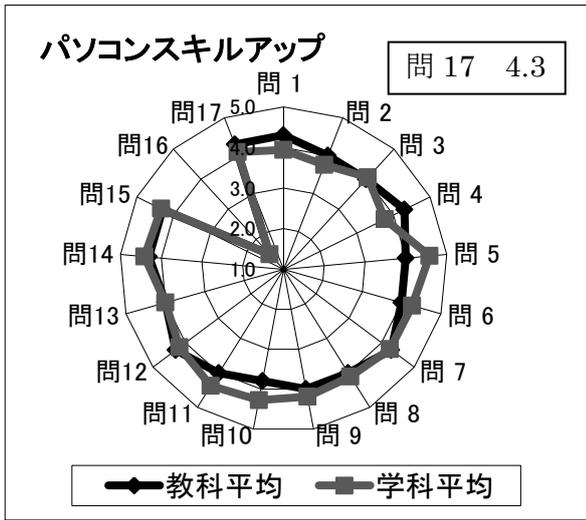
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
コンピュータ応用演習Ⅰ	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修	授業評価の問9と問10の数値を見て、伝えたい内容が十分に伝わっていないことが分かった。学習者の立場になって進めるよう工夫していきたい。授業の参考となるものは、学生の回りにもたくさんあるので、積極的に参考にしてほしい。
コンピュータ応用演習Ⅱ	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修	授業評価の問9と問10の数値を見て、板書だけでは学習者の理解に不十分だということが分かった。板書に変わる資料を提供し、自主学習時間に参考にしてもらいたい。
パソコンスキルアップ	ビジネスキャリア学科	卒業選択	授業評価の問7の数値を見て、テーマや目的の提示が不十分だと分かった。毎回、ポイントを板書し、学習者に何を学んでいるかを伝えるようにしたい。

<p>医療事務 医療事務演習</p>	<p>ビジネス キャリア 学科</p>	<p>卒業選 択・資格必 修</p>	<p>授業評価の間 11 の数値について、この 2 科目を 1 科目ずつ明確に分けず、連続した授業内で行っているため、評価方法について分かりにくいことは考えられる。この点については、1 回目だけの説明が不十分であることが分かった。授業内で補足説明を行い、学習者への周知を求めたい。</p>
<p>情報処理演習</p>	<p>フードデ ザイン学 科</p>	<p>卒業選 択・資格必 修</p>	<p>「基礎から応用まで学べたと思います。」という学習者コメントを受けて、学習のねらいおよび到達目標が達成できたと理解した。その反面、授業評価の間 3 で「どちらともいえない」の回答者が多いことから、理解度の面からまだ不十分だと分かった。毎回のポイントを板書して「何を学んでいるのか」を把握できるよう工夫したい。</p>
<p>栄養士情報処理演習</p>	<p>フードデ ザイン学 科</p>	<p>卒業選 択・資格必 修</p>	<p>授業評価の間 2 の数値を見て、授業中に質問できる時間を設けるなどの工夫をしたい。授業終了後の時間を活用するなど、学習者が質問する機会を増やしていきたい。</p>

所属学科	職名	氏名
幼児教育	准教授	池田 可奈子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
心理学 保育内容人間関係 発達心理学 保育の心理学 保育相談支援 幼児問題研究セミナー 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習指導Ⅰ（施設） 子どもの保健Ⅰ（3回）	全学科1年 幼児教育学科1年 幼児教育学科1・2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科1・2年 幼児教育学科1・2年 幼児教育学科1年	卒業選択必修・資格必修 卒業選択・教職必修 卒業選択・保育士必修・教職必修 卒業必修・保育士必修 卒業選択・保育士必修 卒業選択 保育士必修 保育士必修 卒業必修・保育士必修
研究分野		
<p>主に、発達臨床心理学に関する分野の研究を以下の三つのテーマにもとづき行っている。</p> <p>1. 発達につまずきを示す子どもたちの早期発見と支援に関する研究 発達障害児の社会性の発達等を促すための支援活動を行いながら、どのような援助が有効かについて研究している。また、専門機関を未受診の子ども達とその保護者に対して、地域子育て支援活動の場等においてどのような支援を提供できるかについても検討を行っている。</p> <p>2. 乳幼児期における社会的コミュニケーション行動の発達に関する研究 乳幼児の社会性の発達を、共同注意の発達プロセスという視点から検討している。</p> <p>3. 保育者養成校における子育て支援活動の目的と意義に関する研究 保育者養成を担う教育機関として、子育てをする親子のニーズを反映させた質の高い活動をどのように提供していくか、また将来保育者を志す学生に子育て支援の実践的な学びをどのように保障していくか等について検討している。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 発達につまずきを示す子どもたちの早期発見と支援に関する研究
久留米幼児教育研究所ポプラ学級で、就学前の親子を対象とした発達支援を継続して行い、その成果を久留米市幼児教育研究所の紀要にまとめた。
2. 保育者養成校における子育て支援活動の目的と意義に関する研究
保育者養成を担う教育機関として、子育てをする親子のニーズを反映させた質の高い活動をどのように提供していくか、また将来保育者を志す学生に子育て支援の実践的な学びをどのように保障していくかについて、平成 27 年度より「保育相談支援」の科目の中で、受講学生全員に子育て支援活動の場を提供する授業実践を行いはじめた。平成 28 年度は子育て支援活動を通じた学生の学びに関するアンケートを実施した。

平成 28 年度の研究の成果

(紀要)

1. 「一緒に、ままごとをしよう！！（ごっこ遊びを育てていくプロセス）」
平成 29 年 3 月『久留米市幼児教育研究所 幼研・研究紀要 発達に応じた幼児の支援プログラムの開発Ⅷ 第 61 集』 p15~p18

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(紀要)

1. 「いつの間にか先生と遊んでいるよ！！（一人活動になりがちな認知操作課題に対する要素を入れていくプロセス）」平成 28 年 3 月『久留米市幼児教育研究所 幼研・研究紀要 発達に応じた幼児の支援プログラムの開発Ⅶ 第 59 集』
2. 「何だか心地よくて面白い刺激だぞ（各種感覚への刺激を活性化させながら、感覚運動知能の育ちを促す支援）」平成 28 年 3 月『久留米市幼児教育研究所 幼研・研究紀要 発達に応じた幼児の支援プログラムの開発Ⅶ 第 59 集』

本教員の主たる研究の成果（5 編以内）

(著書)

1. 『SART：主動型リラクセーション療法』 共著 九州大学出版会 平成 17 年 2 月
2. 『軽度発達障害児のためのグループセラピー』 共著 ナカニシヤ出版 平成 18 年 7 月
3. 『発達のための臨床心理学』 共著 保育出版社 平成 21 年 3 月

(翻訳)

1. 『特別支援教育の理念と実践ー早期から望ましい行動を育むためにー』共著 ナカニシヤ出版 平成 18 年 8 月

(論文)

1. 「集団場面における自己調整の援助をねらいとした学習障害児への心理劇適用」共著 心理劇研究 28 巻 1 号 (2005)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本心理臨床学会 日本心理学会 日本発達心理学会 日本教育心理学会 日本特殊教育学会 日本リハビリテーション心理学会 国際幼児教育学会	日本心理臨床学会主催の定例研修会Ⅱに参加 (平成 29 年 2 月 18 日・19 日 大阪科学技術センター)

平成 29 年度 研究計画

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 学生が授業に集中できる環境作りの工夫を行う。</p> <p>【成果の指標】 問 1 の項目で 4.0 以上の値を目標とする。</p>	<p>「保育内容人間関係」と「発達心理学」の科目は、目標の 4.0 以上の値を得ることができた。これは、1 年生対象の授業科目であり、学ぶ意欲が高い入学当初から学生の授業を受ける姿勢の意識づくりを行えたことが良かったのであろう。一方、2 年生を対象とした科目はいずれも目標数値に達することができなかった。問 13 の“学生の私語や授業態度について教員が適切に注意をしている”という項目の評価はいずれの科目も 4.0 以上の値が出ているので、教員の注意だけではない新たな工夫を考えていきたい。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
発達心理学	幼児教育学科 1 年・A クラス	平成 28 年 12 月 19 日

自己評価	他者評価
<p>この科目は専門用語が多く、学生にとって難しいというイメージが先行してしまいやすい。そのため、学生にいかに興味を持たせ、理解を促すかが、毎年大きな課題である。今年度受講した学生の授業評価を見ると、問 3 や問 4 の項目で 4.0 以上の数値を得ることができた。これは、学生自身が、授業を理解し実力がついたと感じていると同時に、さらに進んで学びたいという気持ちを持ってくれたことを意味し、教員として嬉しく感じた。参観して下さった先生方からも、担当者が行っている工夫点を評価して下さり、学生の興味や集中力を引き出し理解させていく取り組みがなされているとのご指摘をいただいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時とのつながりを持たせた学習目標の提示がなされていた。 ・配付資料や視聴覚資料を効果的に学生に提示できていた。 ・配布資料のミスがなくすと、学生の理解がより増すであろう。 ・机間巡視し、学生と対話しながら授業展開できており、学生も集中できていた。 ・「なぜ」「どうして」という問いを学生に発しながら知識を提示していて、学生が好奇の目で取り組んでいた。 <p style="text-align: center;">参加教員</p> <p style="text-align: center;">森光義昭教授 生地暢准教授 櫻井晋伍助教</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

問 4 から問 15 までの項目は、全ての科目で 4.0 以上の数値を得ることができた。また、問 17 の総合評価でも 4.0 以上を得ることができた。授業中の居眠りや質問に関する学生自身の授業態度に関する項目はなかなか 4.0 を超えることが難しいが、問 4 の“さらに進んだ勉強をしたい”という項目は、今年初めて全ての科目で 4.0 以上の値を得ることができた。学問への興味を持ってもらえたことは大変良かったと思う。ただ、特に問 1・問 2 の項目の数値は依然、目標に到達していないので、学生自身の授業への関与を高めしていく授業展開の工夫を新たに考えていきたい。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
1. 信愛つどいの広場 子育て支援講座 「言葉を育む親子の関わり」	平成 28 年 6 月 4 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学
2. 子育てセミナー 「いやいや期 どう向き合う？」	平成 28 年 6 月 21 日	くるるん	子育て交流プラザ くるるん
3. 久留米市保育所・幼稚園・認定こども 園・届出保育施設・事業所内保育施設 等職員研修会 「発達障害支援研修」	平成 28 年 11 月 25 日	久留米市子ども未 来部子ども施設事 業課	久留米市教育セン ター
4. カトリック幼児教育教職員養成研修 「園で気になる子ども」	平成 29 年 1 月 28 日	カトリック福岡教 区	カトリック大名町 教会

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米幼児教育研究所 ポプラ学級 訓練スタッフ	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 2 月	久留米幼児教育研究所

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
1. 教員免許状更新講習会にて「教育の最新事情」の講義を行なった。	平成 28 年 8 月 24 日
2. 「信愛つどいの広場」での相談援助活動 スタッフ及び利用者の方を対象に相談援助を行った。	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 2 月 28 日

平成 29 年度 社会的活動計画

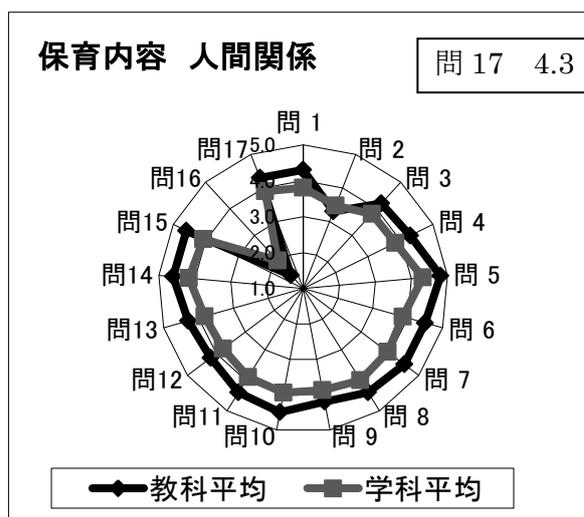
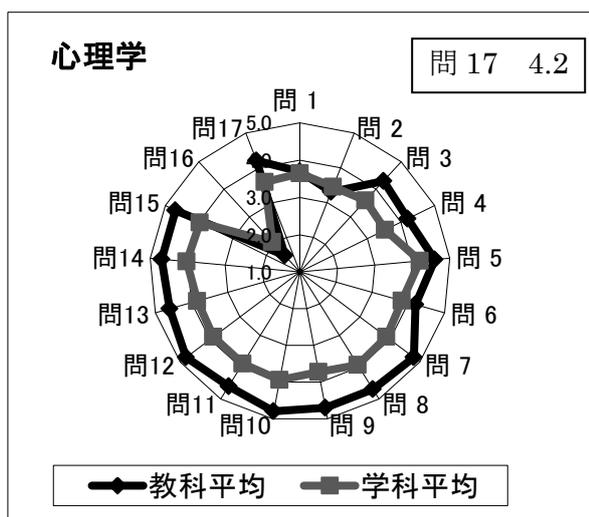
--

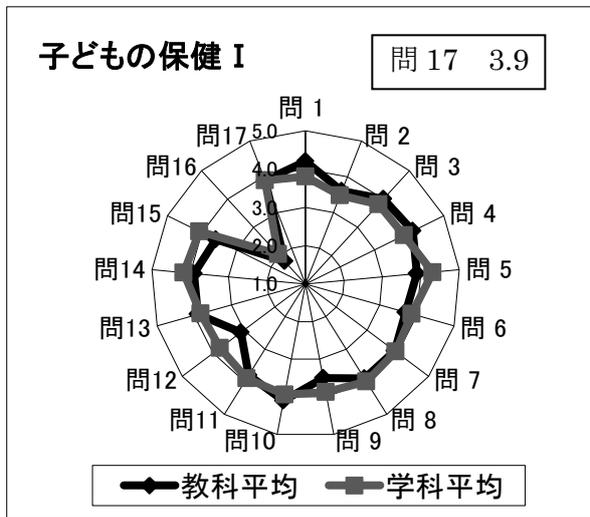
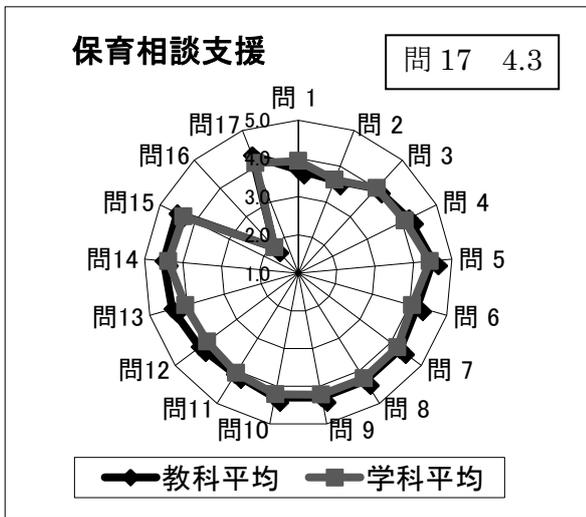
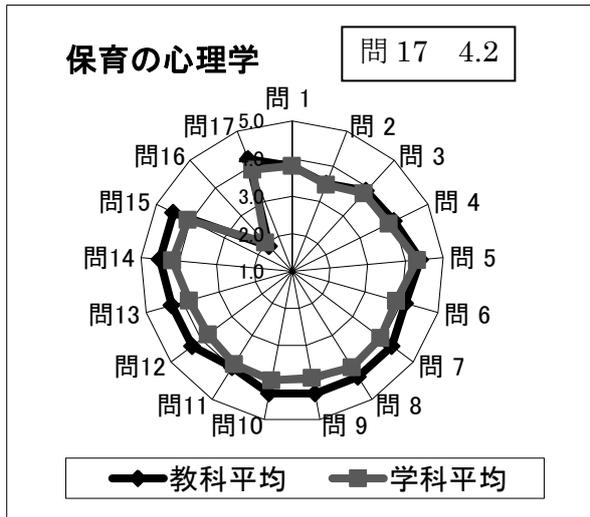
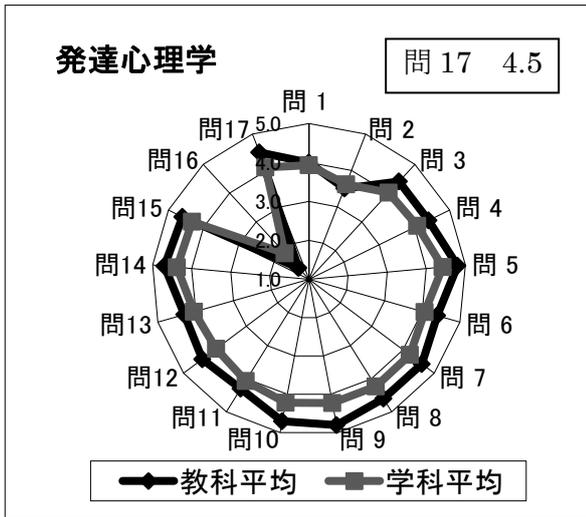
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
心理学	全学科1年	卒業選択必修 資格必修	問1と問2の項目以外は4.0以上の高い数値を得ることができた。5限目に実施されるため、学生にとって疲れる時間帯であったと思うが、問3・4の項目の数値が4.0以上であり、授業を理解し、さらに進んで学びたいと評価してくれたことは嬉しく思う。心理学に興味を抱いた学生は関連図書が図書館に多数あるので、今後も是非学びを続けてほしい。
保育内容 人間関係	幼児教育学科 1年	卒業選択 教職必修	入学してまもない時期にグループ発表の課題を出し、学生も大変だったと思うが、学生のコメントを読むと、“興味を持って取り組めた、自分自身の力になった、友達と仲良くなった”などプラスの声が多く嬉しく思った。この科目での学びを保育実践につなげていくことはもちろん、自分自身の日常生活にもいかして行ってほしい。

発達心理学	幼児教育学科 1年	卒業選択 保育士必修 教職必修	専門用語が多い講義科目であり、毎年どのように学生に興味を持たせ、理解を促すかが教員の課題であったが、今回の受講学生はアンケートの数値も問2以外は全て4.0以上と高く、この科目を積極的に学んでくれたことが伝わり嬉しく思った。心理学的な視点を持ち、子どもの行動を観察できるようになると、子ども理解が深まり、保育実践へと応用させていくことができる。今後もこの科目の学びを続けてほしいと願っている。
保育の心理学	幼児教育学科 2年	卒業必修 保育士必修	昨年目標とした問4の項目で4.0以上の値を得ることができ、この科目をさらに進んで学びたいと思ってくれたことは嬉しく思う。その一方で、問1から問3の値は4.0未満であり、学生の積極的な授業への関与を促す工夫がまだ足りないと感じた。演習内容を見直し、学生の主体的な学びを促す課題設定を考えるなど、さらなる工夫をしていきたい。
保育相談支援	幼児教育学科 2年	卒業必修 保育士必修	問1・問2以外は4.0以上と、全体的に高い数字を得ることができた。しかし、つどいの広場で実際に演習をさせていただくため、学生にとって有意義な学びの時間にしていくことは当然だが、参加される親子にとってもプラスの時間を提供していく必要がある。そのためには、実践力をさらに高めていくことが大切であろう。今後、実践力を高めていくための授業内容・学生指導等について検討したい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	准教授	生地 暢
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
生命と自然 栄養士基礎演習(5回) 基礎栄養学Ⅰ 基礎栄養学Ⅱ(8回) 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実験 栄養・生化学演習 栄養士総合演習Ⅰ(5回) 卒業セミナー(通年) 医学一般	全学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 ビジネスキャリア学科2年	卒業選択必修 卒業必修 卒業必修・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択 卒業選択・資格必修
研究分野		
<p>1. 環境生物学分野 身近に存在するに生息する環境生物に関する研究。食環境に影響を及ぼす生物について、その生息状況や環境およびその特性について研究を行っている。特に水圏環境における微生物群集に関する研究を行っている。</p> <p>2. 生理生化学分野 食生活と生理生化学に関する研究。生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれら成分との関わりについて、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。</p> <p>3. 栄養士養成 栄養士養成に関する研究。学科独自の栄養士として資質向上に対する取り組みを進め、客観的に評価できるように研究を行っている。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

①水圏環境に生息する微生物に関する研究

淡水および海洋を主とする水圏環境における微生物群集に関する調査・研究に従事した。
特に、八代海の微生物群集の変遷およびその特徴について考察した。

②食生活と生理生化学に関する研究

普段の食生活と生体成分との関連性について考察した。また、市販ホイップクリームに含まれる脂肪に対する *in vitro* での酵素作用について、久留米信愛女学院短期大学紀要にまとめた。

③栄養士養成研究

栄養士の資質向上に向けての取り組みに対する客観的かつ数値的な評価を継続するとともに、2 年間前後期における学生生活実態が及ぼす影響について、久留米信愛女学院短期大学紀要にまとめた。また、専門教育科目である『生化学実験』の教材(47ページ)を作成し、授業で使用した。

平成 28 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究(4)学習支援に対する効果の 2 年間の分析」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.39』(21-25)2016年7月.
2. 「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出(3)乳化作用強化による影響」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.39』(27-32)2016年7月.

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック七訂版」共著. 2016年4月. 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科.
2. 「生化学実験」テキストノート教材作成(47ページ)

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究(2)学習支援に対する効果」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.37』(41-47)2014年7月.
2. 「栄養士養成研究(3)生活実態が学習効果に及ぼす影響」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.38』(25-33)2015年7月.
3. 「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出(2)」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.38』(35-39)2015年7月.

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック五訂版」共著. 2014年4月. 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科.
2. 「入学から卒業までのガイドブック六訂版」共著. 2015年4月. 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科.
3. 「生化学実験」テキストノート教材作成(38ページ)

本教員の主たる研究の成果 (5編以内)

1. “Characteristics of virus-like growth suppression agents against phytoplankton obtained from seawater at mouth of Funika Bay, Hokkaido, Japan.” *Fisheries Science* 66. 2000. Feb.
2. “Virus-like particles causing growth-suppression of the red tide forming marine dinoflagellate *Gymnodinium mikimotoi*.” *Marine Biotechnology* 5. 2003. Oct.
3. “The dynamics of a microbial food web and classical food chain in a coastal sea with special reference to intermittent nutrient supply from bottom intrusion.” *Aquatic Ecology* 38. 2004. Aug.
4. 「八代海の植物プランクトンの増殖に与える水温、塩分および光強度の影響」『日本水産学会誌. 76』2010年1月.
5. 八代海におけるラフィド藻 *Chattoenella antiqua* の増殖および栄養塩との関係『日本水産学会誌. 77』

2011年1月.(平成23年度日本水産学会論文賞受賞 2012年3月)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本水産学会	大会参加。
日本微生物生態学会	大会不参加。
日本プランクトン学会	大会不参加。
日本生物工学会	大会不参加。セミナー参加。
不知火海球磨川流域圏学会	大会不参加。

平成29年度 研究計画

① 環境に生息する生物に関する研究

本学周辺の水圏環境を調査し、その微生物相を把握し、食環境に関わりのある有用な物質産生細菌を探索、その特性を調査、研究する。とくに八代海における微生物群集の変遷を調査し、その特徴を引き続き考察する。

② 食生活と生理生化学に関する研究

生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれら成分との関わりについて考察する。市販されている食品中の栄養分に対する生体内酵素作用について検討し、多岐にわたって販売されている特定健康食品中の栄養学的特性について比較研究する。

③ 栄養士養成に関する研究

栄養士の資質向上に向けての取り組みを客観的かつ数値的な評価を継続するとともに、学生へのフィードバック方法について久留米信愛女学院短期大学紀要にまとめる。
専門教育科目である『生化学実験』テキストを精査作成する。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価			
① 普段の生活との関連性や視聴覚教材による確認等から重要ポイントの明確性(問 9)を高める。	栄養士必修の講義 4 科目の平成 26、27、28 年度の授業評価結果を示した。			
	問 3 の評価	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
	基礎栄養学 I	2.7	3.6	3.4
	基礎栄養学 II	3.1	3.3	3.3
	生化学	3.6	3.2	3.3 (I・II 平均)
② 受動的な授業内容だけではなく、能動的な講義内容(他科目との関連性および復習も含む)を織り交ぜて、理解度(問 3)を高める。	基礎栄養学 I は 0.1 下がり、基礎栄養学 II は変わらず、生化学は 0.1 上がった。			
	問 9 の評価	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
	基礎栄養学 I	3.3	4.1	3.6
	基礎栄養学 II	3.7	3.6	3.5
	生化学	3.4	3.2	3.5 (I・II 平均)
基礎栄養学 I は 0.5、基礎栄養学 II は 0.1 下がり、生化学は 0.3 上がった。				
メディアに取り上げられる事柄との関連性を織り交ぜながら、理解度を高めるように努め、他科目との関連性および前講義までの復習を行えた。				

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
生化学 II	フードデザイン学科 2 年	平成 29 年 1 月 6 日(金)

自己評価	他者評価
恒常性(ホメオスタシス)について、『環境』をキーワードに外部環境での保全、回復について話し、内部環境はどうであるかを導入として話してみたが、繋がらない学生がほとんどであったように思えた。普段の生活との関連性を交えての導入としてみたが、視聴覚による導入を考えてみたい。	話し方は明瞭であった。 板書の字は大きく、重要項目をまとめられていた。 適宜、質問を学生に投げかけられ、双方向の授業を心がけていた。
	参加教員 江越和夫教授 眞部真紀子准教授 池田可奈子准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

「問 17: この授業を総合的に評価すると 5 点満点で何点ですか」について、栄養士必修科目 5 科目の平均点は、平成 26 年度 3.6、平成 27 年度 3.3、平成 28 年度 3.3 と推移した。また、「問 2: 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした」の評価は、平成 26 年度 3.3、平成 27 年度 3.2、平成 28 年度 3.4 と推移した。「問 3: 私は、授業の内容を理解することが出来た。」の評価は、平成 26 年度 3.2、平成 27 年度 3.4、平成 28 年度 3.3 と推移した。さらに、「問 6: 先生は、この科目の目標や他の科目との関連性をわかりやすく説明した。」の評価は、平成 26 年度 3.5、平成 27 年度 3.6、平成 28 年度 3.5 と推移した。担当科目は非常に普段の生活の中での関連性を示すには困難な科目ばかりであるため、学科平均(問 17: 平成 26 年度 3.9、平成 27 年度 3.7、平成 28 年度 3.6)よりも低い評価傾向はあるものの、ポイント差は 0.3、0.4、0.2 と変動した。年度ごとの学生の学習意欲より評価の変動があるものの、全体と同様の傾向・推移が見られ、学習意欲を増すように、重点ポイントの明確性を高めてきた結果であると自己評価する。さらに、授業内容の理解度を増すために、担当する科目を学ぶにあたり、普段の生活の中でどのように関連性を持つものであるかを例示できるように努めていきたい。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
① 普段の生活との関連性や視聴覚教材による確認等から重要ポイントの明確性(問 9)を高める。 ② 受動的な授業内容だけではなく、能動的な講義内容(他科目との関連性および復習も含む)を織り交ぜて、理解度(問 3)を高める。	① 重要ポイントを絞り込み、能動的に講義に取り組めるように、テキストおよびプリントでの重要ポイント箇所の確認を学生に促し、普段の生活の中の応用を考えてもらうようにする。

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
出前講義「海の環境」	平成 28 年 10 月 26 日(水)	高等教育コンソーシウム久留米	福岡県立明善高等学校
共同講義「久留米のまち・ひと・しごと創生」 「自然の活かし方を考えよう」	平成 28 年 11 月 22 日(火)	高等教育コンソーシウム久留米	くるめりあ六ッ門 6 階みんくる
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
なし			
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
なし			
その他特記事項			
内容		年 月 日	
① 高等教育コンソーシウム久留米・高等教育連携部会委員		平成 21 年 7 月～現在	
② 平成 28 年度第三者評価機関(一般財団法人短期大学基準協会)評価員		平成 28 年 5 月～平成 29 年 3 月	

平成 29 年度 社会的活動計画

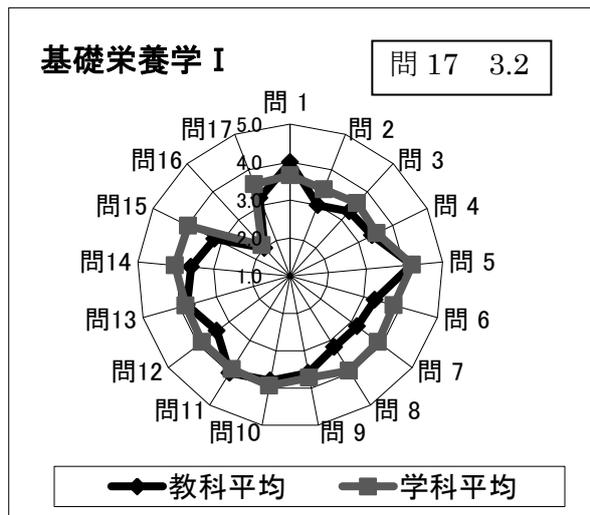
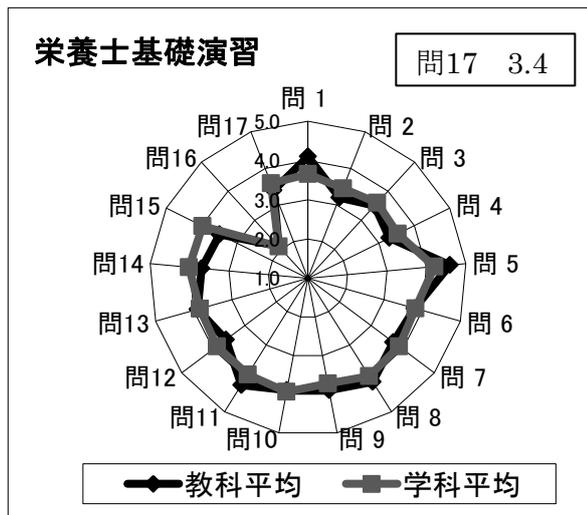
高等教育コンソーシウム久留米・高等教育連携部会委員

平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

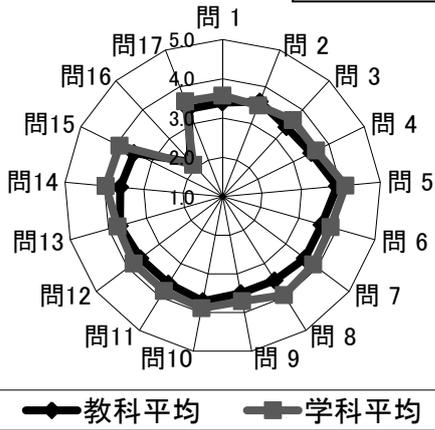
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



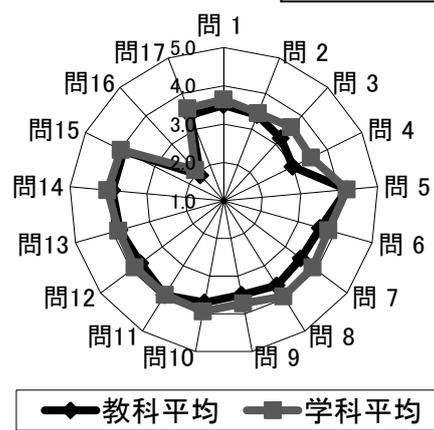
基礎栄養学Ⅱ

問17 3.4



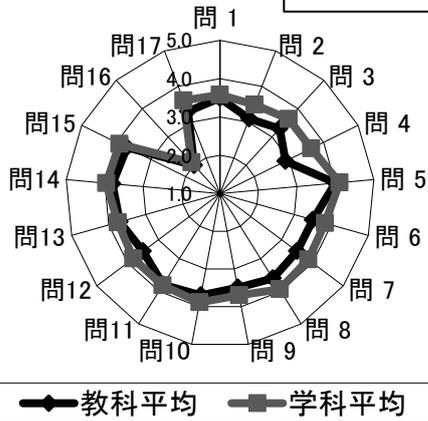
生化学Ⅰ

問17 3.4



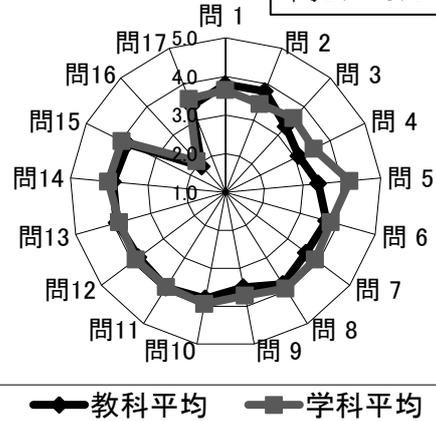
生化学Ⅱ

問17 3.3



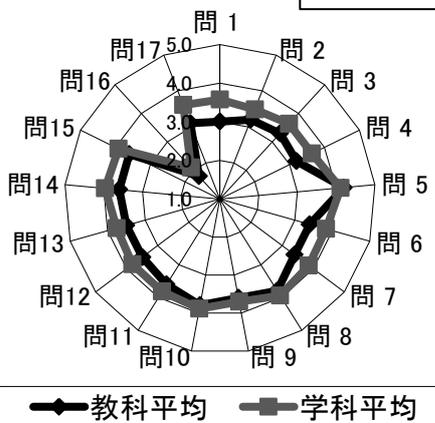
生化学実験

問17 3.4



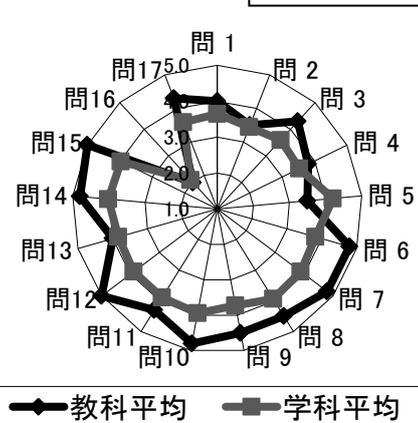
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

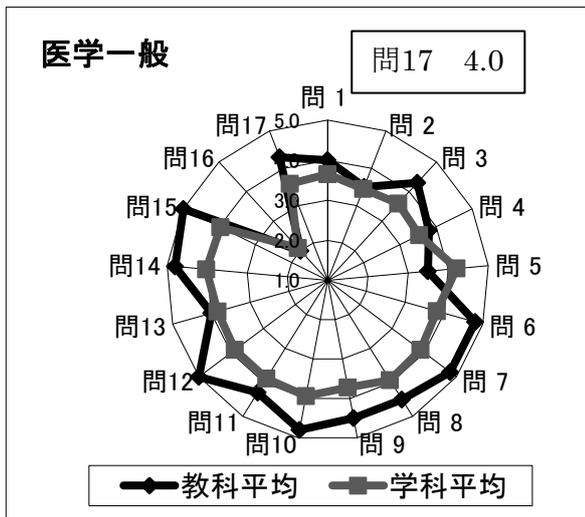
問17 3.1



栄養・生化学演習

問17 4.3





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
基礎栄養学 I	フードデザイン学科 1年	卒業必修 免許必修	問 2、6、7 の結果を受け、高校の学習から難易度が一段と増す科目であるので、その中で、普段の生活の中の事柄に関連づけながら、解説していきたい。
基礎栄養学 II (8 回)	フードデザイン学科 1年	卒業選択 免許必修	問 3 の結果を受け、受動的な学習ではなく、能動的に学べるように、普段の生活の中の事柄に関連づけながら、解説していきたい。
生化学 I	フードデザイン学科 2年	卒業選択 免許必修	問 3 と 4 の結果を受け、関連科目からさらに難易度が増す科目であるので、その中で、普段の生活の中の事柄に関連づけながら、解説していきたい。
生化学 II	フードデザイン学科 2年	卒業選択 免許必修	問 4 の結果を受け、難易度が高い科目であり、能動的に学べるように、普段の生活の中の事柄に関連づけながら、解説していきたい。
生化学実験	フードデザイン学科 2年	卒業選択 免許必修	問 3 と 4 の結果を受け、関連科目の総まとめとしての科目であるので関連科目の難易度が反映されている。実験結果について何度も解説していきたい。
栄養士基礎演習(5 回)	フードデザイン学科 1年	卒業必修	問 9 の結果を受け、板書の仕方や視聴覚機器の利用が効果的であったことが理解できた。さらに、視聴覚教材が効果的な利用が出来るように努めたい。
栄養士総合演習 I (5 回)	フードデザイン学科 2年	卒業選択 免許必修	問 2、3、4 の結果を受け、各科目の要点、基本的事項を理解しているだけでなく、さらに研鑽を深めてほしいと感じた。
栄養・生化学演習	フードデザイン学科 2年	卒業選択	問 2 の結果を受け、関連科目のまとめとなる科目であり、さらに、能動的に学べるように努めたい。
医学一般	ビジネスキャリア学科 2年	卒業選択 資格必修	問 4 の結果を受け、生物学的な科目がほとんどないなか、唯一の生物学的科目であったので、能動的に学べるように努めるべきであった。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	講師	渡邊 由恵
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
保育内容総論	幼児教育学科 1年	卒業選択、免許・資格必修
保育課程論	幼児教育学科 1年	卒業選択、免許・資格必修
保育指導法Ⅰ	幼児教育学科 2年	卒業選択・免許必修資格選択必修
保育指導法Ⅱ	幼児教育学科 2年	卒業選択・免許必修資格選択必修
保育・教職実践演習(幼稚園)	幼児教育学科 2年	卒業選択、免許・資格必修
教育実習指導	幼児教育学科 1年	卒業選択・免許必修資格選択必修
教育実習	幼児教育学科 1年	卒業選択・免許必修資格選択必修
保育実習指導Ⅰ	幼児教育学科 1・2年	卒業選択・資格必修
保育実習Ⅰ(保育所)	幼児教育学科 1・2年	卒業選択・資格必須
幼児問題研究セミナー	幼児教育学科 2年	卒業選択、資格選択必修
キャリアガイダンスⅠ	幼児教育学科 1年	卒業選択
キャリアガイダンスⅡ	幼児教育学科 2年	卒業選択
研究分野		
<p>主に、保育学に関する分野の研究を質的な研究方法を用いて行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 木育に関する研究 乳幼児期の木育体験の意義について、実践を行いながらエスノグラフィーを研究手法に研究を行っている。 2. 子育て支援に関する研究 保護者の子ども理解、遊び理解に関する支援について実践を行いながら研究を行っている。 3. 子どもの遊びと遊びの環境に関する研究 保育現場、子育て支援の場において、子どもの豊かな経験となる質の高い遊びとその環境構成について、研究を行っている。 4. 保育者対象の研修に関する研究 現職保育者対象の研修において、保育の質を高めるための研修内容について検討を行っている。 5. 保育者養成に関する研究 学生の子ども理解や保育内容・保育環境の捉え方を調査し、授業内容について検討を行っている。 		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 木育に関する研究

- ・木育子育て支援施設において、父親の人やモノへのかかわりについてフィールドワークを中心に調査研究を行った。研究結果を学会にて発表、論文を執筆した。
- ・八女市黒木町、うきは市の地域おこし協力隊と連携して、地域における木育推進について実践研究を行った（論文執筆中）。

2. 子育て支援に関する研究

- ・幼稚園・子育てサークルの保護者を対象に、乳幼児期の育ちと発達について講演を行った。

3. 子どもの遊びと遊びの環境に関する研究

- ・保育実践における環境、0～2 歳児の園生活や発達に応じたかかわりや環境構成について著書(共著)を執筆した。

4. 保育者対象の研修に関する研究

- ・保育者、中学校家庭科教員対象の研修会において、今後の社会情勢を踏まえた幼児教育の在り方や具体的な保育実践方法についての研修内容を検討・実施した。
- ・幼稚園連盟主催研究大会において、満 3 歳保育についての実践研究発表について指導助言を行った。

5. 保育者養成に関する研究

- ・保育教職実践演習において、子ども理解を主眼に置いた授業展開に関する研究を共同で行った（論文執筆中）。

平成 28 年度の研究の成果

(著書)

『保育の理論と実践 ともに育ちあう保育者になるために』共著 平成 29 年 3 月 ミネルヴァ書房
第 4 章 単著(60～74) 第 5 章 1～2 節 共著(76～90)

(論文)

「木育子育て支援施設における父親の人・モノとのかかわりの特性」単著 平成 29 年 2 月
『西南学院大学大学院研究論集第 4 号』(71～81)

(研究ノート)

「木育を足がかりとした復興への取り組み - 地域おこし協力隊員の視点を通して -」単著
平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』(69～76)

(発表)

「子育て支援施設でのモノとの関わりが保護者にもたらす子ども理解-木育子育て支援施設における父親の子どもへの関わりに着目して-」単独 平成 28 年 5 月 日本保育学会第 69 回大会 (於:東京学芸大学)

「子どもが育つ環境に視座を置いた地域復興の取り組みに関する一考察 - 地域おこし協力隊員の語りに着目して -」単独 平成 29 年 8 月 全国保育士養成協議会第 55 回研究大会 (於:盛岡)

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(発表)

「自主運営子育てサークルに参加する保護者のサークル継続への意識」単 平成 27 年 5 月
日本保育学会第 68 回大会 椋山女学園大学

「木育子育て支援施設を利用する親子のモノとの出会いに関する一考察-父親の子どもとモノへの関わりに着目して-」単 平成 27 年 9 月 全国保育士養成協議会第 54 回研究大会 ロイトン札幌

「子育てサークルにおける参加者同士の関係性についての一考察」共同(筆頭発表者)
平成 26 年 5 月 第 67 回日本保育学会 大阪総合保育大学

(テキスト)

「実習の手引き」 共著 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科

(報告)

「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著 平成 27 年 7 月
久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号 PP. 69～78

本教員の主たる研究の成果（5 編以内）

（著書）

「保育の理論と実践 ともに育ちあう保育者になるために」共著 平成 29 年 3 月 ミネルヴァ書房
第 4 章 単著 pp. 60～74, 第 5 章 1～2 節 共著 pp. 76～90

（論文）

「木育子育て支援施設における父親の人・モノとのかかわりの特性」単著 平成 29 年 2 月
西南学院大学大学院研究論集第 4 号 pp. 71～81

（研究ノート）

「木育を足がかりとした復興への取り組み - 地域おこし協力隊員の視点を通して -」単著
平成 28 年 7 月 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号 pp. 69～76

（テキスト）

「実習の手引き」 共著 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科

（報告）

「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著 平成 27 年 7 月
久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号 PP. 69～78

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本保育学会	平成 26 年度～平成 28 年度大会研究発表
日本乳幼児教育学会	平成 26 年度大会口頭発表 平成 27・28 年度不参加
こども環境学会	大会等不参加
日本生活体験学習学会	大会等不参加
日本こども学会	大会等不参加

平成 29 年度 研究計画

1. 木育に関する研究

木育子育て支援施設において継続して調査を行う共に、八女市黒木町笠原地区における木育への取り組みに関する研究を行う。また、保育実践の場における木育の取り組みに関する研究に着手する（保育者へのアンケート・施設長へのインタビューを実施する）。

2. 保育者対象の研修に関する研究

新教育要領・新指針を踏まえた研修内容、0～2 歳児の保育内容・環境構成についての研修内容を検討する。

3. 保育者養成に関する研究

学生の保育環境や保育内容の理解、保育記録への意識について、調査研究を実施する。新要領・指針を踏まえた授業内容について検討をする。

平成 28 年度 教育活動報告

平成 28 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 学生の理解度を高める授業内容の工夫 学生が主体的な学びを促す工夫</p> <p>【成果の指標】 授業評価アンケート項目問 2・問 16 の項目を向上させる</p>	<p>項目 2「わからない時に質問したり、自分で調べたりした」 平成 27 年度平均 3.3 → 平成 28 年度平均 3.6</p> <p>項目 16「1 週間の予習復習時間」 平成 27 年度平均 1.6 → 平成 28 年度平均 1.8</p> <p>項目 16 については、更なる向上が求められるため、次年度の課題としたい。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
保育指導法Ⅱ	幼児教育学科 2 学年 B クラス	平成 28 年 11 月 8 日 2 校時

自己評価	他者評価
<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領の平成 29 年 3 月改訂に向けての中間とりまとめについて、改訂の社会的背景等を踏まえながら講義を行った。本講義では、改訂に伴い「変わらない部分」について解説を行い、その点に関しては学生のコメントシートからも理解していることがうかがえた。しかし、参加者からのコメントにもあるように、時事的テーマや専門用語等、理解が困難な学生への対応が不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あと数か月で保育の現場に出ていく学生たちに伝えておきたいメッセージが織り込まれていると感じた ・ビジュアルで見ることがいかに有効か、学生の姿を見て改めて感じた ・前半の能書き部分も少しかみ砕いた言葉にした方がよいかもしいれない ・グループワークでは無駄話をせず、和やかに話し合いができていた。発表態度も美しく、内容もそれぞれで熟考したことが伝わるものだった。
	<p>参加教員</p> <p>Sr 阿久根政子教授・新井真実助教 櫻井晋伍助教</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

総合評価は「保育内容総論」H27：4.5→H28:4.6、「保育課程論」H27:4.2→H28:4.1、「保育指導法Ⅰ」H27：4.3→H28:4.3、「保育指導法Ⅱ」H27:4.2→H28:4.3、「キャリアガイダンスⅠ」H27:3.6→H28：4.1、「キャリアガイダンスⅡ」H27：3.9→H28:4.0 であった。保育課程論は「専門用語が難しい」との学生からのコメントがあった。講義科目であるが演習を取り入れ、実践的な学びを促しているが、特に専門用語に関しては、かみ砕いた説明が必要である。キャリアガイダンスⅠに関しては、前年比 0.5 ポイント上昇がみられたが、外部講師の選定等、授業内容を検討した結果であると考え。全ての科目において、質問項目 16 の点数が低いことが課題である。授業数が多い 2 年前期までは、学生に過度な負担を与えないよう内容を考慮して、課題を提示していきたい。

平成 29 年度 教育活動計画

平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 学生の主体的・対話的な学びを促し、理解度を高める授業内容の工夫</p> <p>【成果の指標】 すべての科目において、総合評価 4.0 以上を目指す 学生による授業評価の問 16 の上昇を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生間で自由に発言し、協同的に学び合える風土づくりを目指し、グループ編成を検討する ・学生が主体的に学びを深められるような課題を検討する

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
(研究会講師) 北九州市教育センター幼稚園主任研修会 講師	28. 5. 18	北九州市教育センター	北九州市教育センター
糸島市私立幼稚園協会第一回主任教師研修会 講師	28. 5. 20	糸島市私立幼稚園協会	そね幼稚園
糸島市私立幼稚園協会第一回教職員研究会 講師	28. 6. 29	糸島市私立幼稚園協会	福岡銀行前原支店 大会議室
平成 28 年度北九州私立幼稚園連盟教師 研究大会分科会 助言者	28. 7. 25	一社)北九州市私立幼稚園連盟	リーガロイヤルホテル小倉
平成 28 年度専門研修「中学校家庭における 幼児と触れ合う活動」講師	28. 8. 1	福岡県教育センター	福岡県教育センター
第 50 回芸術教育所主催「夏の芸術教育学校 福岡大会」講師	28. 8. 3	芸術教育研究所	アクロス福岡
京築私立幼稚園連盟教師研修会 講師	28. 8. 20	京築私立幼稚園連盟	行橋商工会議所
社会福祉法人 JOY 明日の息吹いるべ保育園 園内研修 講師 (講演)	28. 12. 8	いるべ保育園	いるべ保育園
北九州市立黒崎幼稚園家庭教育学級講演 講師	28. 9. 16	北九州市立黒崎幼稚園	北九州市立黒崎幼稚園
久留米信愛女学院短期大学「信愛つどいの 広場」子育て支援講座 講師	28. 12. 3	久留米信愛女学院短期大学	久留米新亜女学院短期大学
特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会 第 3 回 おもちゃの広場 全国大会特別講演 講師	29. 1. 13	認定 NPO 法人日本グッド・トイ委員会	東京おもちゃ美術館

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
第 50 回芸術教育所主催「夏の芸術教育学校福岡大会」 福岡大会運営チーフスタッフ	平成 28 年 4 月～8 月	芸術教育研究所
木育キャラバン in うきは祭り協力	平成 28 年 10 月	うきは祭り実行委員会
笠原祭だっでん祭り協力(八女市黒木町笠原)	平成 28 年 11 月	きのこ村協議会
日田市中央児童館木育ルーム整備におけるアドバイザー	平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月	日田市中央児童館
西日本短期大学保育学科保育フェスタ 木育キャラバンボランティアスタッフ	平成 28 年 2 月 4. 5 日	西日本短期大学保育学科

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
乳児保育 I	平成 28 年 4 月～7 月	西南学院大学

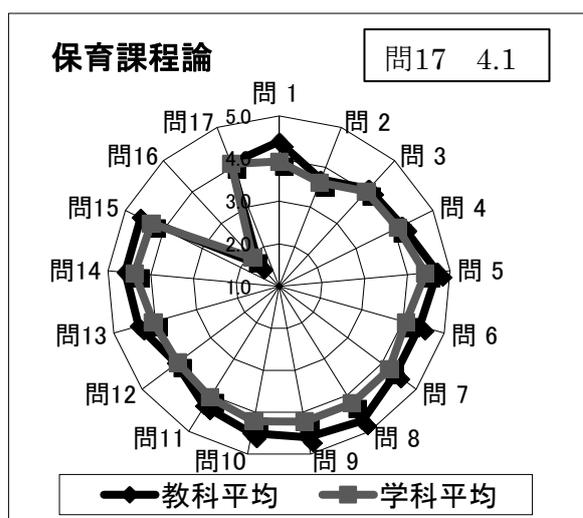
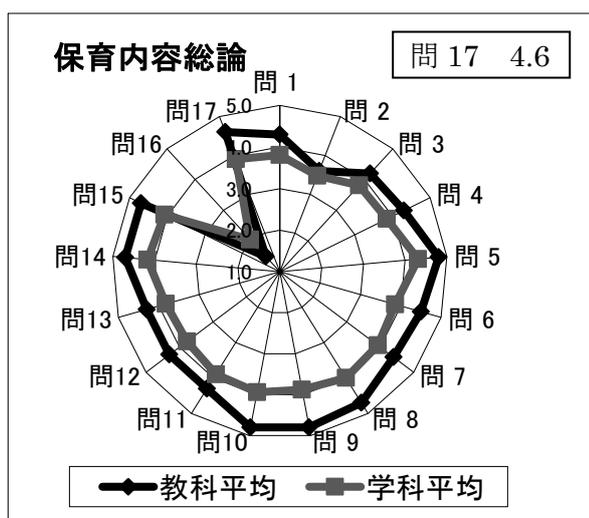
その他特記事項	
内容	年 月 日
芸術教育研究所客員研究員 福岡グッド・トイ委員会代表	平成 25 年 4 月 1 日～現在 平成 25 年 4 月 1 日～現在
平成 29 年度 社会的活動計画	
<p>1. 平成 29 年度福岡県幼児教育アドバイザー</p> <p>2. 保育者・教諭(中学校)向け研修会および園内研修講師 北九州市教育センター幼稚園主任研修 講師 (平成 28 年 5 月 18 日) 芸術と遊び創造協会主催(旧芸術教育研究所)夏の芸術教育学校 (講師平成 28 年 8 月 3 日) 運営スタッフチーフ その他福岡県内幼稚園・保育所等園内研修講師予定</p> <p>3. 他大学への非常勤等 西南学院大学人間科学部児童教育学科「乳児保育 I」(平成 29 年 4 月～7 月)</p> <p>4. 子育てサークルへの賛助 福岡市青葉公民館子育てサークル講師</p> <p>5. 他団体への協力 日本乳幼児教育学会第 27 回大会実行員 浮羽青年会議所、八女市黒木町笠原祭り主催木育イベントへの賛助 久留米市都市計画審議会委員 (委嘱期間平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 4 月 27 日)</p>	

平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

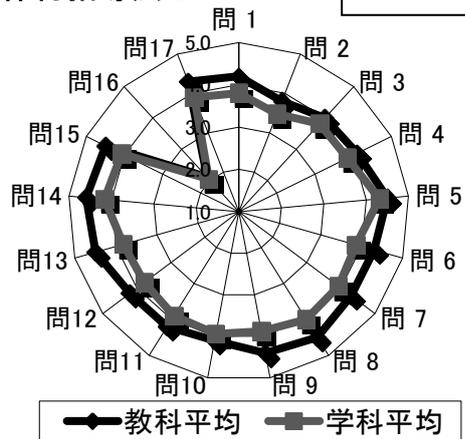
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）



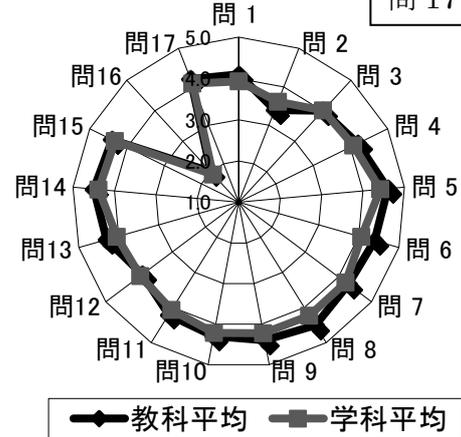
保育指導法 I

問17 4.3



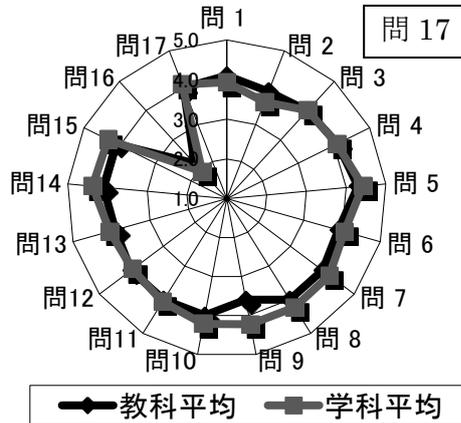
保育指導法 II

問17 4.2



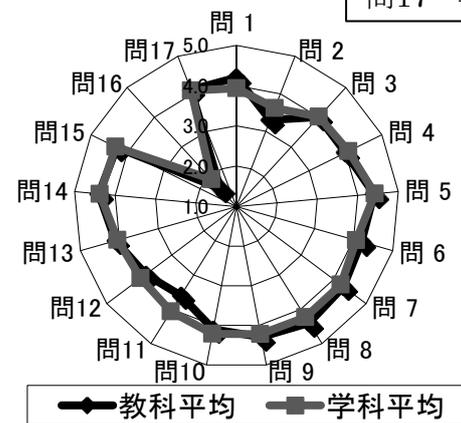
保育・教職実践演習(幼稚園)

問17 4.0



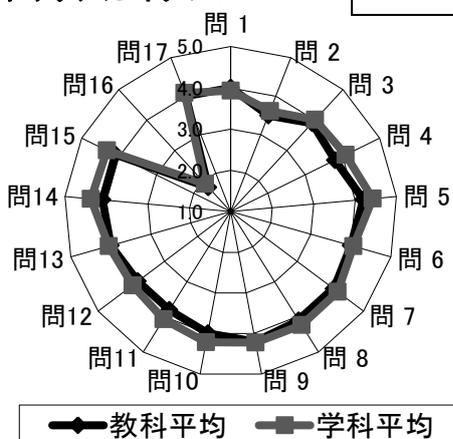
キャリアガイダンス I

問17 4.1



キャリアガイダンス II

問17 4.0



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
保育内容総論	幼教1年	免許・資格 必修	「先生の現場でのエピソードが参考になった。」 「わかりやすい」とのコメントがあった。科目名から難しそうだと的印象をもたれるため、実践の場でのエピソードを多く取り入れているため、「わかりやすい」とのコメントが得られるのであろう。しかし、質問16（予習・復習時間）の評価が1.5であることが課題である。
保育課程論	幼教1年	免許・資格 必修	「専門用語が難しい」とのコメントを受け、内容をかみ砕いた説明を心がけたい。総合評価も他の科目よりも低いため、学生の理解力を促すことで向上させたい。
保育指導法Ⅰ	幼教2年	免許必修 資格選択	「現場の話や映像もためになるものが多い」とのコメントがあった。具体的な指導法について学ぶ科目でもあるため、今後も学生により実践の場の臨場感が伝わるよう教材研究を行いたい。
保育指導法Ⅱ	幼教2年	免許必修 資格選択	数か月後に実践の場に立つことを踏まえ、より実践的な内容、また保育において普遍的な部分についても振り返る内容である。特に模擬保育の準備、また講義内容の復習に力を入れてほしい。
キャリアガイダンスⅠ	幼教1年	卒業選択	「先輩のお話があったのでためになった」とのコメントが複数あった。今後も学生が保育職をより身近に感じ、職業人としての将来を具体的にイメージできるような、授業内容を検討したい。
キャリアガイダンスⅡ	幼教2年	卒業選択	総合評価が0.1ではあるが上昇し4.0となった。今後も4.0以上の評価を目指し、外部講師の選定等授業内容を検討していきたい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	助教	新井 真実
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
生活とスポーツⅠ 生活とスポーツⅡ 体育 身体表現 幼児問題研究セミナー (からだあそび研究会)	幼児教育学科1年 幼児教育学科1年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年	卒業必修 免許・資格必修 卒業必修 免許・資格必修 卒業必修 免許必修・資格選択必修 卒業選択 免許必修・資格選択必修 卒業選択 資格選択必修
研究分野		
<p>1. 舞踊・身体表現の分野 上演型舞踊、民俗舞踊等の舞踊文化について、それぞれの舞踊が根差す社会における価値の理念型やパフォーマーの表現意識に着眼した研究を行っている。</p> <p>2. 保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成に関して、特に身体表現分野についてその目的と意義、方法について研究を行っている。</p> <p>3. 子育て支援の分野 子育て中の母親が抱えがちな身体的・精神的なマイナートラブルの緩和、ボディ・ワークの構築に向けた研究を行っている。特に産後の母親と乳児を対象としたメソッドの検討を行っている。</p> <p>4. レクリエーション・生涯スポーツの分野 現代社会における身体教育活動の意義・目的について、レクリエーションや「ゆるスポーツ」等の各種運動を活用した教育プログラムの検討を行っている。</p> <p>5. コミュニティアート、ソーシャル・エンゲージド・アートの分野 地域社会における芸術活動のあり方と意義について研究している。特にコミュニティダンスを通じた多様な人々の出会い、中心市街地活性化のプロセスと教育的効果に着目している。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 保育者養成課程における「身体表現」とレクリエーションの活用に関する研究

保育者養成課程の学生たちが「コピペ思考」を脱却し創造的表現活動を行うことの意義と方法について文献研究を行った。また、保育者対象講習会におけるアンケート調査結果から、保育・教育現場における今日的課題の一端を導き出した。これらを概観することにより、保育者養成課程における「身体表現」のあり方、またレクリエーション学習の活用の可能性について論じた。

2. ダンスを通じた中心市街地活性化に関する研究

幼児教育学科からだあそび研究会として、赤ちゃんとママ、子ども、お年寄りまで無理なく楽しめる、信愛オリジナルのコミュニティダンスを考案した。また、これをツールとしたダンスキャラバン(普及活動)、フラッシュモブ(路上イベント)、あわせて SNS を通じた広報活動を実施した。これにより、まちなかで様々な市民が集い、つながることによる、中心市街地の新たな魅力と賑わい創出を狙った。また一連の取り組みを通じ、学生のコミュニティダンスやソーシャルインクルージョンの理念理解の促進を試みた。

3. 子育て支援に関する研究

主に産後 5 ヶ月～12 か月頃の母親を対象とした、ストレッチ・骨盤ケア・体幹トレーニングクラスの検討を行った。文献研究等による基礎研究、及び本学子育て支援講座における実践、受講者アンケートの実施等を行った。

4. 保育者のためのパフォーマンス理論

保育者対象講習会実施及びアンケート調査等、基礎研究を行った。

5. 女子短期大学生のボディ・イメージの変容に関する研究

文献研究、保育者養成課程学生へのアンケート調査等、基礎研究を行った。

平成 28 年度の研究の成果

(論文)

1. 保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察

—「コピペ思考」の脱却と「re-creation スキル」の有効性に着目して—

※【公益財団法人日本レクリエーション協会平成 28 年度研究助成事業】採択

(報告)

1. 「プロジェクト HOTM! X (ホトミクス)」平成 28 年度活動報告

久留米信愛女学院短期大学からだあそび研究会(新井セミナー)

※【平成 28 年度くまちなか万博! > (主催:(株)ハイマート/後援:久留米市・久留米商工会議所) 事業】採択

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

なし(平成 28 年度着任のため)

本教員の主たる研究の成果(5 編以内)

(論文)

- ・「晒す」身体表現の位相」お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 人文学専攻論文要録, 2006
- ・「戦略的パフォーマンスとしてのストリップ試論」第 16 回舞踊学会例会, 2011
- ・「保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察—「コピペ思考」の脱却と「re-creation スキル」の有効性に着目して—」公益財団法人日本レクリエーション協会 課程認定校連絡協議会 平成 28 年助成研究, 2017

(報告)

- ・「エイブル・アート・オン・ステージ（障害のある人との舞台芸術活動支援事業）に関する活動報告」日産自動車 日産 NPO ラーニング奨学金制度活動報告会, 2005
- ・「プロジェクト HOTM! X (ホトムクス) 平成 28 年度活動報告 (久留米信愛女学院短期大学からだあそび研究会/新井セミナー)」平成 28 年度くまちなか万博! > (主催: (株) ハイマート/後援: 久留米市・久留米商工会議所) 採択事業報告書, 2017

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
舞踊学会	不参加
日本子ども学会	不参加
全国保育士養成協議会	平成 28 年九州ブロック大会 (長崎) 参加

平成 29 年度 研究計画

1. 保育者養成の分野

前年度に継続して、保育士及び幼稚園教諭の養成に関し特に身体表現分野についてその目的と意義、方法に関して、より精緻な分析・研究を進める。

2. 子育て支援の分野

前年度に継続して、子育て中の母親が抱えがちな身体的・精神的なマイナートラブルの緩和、ボディ・ワークの構築に向けた研究を行う。特に産後の母親と乳児を対象としたメソッドの検討を精緻に行う。

4. レクリエーション・生涯スポーツの分野

前年度に継続して、現代社会における身体教育活動の意義・目的について、特にレクリエーションや「ゆるスポーツ」等の各種運動を活用した教育プログラムの検討を行う。

5. コミュニティアート、ソーシャル・エンゲージド・アートの分野

前年度に継続して、地域社会における芸術活動のあり方と意義について研究する。特にダンスを通じた多様な人々の出会い、中心市街地活性化についてより精緻に研究する。

平成 28 年度 教育活動報告		
平成 28 年度の F D 宣言とその評価		
F D 宣言	自己評価	
なし(平成 28 年度着任のため)	なし(同左)	
公開授業とその評価		
公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
体育	幼児教育学科 2 年 A クラス	平成 28 年 8 月 1 日 月曜日 4 校時
自己評価	他者評価	
<p>【本授業について】</p> <p>本学に着任後初めての 2 年生の授業であったため、学生の 1 年次の学びのあり方・その成果について不詳な部分が多かった。2 年間の学びで保育者として対象者をひきつけるパフォーマンス(声・言葉・動き等)を培っていきけるような授業内容を検討していきたい。また自分自身、そのスキルを磨きたい。</p> <p>【他の授業を参観して】</p> <p>どの授業にもグループワークが取り入れられていたが、科目により発表時の学生の様子は大きく異なる。伝えたいことを明確にする。適切な表現方法を選択する。表現の細部まで意識して磨き上げる。表現系の科目を通して、学生が広い意味(汎用性の高い)パフォーマンススキルを培えるよう、意識していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点呼時に一人ひとりの顔を確認しながら進めていた点、また学生の「肘の伸びた挙手」が気持ちよかった。 ・座学では見られない学生の個性が出ていて楽しそうだった。 ・学生による模擬授業のあとすぐに、良かった点、考えた方がよい点についてコメントがあったのが良かった。 ・話し方が明瞭で学生は見通しを持ちやすかったが、もう少し話し方に間があるとよい。 ・ビデオやスマホ等、機器の活用に感心した。 ・学生は 1 年次に身に付けておくべき基礎的な表現力が培われていないように感じた(①声が小さい、②言葉がたどたどしい、③動きが硬い)。 	
	参加教員	
	関聡 教授 樫山フミエ 教授 森光義昭 教授	
学生の授業評価に対する自己評価と改善策		
<p>【総合評価平均】</p> <p>「生活とスポーツⅠ」(4.2)、「生活とスポーツⅡ」(4.5)、「体育」(4.5)、「身体表現」(4.5)</p> <p>【課題】</p> <p>全体的に「予習・復習」についての評価が平均 1 ポイント台と低い。担当科目の中では、グループワークの比重が高い「身体表現」(2 年後期)で 2.6 ポイントと比較的高くなっているため、課題に向けた自主的な学習を促進する環境を、他科目でも整えていきたい。また身体を使った実技科目の場合、実際には授業に向けた準備や振り返り学習をしても、学生自身が「予習・復習」という意識を持っていない可能性もあるので、意識づけを行いたい。</p> <p>その他、「生活とスポーツⅠ」はクラスによる評価の差が大きい点が気になった。総合評価 A クラス 3.9 に対し B クラス 4.4 と 0.5 ポイントの差がついた。原因を探り、是正に努めたい。</p>		
平成 29 年度 教育活動計画		
平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画	
<p>【目標】</p> <p>学生の積極的学修を促進する。</p> <p>【成果の指標】</p> <p>授業評価アンケートの「問 16」(予習・復習関連)および「問 17: 総合評価」の項目に関して、その評価を向上させる。</p>	<p>自主的な学修を促すため、以下を実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を使った実技授業における「予習・復習」のあり方・意義について説明する。 ・授業外での学修方法を説明する(図書館の活用、参考書の紹介等)。 ・質問しやすい雰囲気づくりに努める。 	

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
1. ガイアの時間 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 28 年 6 月 18 日土曜日	福岡海星女子学院 高等学校	福岡海星女子学院 高等学校
2. 南筑ライフデザインカレッジ 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 28 年 6 月 20 日月曜日	久留米市立南筑高 等学校	久留米信愛女学院 短期大学
3. 信愛接続プログラム 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 28 年 8 月 18 日木曜日	久留米信愛女学院 高等学校	久留米信愛女学院 短期大学
4. 久留米信愛女学院短期大学オープンキ ャンパス 幼児教育学科体験授業 「子どもと楽しむからだあそび」	平成 28 年 8 月 20 日日曜日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学
5. 信愛つどいの広場子育て支援講座 「産後ママと赤ちゃんに効く 抱っこ de エクササイズ」	平成 28 年 10 月 1 日土曜日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
1. 久留米市民温水プール指定管理者選定委員	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	久留米市
2. ハッピー・イルミネーション・フェスタ ステージプログラムへの出演	平成 28 年 12 月 17 日土 曜日	(株) ハイマート 久留米市 久留米商 工会議所

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
1. 教員免許状更新講習会 「幼児の身体表現」講義及び実技講習を担当	平成 28 年 8 月 26 日金曜日

平成 29 年度 社会的活動計画

1. 保育者向け研修会講師

- ・平成 29 年 8 月 3 日 夏の芸術教育学校
「3・4・5 歳児の表現活動入門セミナー カラダほぐしココロはずむ からだあそび」講師

2. 教員免許状更新講習会講師

- ・平成 29 年 8 月 24 日 教員免許状更新講習会「幼児の身体表現」講師

3. 出前講座・公開講座講師

- ・平成 29 年 8 月 20 日 久留米信愛女学院短期大学オープンキャンパス体験授業 講師
- ・平成 29 年 9 月 11 日 南筑高等学校 南筑ライフデザインカレッジ 講師
- ・平成 29 年 11 月 18 日 福岡海星女学院高等学校 ガイアの時間 講師
- ・平成 29 年（期日未定）久留米信愛女学院高等学校 信愛接続プログラム 講師

4. 子育て支援講座講師

- ・平成 30 年 1 月 20 日 信愛つどいのひろば子育て支援講座
「産後ママと赤ちゃんに効く 抱っこ de エクササイズ」 講師

5. 地域参画活動（中心市街地活性化）

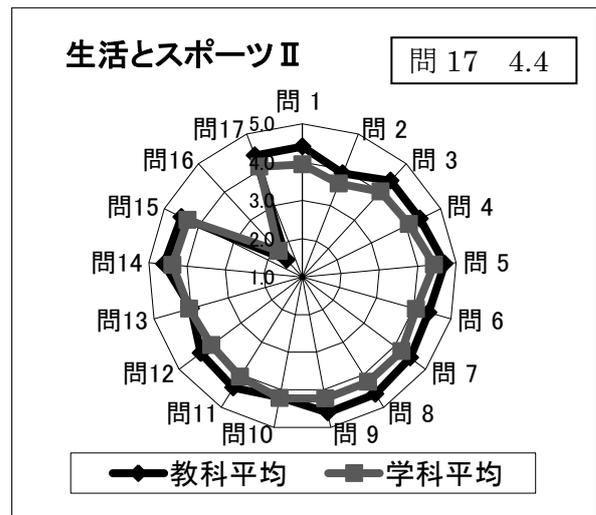
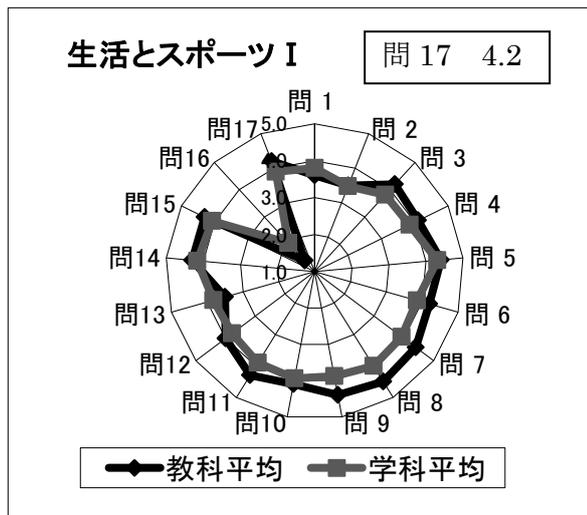
- ・平成 29 年 5 月 3 日 SOLA-IRO 広場（久留米岩田屋屋上）4 周年感謝祭 ステージ出演

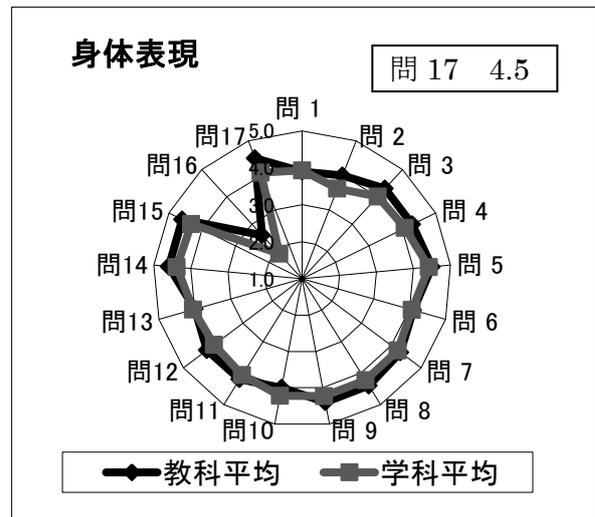
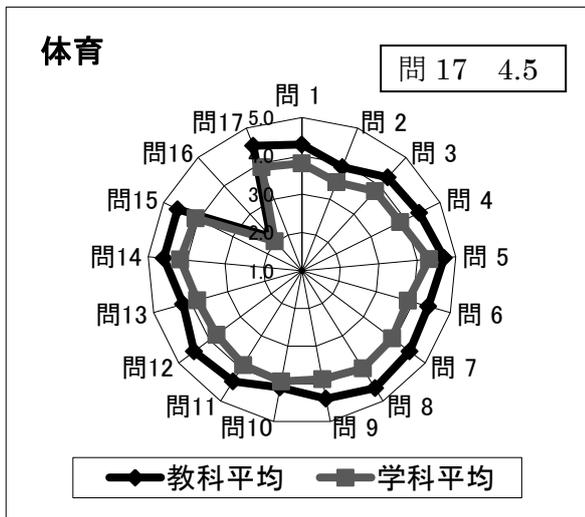
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
生活とスポーツ I	幼教 1 年	卒業必修 免許・資格 必修	総合評価は 4.2 であった。クラスによる評価の差が気になった。総合評価 A クラス 3.9 に対し B クラス 4.4 と 0.5 ポイントの差がついた原因を探り、是正に努めたい。
生活とスポーツ II	幼教 1 年	卒業必修 免許・資格 必修	総合評価は 4.4 であったが、問 16 : 予習復習の項目が 1.6 と著しく低かった。参考書の紹介や図書館資料活用の促進等を行うことで、学生の積極的な学びをサポートしていきたい。
体育	幼教 2 年	卒業必修 免許必 修・資格選 択必修	総合評価は 4.5 であったが、問 16 : 予習復習の項目が目立って低かった。当番制で毎時、グループ発表を取り入れたため、各々予習はしていたと思われるが、意識づけに向け更に働きかけていきたい。
身体表現	幼教 2 年	卒業選択 免許必 修・資格選 択必修	総合評価は 4.5 であったが、問 1 : 居眠り・私語・メールの項目が 3.9 と他科目に比べ低かった。これは、舞台作品制作のグループワークがメインとなる授業内容であったため、中には不要な私語もあったものと考えられる。自由な雰囲気を保ちつつ、学びに支障がないよう適切に注意を行っていききたい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	助教	櫻井 晋伍
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
基礎造形Ⅰ 基礎造形Ⅱ 造形表現 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科1年生 幼児教育学科1年生 幼児教育学科2年生 幼児教育学科2年生	卒業必修、免許必修資格選択必修 卒業必修、資格選択必修 卒業選択、免許必修資格選択必修 卒業選択、資格選択必修
研究分野		
<p>1. 美術教育の分野 美術教育における、作品制作及び鑑賞教育の指導法に関する研究。授業実践を通して、客観的なデータに基づく効果的な指導法の形成を目指し研究を行っている。</p> <p>2. 保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成において、特に造形表現に関わる分野を研究している。</p> <p>3. 絵画制作の分野 日本における伝統的な技法素材を活かした、日本画の絵画制作研究。特に、麻紙や墨、膠などの技法素材の性質から生まれる表現の可能性について捉え、古典的な造形感覚を継承した上での現代的な絵画表現を目指し、作品制作研究を行っている。それと共に、油彩画の技法を用いた絵画制作等を通して、技法材料の比較研究も行っている。</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 保育者養成における造形教育に関する研究

保育者養成課程での造形の授業において、学生に記述させた文章等を主な研究データとして取り上げ「造形教育におけるイメージ力育成に関する考察一言葉を用いた作品制作の実践を通して」を執筆した。この成果は、久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号に原著論文として掲載予定である。

2. 絵画制作の実践を通じた技法材料の比較研究

油彩画の技法を用いての絵画制作研究を行った。油彩画は日本画の水彩技法とは異なる性質を持つ描画材料のため、質的に異なる造形表現が生まれることが制作上明らかになった。この研究成果の作品は、29 年度に国内の公募展において出品予定である。

平成 28 年度の研究の成果

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(論文)

1. 「現代の美術表現における古典思想の意義」修士論文、平成 27 年 1 月、東京藝術大学大学院美術研究科

(作品発表)

1. 「二重螺旋」修了作品、平成 27 年 1 月、東京藝術大学大学院美術研究科、紙本彩色 (2273×1818mm)、第 63 回東京藝術大学修了作品展、東京藝術大学付属美術館

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(論文)

1. 「現代の美術表現における古典思想の意義」修士論文、東京藝術大学大学院美術研究科、平成 27 年 1 月

(作品発表)

1. 「Fullness」卒業作品、東京藝術大学美術学部、紙本彩色 (2273×1818mm)、第 60 回東京藝術大学卒業作品展、東京藝術大学絵画棟、平成 24 年 1 月
2. 「二重螺旋」修了作品、東京藝術大学大学院美術研究科、紙本彩色 (2273×1818mm)、第 63 回東京藝術大学修了作品展、東京藝術大学付属美術館、平成 27 年 1 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
美術科教育学会	第 39 回全国大会参加。
日本美術教育学会	第 65 回全国大会参加。
美術教育研究会 (東京藝術大学)	研究会不参加。

平成 29 年度 研究計画

1. 保育者養成課程における日本画の鑑賞教育に関する研究

保育者は、年間行事等を通して日本文化を子どもに伝えていくことが求められる。そのため、保育者志望者を対象とした、日本の四季や縁起物を題材に扱った日本画の名作に関する鑑賞教育のあり方についての実践的研究を行う。

2. 古典技法を用いた具象絵画制作研究

28 年度の研究を継続し、国内の公募展への出品を行う。

平成 28 年度 教育活動報告		
平成 28 年度の F D 宣言とその評価		
F D 宣言	自己評価	
なし		
公開授業とその評価		
公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
基礎造形Ⅱ	幼児教育学科 1 年 A クラス	平成 28 年 12 月 16 日 (金) I 校時
自己評価	他者評価	
<p>基礎造形Ⅱは、保育者として必要になる、造形の基礎的な知識や技能を身につけることを主な目的とする科目である。</p> <p>本時のねらいは 3 点あり、コラージュの作品制作を通して①コストを掛けずに出来る、造形活動の基礎を身につける②はさみを使うことや、細かなパーツを貼ることを通して、手先の器用さを身につける③選んだ素材から何かを思い浮かべることを通してイメージ力を鍛える、というものだった。作品についてはほとんどの学生が完成出来ており、基礎的な技能も向上していた。しかし、指導側の授業実感としては、制作時にアドバイスをを行う機会をより増やした方が良いようにも感じた。</p>	<p>・学生が主体的に活動する時間があり、これから望まれる学習活動の形であると思います。</p> <p>・作品の中から、学生個人個人の性格や心理が理解できるようでおもしろい授業でした。</p> <p>・実際に保育教材として使うときにどんなねらいが設定できるか、例示があると学生にとってもっと参考に出来ると思う。</p> <p>・はさみやノリを忘れていた学生がおり、他の学生にその都度借りていた。</p>	
	参加教員	
	阿久根政子教授、椎山克己教授、森光義昭教授、池田可奈子准教授、	
学生の授業評価に対する自己評価と改善策		
<p>全ての担当科目において維持・向上させる必要がある項目として、問 9「先生の、板書の仕方や視聴覚機器の利用が効果的だった」と、問 10「教科書、参考書、配布資料は、授業を理解するのに役立った」を取り上げる。</p> <p>特に、スライドを用いた授業については改善する余地があると考えている。造形活動における子どもの姿や、現場で活用出来る保育教材に関して視覚効果を活かした紹介を積極的に行うことは、学生の造形に対するモチベーションを高めることに寄与するからである。そして、準備学習時間の確保に対しても併せて効果を上げることが期待出来る。今後はより入念にスライド・配布資料の準備を行い、学生が意欲的に課題に取り組むことが出来るよう工夫したい。</p>		
平成 29 年度 教育活動計画		
平成 29 年度の F D 宣言	平成 29 年度の教育力向上のための計画	
<p>(目標)</p> <p>・配布資料等の質を向上させ、学生の授業課題に対する理解度及び習熟度を高める。</p> <p>(指標)</p> <p>・授業評価問 9・問 10 における数値を維持向上させる。</p>	<p>・授業に用いる資料やスライドの作成を入念に行う。</p>	

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
信愛つどいの広場 子育て支援講座 「つくってあそぼう」	平成 28 年 6 月 25 日	信愛つどいの広場	久留米信愛女学院 短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
なし		

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
平成 28 年度教員免許状更新講習「幼児の造形表現」	平成 28 年 8 月 24 日

平成 29 年度 社会的活動計画

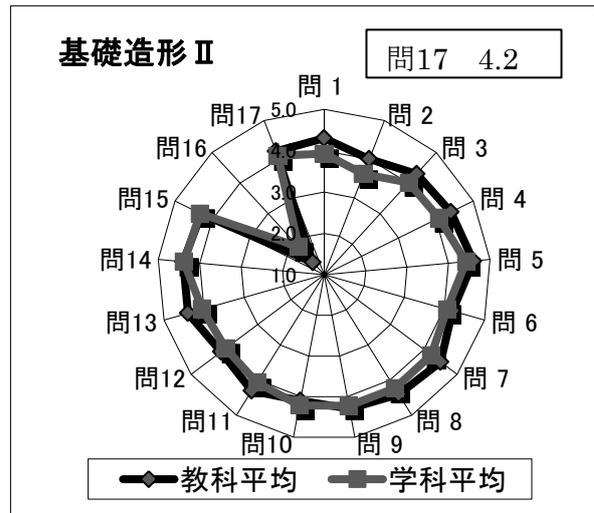
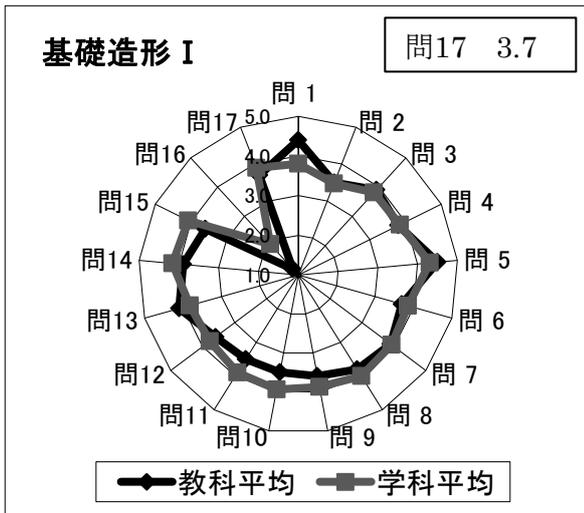
- 「信愛つどいの広場」子育て支援講座
信愛つどいの広場が主催する子育て支援講座において、担当講師として、シャボン玉アートの造形あそびを行う予定である。
- 平成 29 年度教員免許状更新講習
幼稚園教諭の方を対象に、幼児の造形表現に関する講義等を行う。
- ボランティア活動への参加
久留米市内におけるボランティア活動への参加を予定している。

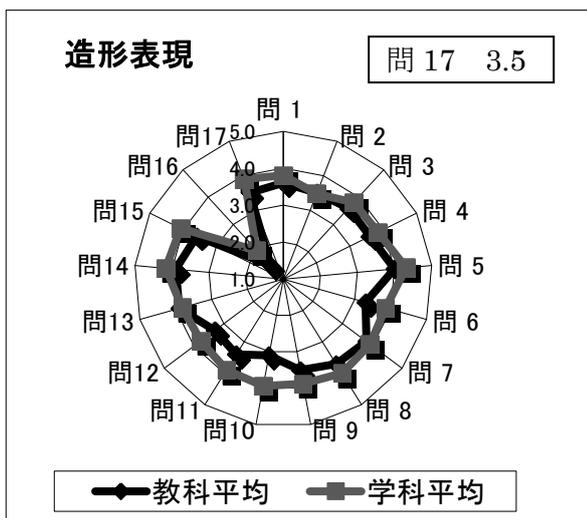
平成28年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
基礎造形 I	幼教 1 年	卒業必修、 免許必修、 資格選択	授業評価の結果を受けて、今後は問 14、15 の数値を高められるよう努力します。課題に対して、学生は精力的に取り組んでくれたと思います。
基礎造形 II	幼教 1 年	卒業必修、 資格選択	ほとんどの項目において学科平均より高い数値が出ていました。今後は、問 10 の数値を向上させられるよう工夫したいと思います。
造形表現	幼教 2 年	卒業選択、 免許必修、 資格選択	今後は、より質問が出やすい雰囲気作りが必要であると考えています。具体的には、問 12 の項目を中心に数値を高められるよう、授業展開の工夫をします。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	助手	岡 輝美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
研究分野		
<p>食品衛生学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 変異原性物質は、高タンパク質食品を加熱すると産生し（焼肉・焼き魚）、健康な人の血液から検出される。この物質による危害の軽減を目指して、「抗変異原性を有する食品の検索」、「食物繊維や乳酸菌による変異原性物質の吸着」に関する研究をしている。 「身体の黄色ブドウ球菌分布」を調べている。 「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との関連性」を調べている。 <p>食品学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 「食と健康」の観点から、各種食品中の機能性成分（メラトニン、EPA、DHA、ポリアミン等）の分析研究をしている。 <p>食品加工学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 「乳加工品」の製造方法を確立するため検討している。 「豆腐の食感と凝固剤」について検討している。 <p>生理生化学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれら成分との関わりについての食生活と生理生化学に関する研究をしている。 <p>栄養士養成分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養士養成校として、栄養士の資質向上に向けての取り組みや学生の意識の高揚支援等の栄養士養成に関する研究をしている。 <p>キャリア形成支援分野</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアガイダンス及び就職支援・学生支援等に関する研究をしている。 		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

食品衛生学分野

- ・「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分布」のテーマで研究紀要に掲載された。
- ・ジャガイモ芽に含まれる緑色色素のクロロフィルおよび有害成分のグリコアルカロイド（ソラニン、チャコニン）の定量方法を確立した。

食品学分野

- ・薄層クロマトグラフによるEPA・DHA及びポリアミンの定量方法の研究については、論文を検索し、シリカゲルを吸着剤として分析できることが分かった。

食品加工学分野

- ・「ココナッツオイル抽出残渣の有効利用」に関する産学官共同研究は、ココナッツオイル抽出残渣添加キャラメルは舌触りがザラザラしているので、残渣を分解する微生物を探索することになった（担当：生物食品研究所）。
- ・アイスクリームの気泡の大きさと滑らかさについての研究では、高大連携プログラムでの実施を目的に、「手作りアイスクリームの加工方法」を検討した。できたアイスクリームの気泡の直径は 52.6 ± 34.0 マイクロメートルで市販品より有意に大きかった。気泡が大きくなると、口中での溶けやすさは増すが濃厚感は低下した。

生理生化学分野

- ・普段の食生活と生体成分との関連性について調べた。
- ・市販ホイップクリームに含まれる脂肪に対する *in vitro* での酵素作用について調べ、研究紀要に掲載された。

栄養士養成分野

- ・学科全員で栄養士の資質向上に向けての取り組みとして「入学から卒業までのガイドブック七訂版」に向けて検討した。
- ・栄養士養成に関する研究については、学科全員で検討しまとめ、研究紀要に掲載された。
- ・専門教育科目「食品学実験（39頁）」・「生化学実験（47頁）」・「食品衛生学実験（23頁）」
 - ・「食品加工学実習（23頁）」の教材を作成し、授業で使用した。

キャリア形成支援分野

- ・「キャリア形成支援BOOK 2016」の見直し及び「キャリア形成支援BOOK 2017」の作成に向けて担当者全員で検討した。

平成 28 年度の研究の成果

（論文）

1. 「栄養士養成研究（4）学習支援に対する効果の2年間の分析」（共著）平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 39 号』（21～25）
2. 「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出（3）乳化作用強化による影響」（共著）平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 39 号』（27～32）

（その他）

1. 「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分析」（共著）平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 39 号』（39～43）
2. 「入学から卒業までのガイドブック七訂版」（共著）平成 28 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科発行
3. 「キャリア形成支援BOOK 2017」（共著）平成 29 年 3 月 久留米信愛女学院短期大学 キャリア形成支援推進室発行
4. 専門教育科目「食品学実験（39頁）」・「生化学実験（47頁）」・「食品衛生学実験（23頁）」・「食品加工学実習（23頁）」のファイル付教材プリント作成

平成 27 年度及び 26 年度の研究成果

(論文)

1. 「米のメラトニン含量」(共著) 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 37 号』(17~22)
2. 「栄養士養成研究(2) 学習支援に対する効果」(共著) 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 37 号』(41~47)
3. 「高速液体クロマトグラフィーによる果実中メラトニンの定量分析」(共著) 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 38 号』(1~6)
4. 「栄養士養成研究(3) 生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」(共著) 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 38 号』(25~33)
5. 「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出(2)」(共著) 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 38 号』(35~39)

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック五訂版」(共著) 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科発行
2. 「キャリア形成支援BOOK 2015」(共著) 平成 27 年 3 月 久留米信愛女学院短期大学 キャリア形成支援推進室発行
3. 「入学から卒業までのガイドブック六訂版」(共著) 平成 27 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科発行
4. 「キャリア形成支援BOOK 2016」(共著) 平成 28 年 3 月 久留米信愛女学院短期大学 キャリア形成支援推進室発行

本教員の主たる研究成果(5編以内)

1. 「Adsorption of Heterocyclic Aromatic Amines by Low Molecular Weight Cellulose」(共著) 『Journal of Food Hygienic Society of Japan, Vol. 38, No. 6』(1997)
2. 「ラット排泄物中での Trp-P-1 及びその代謝物の挙動」(共著) 『食品衛生学雑誌 42 巻 4 号』(2001)
3. 「穂先タケノコの有効利用」(共著) 『日本調理科学会誌 35 巻 3 号』(2002)
4. 「ラットにおける Trp-P1 の代謝排泄に及ぼすゴボウとキャベツ粉末の影響」(共著) 『日本食品科学工学会誌 56 巻 4 号』(2009)
5. 「高速液体クロマトグラフを用いた米飯中メラトニンの定量法」(共著) 『日本食品科学工学会誌 59 巻 3 号』(2012)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本調理科学会	大会等不参加
日本家政学会	大会等不参加
日本栄養改善学会	大会等不参加
日本食品衛生学会	大会等不参加

平成 29 年度 研究計画

食品衛生学分野

- ・「HPLCによるジャガイモ芽のクロロフィル及びグリコアルカロイドの定量」というテーマで研究紀要に投稿する。
- ・「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との関連性」について検討する。

食品学分野

- ・薄層クロマトグラフィーによるEPA・DHA及びポリアミンの定量方法を研究する。

食品加工学分野

- ・豆腐の食感に及ぼす凝固剤及び加熱温度について研究する。
- ・「ココナッツオイル抽出残渣の有効利用」に関する研究は継続する。

生理生化学分野

- ・「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出（4）」というテーマで研究紀要に投稿する。
- ・生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれらの成分との関わりについて調べる。
- ・市販食品中の栄養分における生体内酵素作用について及び特定健康食品中の栄養学的特性について比較研究する。

栄養士養成分野

- ・「栄養士養成研究（5）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響—2」というテーマで研究紀要に投稿する。
- ・「入学から卒業までのガイドブック七訂版」の見直し及び「入学から卒業までのガイドブック八訂版」の作成を学科全員で行う。
- ・専門教育科目「食品学実験」・「生化学実験」・「食品衛生学実験」・「食品加工学実習」のテキストの内容を再検討・修正し、充実させる。

キャリア形成支援分野

- ・「キャリア形成支援 BOOK 2017」の見直し及び「キャリア形成支援 BOOK 2018」の作成を担当者全員で行う。

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
なし			

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米信愛女学院短期大学同窓会役員報告会	平成 28 年 9 月 24 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米信愛女学院短期大学同窓会総会幹事会	平成 28 年 10 月 1 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米市内 5 大学等連携による市民公開講座	平成 28 年 10 月 22 日	高等教育コンソー シウム久留米
筑後川河川美化「ノーポイ」運動	平成 28 年 10 月 23 日	久留米市役所 都市建設部河川課 (久留米市)

久留米信愛女学院短期大学同窓会総会幹事会	平成 28 年 10 月 24 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米信愛女学院短期大学同窓会総会幹事会	平成 28 年 11 月 15 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米市内 5 大学等連携による市民公開講座	平成 28 年 11 月 19 日	高等教育コンソー シウム久留米
久留米信愛女学院短期大学同窓会総会幹事会	平成 28 年 12 月 5 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
青少年のためのサイエンスモール in くるめ 2016	平成 28 年 12 月 25 日	高等教育コンソー シウム久留米・ 福岡県青少年科学館
久留米信愛女学院短期大学同窓会三役会	平成 29 年 1 月 13 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米信愛女学院短期大学同窓会総会幹事会	平成 29 年 1 月 18 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米信愛女学院短期大学同窓会（学内同窓生会）	平成 29 年 1 月 31 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米信愛女学院短期大学同窓会総会幹事会	平成 29 年 2 月 2 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
久留米信愛女学院短期大学創立 50 周年記念同窓会総会	平成 29 年 2 月 12 日	久留米信愛女学院 短期大学同窓会
他大学への非常勤等		
科目名	期間	出向先
なし		
その他特記事項		
内容	年 月 日	
なし		
平成 29 年度 社会的活動計画		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域参画推進団体への協力 ・ ボランティア活動への協力 ・ 久留米信愛女学院短期大学同窓会への協力 		

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	助手	眞谷智美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
研究分野		
<p>1. 幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究 久留米市食育プランへの取り組みの一環としてアンケート調査を実施 子どもの食育に関する事業の推進を図り保護者に対する健康教育に活用する基礎資料作成</p> <p>2. 地域特産物を利用した食育教材開発 久留米市内の保育園・幼稚園児の保護者、保育施設、地域社会と連携し、食と農に関する教育と健全な食生活への理解を促進する目的で地域農作物を使った食育教材作成</p> <p>3. 行事食に関する調査研究 栄養士・保育士養成課程の学生へ年中行事や通過儀礼の認知度・経験、その際の行事食について、喫食経験、喫食状況、調理状況、食べ方などの喫食経験等をアンケート調査 食文化の継承に繋がる食教育法についての資料として調査研究を実施</p> <p>4. 地域特産物を活用した食教育の効果検証 久留米市食育推進プランにおける食育事業への参画および農業団体や食品関連事業者等との協力活動を通して食育を実践 その成果を踏まえ栄養士養成カリキュラムにおける「地産農産物を活用した食教育」への取り組みを行った</p> <p>5. 栄養士としての資質向上に向けての取り組み 栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成 本学科独自の学習支援および進路支援を実施</p> <p>6. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関するアンケート調査 久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするためアンケート調査を実施</p> <p>7. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究 「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習を実施、その食育の取り組みについて報告</p>		

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 栄養士としての資質向上に向けての取り組み
栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成 本学科独自の学習支援および進路支援を実施
2. 幼稚園・保育所・認定こども園における食育に関するアンケート調査
久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするためアンケート調査を実施

平成 28 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究 (4) 「学習支援に対する効果の 2 年間の分析」 共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 39 号』 (21-25)
- (研究ノート)
1. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 2 報」 共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 39 号』 (51-56)
- (その他)
1. 『入学から卒業までのガイドブック第 7 号』 共著 平成 28 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究 (2) 学習支援に対する効果」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』 (41-47)
 2. 「栄養士養成研究 (3) 生活実態が学習支援効果におよぼす影響」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』 (25-33)
- (研究ノート)
1. 「学生の食事にみられる日常食の実際」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』 (77-80)
 2. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 1 報」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』 (53-58)
- (報告)
1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』 (91-97)
- (その他)
1. 『入学から卒業までのガイドブック第 5 号』 共著 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科
 2. 『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』 共著 平成 27 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

なし

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会	第63回日本栄養改善学会学術総会参加
日本調理科学会	大会等不参加
日本家政学会	大会等不参加

平成29年度 研究計画

1. 栄養士養成に関する研究
 - 「入学から卒業までのガイドブック」の改定を学科内教員で行う
 - 「栄養士養成研究(5) 生活実態が学習支援効果におよぼす影響-2」 共著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号 投稿予定
2. 「調理学関連科目の習熟度について(第1報)」 共著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号 投稿予定

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
信愛つどいの広場 子育て支援講座「親子クッキング」	平成 29 年 2 月 18 日・25 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
J A くるめ広報誌「With You」レシピ掲載	平成 28 年 1 月～平成 29 年 3 月	J A くるめ
グリーンコープ「GREENぶらす」レシピ掲載	平成 28 年 1 月～平成 29 年 3 月	グリーンコープ
くるめフォーラム 2016	平成 28 年 10 月 1 日・2 日	久留米女性週間記念 事業実行委員会・久 留米市
「くるめ縁祭」	平成 28 年 10 月 15 日	久留米商工青年部

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
久留米大学「食と健康」調理実習 助手	平成 28 年 5 月 14 日・ 6 月 4 日・11 月 19 日・26 日
筑後地方保育士協会保育士会 給食研修会 助手	平成 28 年 8 月 24 日・26 日

平成 29 年度 社会的活動計画

1. 「信愛つどいの広場」子育て支援講座 講師
2. J A くるめ広報紙「With You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載
3. ふるさとくるめ農業まつりへの協力
4. 久留米大学「食と健康」調理実習 助手
5. グリーンコープ「GREENぶらす」への料理レシピ掲載

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	助手	高松幸子

担当科目

科目名	対象	必修・選択

研究分野

1. 幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究
久留米市子どもの健康と食生活に関する実態調査を受けて、基礎資料の作成や朝食摂取とその他の要因の関連について研究している。
2. 行事食に関する調査研究
栄養士・保育士養成課程の学生へ福岡県の郷土料理の喫食経験等をアンケート調査し、食文化の継承に繋がる食教育法について調査研究している。
3. 栄養士養成に関する研究
学科全教員でガイドブックを作成し、栄養士としての資質向上に向けての取り組み等を研究している。
4. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関する研究
久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際についてアンケート調査による把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするための研究をしている。
5. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究
「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習内容等を研究している。

平成 28 年度 研究報告

平成 28 年度の研究の概要

1. 栄養士養成に関する研究
栄養士の資質向上に向けての取り組みとして、学科全教員で『入学から卒業までのガイドブック』の内容検討し作成した。
学科学生へのアンケートを実施し、「栄養士養成研究」を継続した。
2. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関する研究
久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするため研究を継続した。

平成 28 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究 (4) 学習支援に対する効果の 2 年間の分析」 共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 39 号』(21-25)
- (研究ノート)
1. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 2 報」 共著 平成 28 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 39 号』(51-56)
- (その他)
1. 『入学から卒業までのガイドブック第 7 号』 共著 平成 28 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

平成 27 年度及び 26 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究 (2) 学習支援に対する効果」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』(41-47)
 2. 「栄養士養成研究 (3) 生活実態が学習支援効果におよぼす影響」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(25-33)
- (研究ノート)
1. 「学生の食事にみられる日常食の実際—食事調査からの考察—」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』(77-80)
 2. 「久留米市の保育園・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 1 報」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(53-58)
- (報告)
1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(91-97)
- (その他)
1. 『入学から卒業までのガイドブック第 5 号』 共著 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科
 2. 『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』 共著 平成 27 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会 日本調理科学会	第63回日本栄養改善学会学術総会参加 大会等不参加

平成29年度 研究計画

1. 栄養士養成に関する研究

『入学から卒業までのガイドブック第8号』 共著 久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科 改定発行予定

「栄養士養成研究(5) 生活実態が学習支援効果におよぼす影響-2」 共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号』 投稿予定

2. 調理学関連科目に関する研究

「調理学関連科目の習熟度について 第1報」 共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号』 投稿予定

平成 28 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
信愛つどいの広場 子育て支援講座「親子クッキング」	平成 29 年 2 月 18 日・25 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
J A くるめ広報誌「With You」レシピ掲載	平成 28 年 1 月号～ 平成 29 年 3 月号	J A くるめ
グリーンコープ「GREENプラス」	平成 28 年 1 月～ 平成 29 年 3 月	グリーンコープ
くるめフォーラム 2016	平成 28 年 10 月 1 日・2 日	久留米女性週間記念 事業実行委員会・ 久留米市
野の葡萄全体試食会	平成 28 年 10 月 12 日	株式会社グラノ 2 4 K
久留米縁祭	平成 28 年 10 月 15 日	久留米商工会議所青 年部
サイエンスモール in くるめ 2016	平成 28 年 12 月 24 日・25 日	高等教育コンソーシ アム久留米
福岡県栄養士会 筑後支部 久留米分会役員	平成 28 年 4 月～ 平成 30 年 3 月	福岡県栄養士会 筑後支部久留米分会

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
久留米大学「食と健康」調理実習 助手	平成 28 年 5 月 14 日・6 月 4 日 11 月 19 日・11 月 26 日
筑後地方保育協会保育士会給食研修会 助手	平成 28 年 8 月 24 日・26 日

平成 29 年度 社会的活動計画

1. 「信愛つどいの広場」子育て支援講座 講師
2. J A くるめ広報誌「With You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載
3. グリーンコープ「GREENプラス」への料理レシピ掲載
4. 久留米大学「食と健康」調理実習 助手
5. ふるさとくるめ農業まつりへの協力

平成 28 年度 第 1 回 教員研究会 要旨

平成 28 年 9 月 14 日 13 : 00 ~

場所 : 音楽室

幼児教育学科 原 浩美

テーマ : 「ピアノ演奏活動」について

本研究会より以前の 1 年間の演奏活動について報告した。それらの活動は例年より多く、自主的活動を含め公私共に演奏の場を得たことで演奏法の研究を深めて音楽づくりが出来たと思う。さらに半年にわたる第 9 合唱の練習に同行できたことはピアノ伴奏の研究に役立った。

まず①平成 27 年 11 月 28 日「クララザール・ジョイントコンサート」では地元のソプラノ歌手とピアニスト、佐賀のピアニスト 4 人の演奏会で独奏。②平成 28 年 5 月 21 日 4 月 27 日にオープンした久留米シティプラザ・ザ・グランドホールでの筑後川「フィナーレ」のハープ部分をピアノ演奏。③平成 28 年 6 月 27 日 (2011 年に第 1 回公演) 東日本大震災と熊本地震復興支援公演として、「緑の追想」～明日へ～ ピアノ独奏とダンスの伴奏。④平成 28 年 6 月 28 日「アルビレオ音楽展 X X VIII」では、地元の作曲家の楽曲を東京でピアノ演奏⑤平成 28 年 9 月 11 日「ひびきの会」演奏会では、客演に元、九州交響楽団首席チェリストの原田哲男氏を迎えてのピアノ伴奏。

以上 5 件の演奏会の他に、久留米シティプラザ・ザ・グランドホールで久留米市民による「第 9・合唱」を歌う企画があり、久留米市民へ合唱の募集が行われた。300 人近く集まった合唱団の練習ピアニストとして、27 年 10 月より 28 年の 5 月まで毎月 2 回の練習に伺った。この経験は、一緒に音楽を作るという過程において時間をかけることの重要性を改めて確認したし、歌いやすい伴奏とはどういう演奏か、という伴奏研究になった。音楽が好きで歌うことが楽しいと心から感じておられる方々との練習は、常に熱が入り、指揮者への信頼があると非常に歌い方が自然で伸びがあり、その感じ取る力は速攻性があると感じる事が多々あった。多くの人と音楽を通して互いが高めあう、喜び合える時間を共有でき素晴らしさを共感できたことを、今後の演奏活動に生かしたいと思う。

2017/02/22

平成 28 年度 第 2 回 教員研究会

「舞踊学とわたし」

ーココ（＝現在）、ココマデ（＝過去）、ココカラ（＝未来）。ー

久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科

助教 新井 真実

【要旨】

「舞踊学とわたし」と題し、舞踊学と発表者との関わりを、現在・過去・未来という枠組みで紹介した。

はじめに、「Ⅰ. わたしのココ。（＝現在）」として、信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ。」について、スライドショーと音楽による紹介を行った。コミュニティダンスとは、ダンス経験の有無・年齢・性別・障害などに関わらず、「誰もがダンスを創り、踊ることができる」という考えのもと、アーティストが関わり、“ダンスの力”を地域社会の中で生かしていく活動である。「ダンスの力で、ひとを、まちを元気にしたい！」というからだあそび研究会の思いから立ち上がった＜プロジェクト HOTM! X(ホトムクス)＞は、平成 28 年度＜まちなか万博！＞（主催：株式会社ハイマート 後援：久留米市 久留米商工会議所）採択事業に選ばれ、信愛コミュニティダンス「ココ、カラダ。」が生まれた。プロジェクトの説明に続いて、ダンスを実際に踊って体感してもらうべく、短時間のワークショップを行った。

次に、「Ⅱ. わたしのココマデ。（＝過去）」として、プロフィールおよび研究領域について説明を行った。舞踊学という言葉がマイナーな学問領域について、特に舞踊教育学の位置づけと方法論について説明を行ったあと、発表者のこれまでの研究業績の中から、舞踊におけるジェンダー研究、アウトサイダー・アート研究に関する取り組みを一部紹介した。また、ライフワークとして行っている評論活動(演劇・ダンス)、上演活動(コンテンポラリーダンス)についても紹介した。

最後に、「Ⅲ. わたしのココカラ。（＝未来）」として、現在進行中および進行予定のしごとについて、説明を行った。今後は、保育者養成課程における「身体表現」に関する研究、産後の母親に対するボディ・ワークの構築、コミュニティダンスを通したインクルーシブ教育の検討等を進めていく予定である。

最後に、参加者全員で「あとだしじゃんけん」のアクティビティを行い、“なぜ、負けることは難しいのか。”という問いから、“思いが、パフォーマンスを変える。”というメッセージを伝え、幕とした。

平成 28 年度第 3 回教員研究会要旨

平成 29 年 3 月 8 日 11:00～

於：美術室

幼児教育学科 櫻井晋伍

「作品制作のプロセスについて」

完成した美術作品を鑑賞することは、美術館の観覧やテレビ番組の視聴などを通して、日常的に多くの人が体験していることである。しかし、作品が完成に至るまでの制作プロセスについて、どのような工夫をしているか、制作者側の解説を通して具体的に理解を深める機会は少ない。

そのため、本研究会では筆者が現在まで行ってきた作品制作研究の内容について取り扱い、基礎的な描画の方法や、個人・集団で行った創作作品の制作プロセスなどをスライドを用いて発表した。

まず、平面制作・立体制作のいずれにおいても必要となるデッサンの基本について、筆者が制作した石膏デッサンや人物デッサンを用いて解説を行った。次に、25名の集団で作上げた唐獅子の神輿制作のプロセスについて、使用した素材の性質や制作上の留意点などの解説を踏まえて発表を行った。日本画の描画素材である岩絵の具や膠、絵因果経・源氏物語絵巻といった日本画における古典作品の模写の内容についても取り上げて解説をした。そして、筆者自身の個人制作作品である大作の絵画については、制作プロセスを記録した写真 20 枚を用いて、スライドを通して発表を行った。最後に、実物投影機を使用してデッサンのデモンストレーションを行い、絵画表現において奥行きを表現する際のポイントや、質感を表現するための基礎的なテクニックなどについての実践発表をした。

筆者は、美術における基礎と応用を学び、個人や集団で行った作品制作研究を通して、創作活動の豊かさを感受することが数多くあった。これらの経験や専門性を、本学での造形の授業における教育内容の充実にも、積極的に活かしていく考えである。

学生の授業評価に基づく優秀科目

次の科目は「学生による授業評価アンケート」において、「総合評価」の評価が高かったので、「優秀科目」として称えます。(アンケート回答者数が5名以上の科目を表彰の対象とします)
同順の科目は回答者数の人数が多い順に掲載しています。

平成28年度前期

順位	科目	対象	指導形態	必修・選択	担当者	回答者数	総合評価点
1	保育内容総論	幼児教育学科 1年	演習	卒業選択・免許必修・資格必修	渡邊	49人	4.6
2	体育	幼児教育学科 2年	演習	卒業必修・免許必修・資格選択必修	新井	69人	4.5
3	保育指導法Ⅰ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・免許必修・資格選択必修	渡邊	67人	4.3
3	保育内容人間関係	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択・免許・資格必修	池田	51人	4.3
3	コンピュータ応用 演習Ⅰ	ビジネスキャリア 学科 2年	演習	卒業選択・資格必修	眞部	9人	4.3
6	保育の心理学	幼児教育学科 2年	演習	卒業必修・免許必修	池田	67人	4.2
6	生活とスポーツⅠ	幼児教育学科 1年	演習	卒業必修・免許・資格必修	新井	50人	4.2
6	基礎調理学実習Ⅰ	フードデザイン 学科 1年	実習	卒業必修・免許必修	山村	19人	4.2
6	心理学	フードデザイン学 科 1年	演習	卒業選択必修・資格必修	池田	18人	4.2
6	モンテッソーリ 教育法Ⅰ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・資格選択必修	関	10人	4.2

平成28年度後期

順位	科目	対象	指導形態	必修・選択	担当者	回答者数	総合評価点
1	身体表現	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・免許必修・資格選択必修	新井	67人	4.5
1	発達心理学	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択 免許・資格必修	池田	48人	4.5
3	生活とスポーツⅡ	幼児教育学科 1年	演習	卒業必修・ 免許・資格必修	新井	48人	4.4
3	英語Ⅱ	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択必修 免許・資格選択 必修	阿久根	20人	4.4
5	保育相談支援	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・ 免許必修	池田	61人	4.3
5	モンテッソーリ 教育法Ⅱ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・ 資格選択必修	関	10人	4.3
7	保育指導法Ⅱ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択免許必修・ 資格選択必修	渡邊	67人	4.2
7	保育内容 表現	幼児教育学科 1年	演習	卒業選択 免許・資格必修	椎山	51人	4.2
7	基礎造形Ⅱ	幼児教育学科 1年	演習	卒業必修 資格選択必修	櫻井	49人	4.2
10	保育課程論	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択・ 資格必修	渡邊	50人	4.1
10	応用調理学実習Ⅱ	フードデザイン学 科2年	実習	卒業選択 免許必修	山村	25人	4.1
10	コンピュータ応用 演習Ⅱ	ビジネスキャリア 学科2年	演習	卒業選択・ 資格必修	眞部	7人	4.1

平成28年度 教育と研究

平成29年 7月20日 印刷

平成29年 8月 1日 発行

発行所 久留米信愛女学院短期大学

〒839-8508 福岡県久留米市御井町 2278-1

T E L : 0942-43-4532

F A X : 0942-43-2531

印刷所 もろふじ印刷株式会社 〒830-0074 福岡県久留米市大善事町夜明 1116